

【特別掲載：昭和11年9月30日受附】

肺結核患者の体質特に姿質に関する研究

千葉醫科大學石川内科教室(主任 石川 教授)

久 貝 貞 治

目 次

第1章 緒 言

第1節 体 質

- 文 献(1) 体質學の歴史
- 文 献(2) 体質の定義
- 文 献(3) 体質研究の方法
- 文 献(4) 結核と体質

第2節 姿質の研究

- 文 献(1) 研 究 材 料
- 文 献(2) 年 齡 と 發 育
附 職業其の他の發育に及ぼす影響
- 文 献(3) 年 齡 と 姿 質
- 文 献(4) 年 齡 と 結 核 に 就 て
- 文 献(5) 結 核 の 發 育 に 及 ぼ す 影 響

第2章 余の研究法

- 1. 本研究の根據
- 2. 材料及び其の分類
- 3. 測 定 法
- 4. 對 照

第3章 研 究 成 績

第1節 各種測定値

- 1. 重症肺結核患者測定成績
- 2. 輕症肺結核患者測定成績

- 3. 健康者測定成績
- 4. 非結核性疾患々者測定成績

第2節 各種測定値の比較

- 1. 体 重
- 2. 身 長
- 3. 胸 圍
- 4. 指 極
- 5. 坐 高
- 6. 軀 幹 前 壁 長
- 7. 腕 長
- 8. 腹 圍
- 9. 臍 位
- 10. 脚 長(下肢長)
- 11. 手 掌 の 長 さ
- 12. 足 趾 の 長 さ
- 13. 肋 骨 角

第5章 總括及び考察

- 1. 姿質各項に於ける各群の差異の比較
- 2. 姿質各項に於ける各群の差異の成立
に關する考察

結 論
文 献

第 1 章 緒 言

現代醫學の發展進歩に就ては、体質に關する方面の研究、即ち体質學が一大なる飛躍に資したることは吾人の確信する處なり。就中近時、疾病豫防、職業撰擇、体育等の諸問題の論ぜらるゝや、体質學の勃興と關聯して、其の進歩刮目して觀る可きものあり。即ち勞働科學、スポーツ醫學、豫防醫學の研究盛となり、加速度的に斯學の研究業績相次で表るゝを見るに至れり。余は故恩師竹村教授並に石川教授御指導により肺結核患者の体質研究の一部として、姿

質と肺結核患者に關し研究したるを以て茲に之を報告せんとす。蓋し素質なるものは體質の成種の表れと見做し得るが爲なり(後述)。

猶ほ本論文の一部は昭和9年千葉醫學會總會並に第14回日本結核病學會に於て已に發表せるものなりしことを附記す。

第1節 體 質

文 献 (1) 體 質 學 の 歴 史

抑も體質なるものゝ概念は已に遠く Hippokrates の時代に存せしものにして、彼の Humoralpathologie は多分に體質の概念を含有し居たり。即ち Humoralpathologie に於ては Vier Kardinale Körpersäfte (Schleim, Blut, Gelbe u. Schwarze Galle) の不調和なる混合によりて疾病の成立するを説きたり、故に彼は何等の疾病分類をなさず只外界の強響に反應して起る Viersaftmischung の相違によりて病的症候を來すものなりとせり。

次で Galen の Krasenlehre に至りて學の上に體質的意義を明記せらるゝに至れり。即ち疾病は外因によりてのみ成立するものに非ずして身体の内部的因子との關係より成立するものなりとなし、體質的意義を強調したり。

されども當時に於ても、Plato の如きは疾病の所謂異物説(Fremdkörpertheorie)とも稱すべきを唱へ、疾病を以て有機体内に於て獨自の存在を營むものなりとせり。

而して Humoralpathologie 及び Krasenlehre は其の後全醫學界を風靡したりしが、Virchow の細胞病理學及び細菌學の勃興するに及んで、是等の學説は稍々衰頹を見るに至りしも、尙ほ佛蘭西に於ては其の時代にも引續き斯學の研究は行はれ發展を見たり。其の後獨逸に於ては Pfandler, Czerny に及んで再び體質は唱導せられ、此の方面に於ける研究は再び擡頭するに至れり。

しかも其の研究は漸次確固たる科學的基礎を有するに及び、古代醫學に於ける體質なるものと自ら相異りたる意義を有するに至れり。

文 献 (2) 體 質 の 定 義

疾病成立に對する有力なる因子は之を内因及び外因に分ち得、而してこの兩者は互に反比例的關係にありて、外因が或一定度以上強力なる場合は一方面的原因並に作用のみによりて疾病は成立するも、外因が僅少なる場合には内部的因子の價値は増大し來るものなり。この關係を Gottstein, Martuis, V. Strumpf u. a. に從へば、

$$K = \frac{S}{W} \quad (\text{nach Bauer}) \text{ なる公式により表示し得。}$$

但し K は疾病を示し、S は病源となり得る有害作用、W は疾病の發生又は成立に對抗する有機体に存する抵抗力なり、かゝる抵抗力に反比例する内在因子を即ち疾病素質(Krankheitsdisposition)又は疾病準備體質(Krankheitsbereitschaft)と稱せらる、かゝるものは各個人によりて相異り、又同一個人に於ても時期によりて相異するものとせり。而してこの疾病素質の個人的相違は胚種原形質に已に賦與せられたる素因、即ち受胎と同時に已に賦與せられたる特質及び其れ以後に於ける子宮内及び外生活に於て其の個体に及ぼされたる種々なる影響並に適應の總體より生ずるものなり。

併して Tandler によればこの初めの部分、即ち遺傳原子の gesamte Komplex を狹義の Konstitution と稱し、第二の部分、即ち遺傳的素因の上に外界の影響(sog. Peristase)によりて惹起されたる適應(Anpassung)及び後天獲得(Akquisition)による個体の形態的並に機能的變化をなしたるものを Kondition と稱せり。この兩者が疾病に對する素質(Disposition)の基底をなすものなりとせり。(Bauer はこの兩者を併せて體構 Körpervervassung と稱せり)。

かくて個人の疾病に對する素質なるものは主として Konstitution (Tandler) による場合と Kondition (Tandler) による場合とあり、又時として Konstitution と Kondition の兩者の聯合によることゝある理なり。

斯の如く體質は種々の因子によるものにして自然其の定義に關して種々なるを免れずと雖も、之を要するに上述の如く大體二方面の説に分る。然して遺傳原子のみよりなるものとする Tandler の Konstitution に相當する部分を體質となすものに Mathes, F. Müller, Goldschmidt, Bauer, Plate, Zohlein, Tandler u. a. あり。これ等の諸家は Konstitution とは胚種原形質に受胎と同時に賦與せられたる遺傳原型的特徴 (genotypische Merkmale) の總計なりとなし、又 Tandler は 1913 年 Deutsche Gesellschaft für Rassenhygiene に於て述べて曰く、受胎の瞬間に於て決定せられたる肉体的特徴が即ち體質其の者を表す、即ち體質とは其の種族及び其れ等の個人が其の個体に遺傳されたる形態的及び機能的特性に外ならずと解釋す。

かくて又上記の諸家は遺傳原子のみよりなれるものを遺傳原型 (Genotypus) と呼び、其の後に於ける外界の影響により生じたる性質を Paratypus od. Modifikation と稱しこの兩者を嚴然區別すべしとなす。

之に反して他の一群の論者は先天的及び後天的の性質、即ち遺傳されたる基礎の上に發達したる個体自身の狀況、即ち前學派の體質と後天獲得の性質の和 (Johansen の Phänotypus) を體質と考ふ可しとなす。

之に屬するものに Lubarsch, Krehl, His, Pfaundler, Martius, Brugsch, Marchand, Freund, van den Velden, O. Müller, Kraus, u. a. あり。しかして是等の論者の間にも Marchand, Brugsch 等は子宮内生活に於て獲得したる性質のみを遺傳原型と合してこれを Phänotypus と呼び其の後に子宮外生活に於て得たる性質を除外せり。

斯の如く一部の論者は Konstitution は遺傳原型的の性質を意味すると云ふも、一面個体を特徴づくる種々の性質は外因的條件、即ち例へば種々の疾病、其の他職業、衛生的生活條件、飢饉、戰爭等の因子により個人的に著明に變化せらるゝことを認め、Genotypus と Paratypus とを別つと雖も實際上この兩者を區別することは所詮不可能なる可きなりとなす。かくの如くして現今に於ては遺傳原型のみを體質となすものは少く、多くの論者は先天的並に後天的のものゝ凡てなる Veränderlich u. Wechselnd なるものを體質と見做しおれり (Henle, Wundelich, Martius, Chvostek, Freund u. van den Velden, Lubarsch, Roszle, Siemens, Krehl, Viola, Pende, Tendeloo, Payr, K. H. Bauer, Biedl, Pfaundler, Borchardt, Lenz, Askanazy, Gigon, u. a.)

即ち是等論者の説くところは Genotypisch のものと、Kondition 即ち後天獲得の諸性質とは分明に區別し得ざるものにして而も疾病素質に關する點は同一なる可きものなりとなす、例之 Roszle は外界の影響によりて生じたる諸性質と元來のものとは amargamieren せられありて單なる和合にてはなく、又 Rich, Koch 等は Konstitutionell と云ふも Konditionell と云ふも共に嚴密なる意味に於ては同じく Konditionell のものなりと云ひ、又 E. Koch は Es gibt keinen äusseren Reiz, der nicht in der Konstitution eine charakteristische Resonanz finde, und es gibt keine erworbene Eigenschaft, die nicht durch die Konstitution an die gesamte Körperverfassung des Organismus adaptiert wurde と云ひなせり。

以上を通覽するに、用語上に於ても同一の意義内容を有するものに異りたる、又は同一ならざる意義内容を有するものに等しき名稱を用ゆる等不統一混亂を免れざるは事實なり。

Brugsch は世界大戰より得たる經驗及び彼が師 Fr. Kraus の思想を繼承して從來の體質學の方向を轉換すべきを説きて曰く、吾人が體質なる語のもとに理解する凡ては或は單に遺傳的のものなるか又は非

遺傳的のものなるか、或は又單に機能的のものなるか又は形態的のものなるか、或は全体質か部分的體質 (Pratielle Konstitution) なるか等々種々ありと雖も、元來個人の生命現象たるや全一態として分析抽出しては理解し得可からざる無数因子の積分的協調總和によりて成立するものたる以上、深く個人 (Person) の Ganzheit, Einheit, Einmaligkeit と云ふことに思ひを致す可く、且つ此の總和的見地に立脚してのみよく體質を研究するを得るとするものにして、従つて氏によれば體質の研究とは氏の "Person" の研究と同一義なりとす。

文 献 (3) 体 質 研 究 の 方 法

前述の如き見解に基づき Brugsch は廣汎に體質研究の方法を考量して、或は各個人の形態素質の統計的方面を、或は其の發育成長の活動變化的方面を、或は諸種個体反應の差異よりして正常値の批判をして以てする力學的觀察方面を、或は遺傳學的方面並に又精神學的・心理學的研究よりする個人性格の相違並に規準を求むる方面等に之を分ちて爲す可き事を提唱せり。

Bauer によれば具体的に之を決定する事次の如くなり。

1. 個体の形態的並に機能的差異 (Variant) を綜括的に知ること。
2. 或る一定の性質及び特徴の頻度及び分布度。
3. 或る一定の個体的差異の發現に對する原因並に其の成立に關する機序を攻究すること。
4. 或る一定の疾病に於ける病因、病理、症候、豫後及び治療の個人的相違。

是によつて之を觀れば、方今體質の研究は醫學及び生物學の廣き領域に亘る各種事項を攻究するものにして、従つて其の對象となるべきは醫學の各分野に亘るものなる可きなり。

扱て前述の如く Bauer は個体の形態的並に機能的相異を綜括的に知ることを研究項目とせるが、氏は更に之を論じて此の項を分類攻究す可き事は次の如くなりとす。

a) 体の外形 (äussere Körperform) 即ち素質 (Habitus) の差異, b) 内部臟器系の形態的差異, c) 各臟器及び各臟器系の機能的性質の差異, d) 精神的機能の差異なり。

以上の中、

a) 素質を研究するとは、骨格、筋、皮膚及び之に附屬するものにして、素質の特徴となり得る身長、頭蓋及び顔貌の形狀、胸圍、腹圍、四肢の身長に對する比例値、皮下脂肪の性質及び其の分布の狀態、筋のトーンズ、皮膚及び毛髮の色調及び其の他の性質等の研究をなすことなり。

Bauer 及び稻田教授によれば素質 (Habitus) なるものは前述の Konstitutionelle u. Konditionelle Körpervfassung の äussere Kennzeichen にして、換言すれば現象型 (Phänotypus) の外形を意味し又かゝる意味に於ての遺傳的意義を有するものなりとす、然して又此の素質の相違は身體發育の狀態を示し又内分泌臟器の狀態を窺ひ得可きものなりと。何れにせよ、素質は古くより多くの體質研究者により研究の對象とせられたる事は周知の事實なり。

斯くの如き素質研究の方法としては身體各部を測定するが最も重要な一方法なるが、最初にこの方法を用ひたるは Beneke にして氏は屍体に就き之をなしたり。次で生存者につき古くこの方法を用ひたるは Viola (1908) にして氏は人類學的身體測定法 (Anthropometrie) を用ひて體質型を分ちたり。

氏は十の計測量價 (Masse) 即ち Sternhöhe, Xipho-epigastrischer Abstand, Pubo-Epigastrischer Abstand, Länge der untere Glied-Massen, Länge der Obere Gliedmassen, transversale Brustdurchmesser, antero-posteriore Burstdurchmesser 其の他體重及び身長を計測し、是等の測定値より Rumpfwert 及び Gliedmassenwert を算出し、是等相互の關係よりして Habitus megalosplachnicus od. apoplecticus 及び Habitus mikrosplachnicus od. Phthisicus の2素質を分ち且つこの兩者を兩端とし其の移行型として中間型を Typus normosplachnicus とせり。

Brugsch は Martin の人類學的測定法に従ひて hoch-mittel-kleinwuchsige を分ち、更に此の各々 eng-normal-weitbrustige Individuen に分ち之に就て心臓及び血管の太さ及び大きさに就て論ぜり。

Kretschmer は更に是等の外に Masse d. Schädel をも重視し、Athletisch, Pyknische 及び Asthenische Typus なる名命の下に分類をなしたり。

又 Stiller はある特徴を有する一群の人々に對して Astheniker と命名し、他のものを Stheniker とせり、更に Sigaud 及び其の一派 Chailon u. Mac Aullife は体外型の周到なる觀察により呼吸器型、消化器型、筋肉型及び腦型の 4 型を分ち更に之等の混合型あるを認めたり、而して之等の分類の目標となれるものは、胸廓、腹部、筋肉及び頭蓋の相關の狀態なり。

b) 内臓の形態上に於ける個人的差異は或は生体につき或は又屍体につき檢索せられたり。而してこの方法によりて Rokitsansky 及び Benecke は吾人々類に 2 型を區別せり。即ち小なる心臓、狭き動脈管、長大なる肺、小なる肝臓、短き小腸を有する 1 型と、大なる心臓、廣き動脈管、短小なる肺、大なる肝臓、長き小腸を有する他の 1 型となり。しかしてこの第 1 型は Asthenie (Stiller)、肺癆素質 (Habitus Phthisicus), Microsplanchinicus 等に相當するものにして、第 2 型は Habitus Quadratus, Apoplecticus 又は Megalosplanchinicus, Sigaud の消化器型又は消化筋肉型に相當するものなりとする。

c) 各臓器又は臓器系に於ける機能的差異

本項に關しては凡ゆる臓器の機能檢査が之に屬するものにして、心臓、血管運動神經の機能檢査、其の他耐糖試驗、プーリン及びヒヨレスチリン代謝、各臓器の機能檢査、血液檢査、植物神經機能檢査を云ふものにして、古く F. Kraus の疲勞を體質分類の標準となさんと試みたるが如き之なり。

又 Tandler は筋の Tonus によりて normale-hypo- u. hypertonus に分てり。又 Epinger u. Hess は交感神經系の Tonus を基礎として體質を分類せり。

尙ほ Slouzow, Kolgow 及び Asslow は酵素の質的及び量的關係より分類をなし、Bogomoletz は生理的狀態に於ける結締織の狀態より Asthenischen, fibrösen, pastösen 及び lipomatöse の 4 型を分てり。更に精神作用に對しては經驗心理學的檢査方法を應用して之を分つが如き等之なり。

文 献 (4) 結 核 と 体 質

古來結核と體質殊に素質との關係に就ては屢々論ぜられし所にして、他の疾患に於けるよりも其の文献は夥しき數に昇れり。即ち本問題の起りは古く Hyppokrates の所謂 Habitus Phthisicus にして、胸廓歪形にして肩胛骨の翼狀となり fehlerhafte Konstitution なる人は重篤なる加答兒に罹り易く、角張りたる廣き胸廓を有し、劍狀突起短く且つ筋肉にて良く被はれたる人に於ては疾病の豫後良し、而してこの重篤なる加答兒即ち結核に罹り易き素質を Habitus Phthisicus と云ふ。かゝる見解は其の後永く實際見るところとして認容せらるゝと雖も、其の理由に就ての證明に至つては甚だ困難なる事なる可し。

1882 年に Robert Koch が結核菌の培養並に感染試験に成功して以來漸く本問題は科學的の根據の上に研究せらるゝに至れるが、然も氏は病原菌の發見をなしたる後も尙ほ結核の成立には先天的並に後天的素因が重大なる役目なすことを言明せるは、蓋し大なる卓見なりと言はざる可からず。

然るに其の後に於て Cohnheim の如きは結核菌の意義のみを重要視して他を顧みざる趨勢を招致せり。即ち又 Cornet の如きは Konstitutionell 及び Konditionell の條件は何等の意義を有せずとなし、Behring は素因 (Disposition) は感染の機會即ち Exposition と同一義なりとせり。然るに其の後 1900 年に至るや O. Nageli がなしたる檢索は以上の見解に再び大なる動搖を來すに至れり。即ち氏は殆ど凡べての成人に於て非常に大多數の結核病癰を證明し且つ同時に非常に多くの治癒せる病癰を認めたり。尙ほ當時 Schmorl の研究室に於て Burckhardt も同様の結果を多數の材料につき檢索し得て曰く、大多數の人は其の生涯に於て結核菌と闘争し之に打勝ち居るものなりとの結論を下せり。

茲に於て始めて結核罹病と治癒との病機の上に體質が大なる關係を有するものなることが再検討論議せらるゝ機運に至れり。かくて Naegeli は猶ほ家族的に結核が屢々現るゝ事實に留意し實例を以て家族的素因が關係あることを立證せり。

又 Turban は兄弟の結核例に於て全部が同一肺野に病變を來し然も其の併發症も同様なりし實例を發見したり、斯の如き検索は尙 Finkbeiner, Standgard, Kuthy, A. E. Mayer Edel 等によりてなされ、肺組織の Locus minoris Resistentiae の遺傳によるなる可きが唱導せらるゝに至れり。

かくて猶ほ其の他諸家の結核體質（特に内部臓器、胸廓の構造）に關する研究は枚舉に遑あらず。

Freund u. Hart は第一肋骨の變則的早期化骨及び其に起因する Schmorlische Furche の重大なる意義を唱へ、又 Birch, Hirschfeld (Steilenrechtwinklige Abgang d. Apikalen Bronchus u. Spitzenlokalisation), Schuller (Das fehlen des Komplementarraum über Spitze), Ribbert (Die geringe Blutversorgung der Spitze), Bremer (Das schwache Herz), Tendeloo (Die individuell sehr verschiedene Ausprägung der elastischen Fasern der Lunge) 等も之に關して論じたり。又佛の諸家は個人的肺の無機成分缺乏の程度が結核の進展を促進するとの説を述べたり。

又姿質に關しては Hippokrates 以來屢々論ぜられし所なれども、就中 Stiller は無力性体型は前述の Habitus Phthisicus と同様なるものとし結核發生に對し體質的素因なるべしとせり。本体型は Sigaud の呼吸器型、纖弱型 (leptosomertypus) と大体一致するものなり。然れども本姿質と結核との關係につきては幾多論議せらるゝところにして、之に疑義を有するもの多數あり。

今此の體質の結核に對する素質を認むるものゝ例を舉げんに Brugsch 氏あり、氏は 226 名の成人肺結核患者につき計測したるに 151 名即ち 67% (2/3) に於て狹隘なる胸廓を發見したり。而して氏は此の事實は結核罹病前より存在せしものなりと推斷し、無力性體質は肺結核に對して素因を有するものなりと結論せり。

Florschütz, Gottstein 等の生命保險醫の統計的觀察によりて得たるところによれば、被保險者中後に肺結核にて死亡せるものは加入時に於て胸圍に關しては其の 3/4 に於て平均値以下の數を見出し、腹圍及び体重に於ては約 3/4 は平均値以下なりと云ふ。Leschke は歐洲大戰時結核に罹患せる兵卒の 40% に無力性體質を見出したりと云ふ。

Bauer は Sigaud の 4 型と罹病關係を調査したるに肺結核患者には最も多數に純或は混合呼吸器型を見出し、胸圍は平均値より遙かに下位にあり、然して肺結核に最も多く罹患する者は長形の肺所有者なりと記載せり。

讀つて結核と無力性體質との因果關係を認めざるものには F. Müller あり、氏は強壯なる人も無力性體質者も同様に結核の爲めに奪ひ去らるゝ、しかも一方に於ては筋肉薄弱なる人も長壽を保ち結核を免かるゝものありとの事實より之を認めずとなし、又 Hayeck は無力性體質が結核に對し何等の素因を有するに非ざる多數の反證を挙げたり。

又無力性體質を種族の特徴となすものに Wenckebach あり、氏はフリースランド民族（獨逸の一地方）は無力性體質を有するもの極めて多く、肺結核患者にて無力性體質を有せざるものなき程なれども、無力性體質者にて肺結核ならざるものも亦少からず、しかるにエルザス民族は短軀にして頑健なる体格のもの多く、無力性體質者を發見するに困難なる程なるに其の結核の死亡率は最も大なるを發見せりと、以上の觀察よりして、結核と無力性體質とは關係を有するものとするよりは寧ろ種族的特性なりとの結論を下せり。

又無力性體質は結核罹病による二次的体型の變化なりと唱ふる諸家あり (Kleinschmidt, Masslow, Kotikow, Kottmayers)。

尙ほ無力性體質者は結核罹患後の経過上何等かの特徴を示すものなりや否やの問題に關し, Tendeloo は臨床上屢々纖弱なる無力性體質者が肺結核に對し頑健なる体格の所有者よりも良経過を取るを目撃せりと唱ふ, この事實は已に古くよりも稱へられたるところにして, Partel は剖檢上無力性體質者が結核を死因とす可きもの少しと明記せり。

歐洲大戰に際し得たる經驗は更に結核性素質者の結核に對する特異性を明示したり。即ち戰線に於て肺結核を得, 又は増悪せる兵卒中戰前全く結核素質と見做さるゝものを有せざる眞の健康者と, 或は所謂素質を有するもの, 或は戰前已に結核の疑を有せしもの及び已に結核に罹患し居りしもの等に就き病機の輕重, 豫後の良否を比較したるに, Leschke, Zadeck, Hayeck, Ruffer, W. Schmidt 等の報告は悉く一致し素質を有せざる者の病機は著しく重症にして速かに進行し, 或は死亡率大なるに反し, 素質を有する者, 又は結核に罹患し居たる者は輕症なりしと云ふ。而して無力性體質者の肺結核は概ね良性又は慢性にして治癒的傾向を示したりと。

猶ほ特記すべき體質として屢々論ぜらるゝものに胸腺淋巴體質なるものあり, 本體質は Paltauf (1889) の唱へたところにして, 該體質者が屢々結核に犯さるゝことは腺結核に於て周知の事實なり, 然るに本體質の特徴につきては實際に徴するに小兒に關しては稍々闡明せらるれども, 成人の本體質に關する記載は種々にして一定の所見を見出し得ず, 例之 Wiesel に依れば本體質の所有者は強健なる筋肉を有し, 正常の身長, 正常の骨格を有し, 第二性的特長に於ても特記すべきものなしと云ひ, Stoerk 及び Horak は成人に於ける本體質を二大別し, 長型及び短型とし, 前者は纖細羸瘦にして, 後者は廣潤肥満なりとす。尙ほ兩氏は本體質者に於ては下半身の長さが上半身の長さより大にして, 指極は身長より大なりと云ふ。尙ほ女子に於ては上半身に於て脂肪の發育著明なることあり等々の記載あり。Pribram は指極の超大を重視せず。

Brugsch は淋巴性體質者には非常に屢々胸廓の狭きものを見ると。又 Schridde は本體質者の屍体につきて記載し二つの所見ありと, 即ち長身にして短頸なることなり, 又四肢は長大特に下肢長大にして軀幹を凌駕せりと。

又 Paltauf に依れば本體質は獨自固有のものにして他のものと嚴密に區別さるべきものなりとす。然るに Bartel は發育不全體質なるものを舉げ, 胸腺淋巴體質は該體質の部分的現象否寧ろ該體質の副所見なりとす。

Hedinger, Wiesel 等は更に胸腺淋巴體質を分ち Status thymicus u. Status lymphaticus となし, 兩者を嚴密に分類せり。

而して兩氏の說によれば Chromaffinem System の増殖は淋巴系の増殖を來さず, 只胸腺の肥大増殖を示すと, 又之に反して Matti, Horonowski は全く反對の說即ち Chromaffinen System の増殖は淋巴系の増殖を來すとの説をなす等諸家各説をなし未だ不明の點多し。

又胸腺淋巴體質と結核との關係につきては Barsel の詳細なる研究によれば, 淋巴性體質者は結核を死因とすること少く, 又其の肺結核の経過は特殊にして且つ極めて慢性にして結締組織増殖を示すこと多く一般に経過良好なりと。

次に古くより諸家により考慮せられたるものに尙ほ麻痺性胸廓 (Paralytische Thorax) なるものあり, 然して本胸廓は肺癆素質乃至 Stiller の無力型の部分的症候として已に Stiller 以前に知られたり。

而して本胸型の特徴は胸廓前面は隆起せず, 扁平且つ細長にして肩は下垂し, 肋軟骨は胸骨に鋭角に附着す, 肋間腔は廣く且つ脂肪組織の僅少なる爲め容易に見らる。上腹角は著しく尖鋭となり, 胸骨柄と胸骨体の角度は鈍にして全く不動性となる, 胸廓の前後徑は正常に比して甚だしく短小, 胸廓背部は狹隘にして肩胛骨を容るゝに充分ならず, 肩胛骨は前方側胸に存在し爲めに翼狀となるものなりと。

然してかゝる胸廓の成立に關する諸家の説を検するに之を後天獲得と先天的乃至遺傳的のものに區別し得。

Kraus は之を種族的變形 (Phyletische Rückbildungsprozesse) によるものと胎生的不全發育 (Ontogenetische Hemmungsprozesse) によるものとに分てり。然るに Wenckebach は扁平胸の成立は多くの場合胸骨の發育異常によるものなるべしとなしたり。又 Wiederheim は第一肋骨對の痕跡的發育を Hemmungsbildung と見做し、又 Hart は幼年者の本胸型と第一肋骨の發育不全とを關係をつけ肺尖部の結核素因と關係ありとなしたり。Freund は第一肋骨の早期發育停止を本胸廓成立に關係をつけ、この第一肋骨の早期發育停止を Infantilismus der oberen Brustapertur と云へり。

L. Hofbauer は無力性體質及び麻痺胸を恒久的呼吸不全の結果なりとなし、屢々家族的、遺傳的に發現するものなりと云へり。

Zielinski, Kowiatowski u. a. は結核患者の剖檢により特に種々の Abartungszeichen を屢々發見し、而も之等のものが或る程度まで病竈の特殊的局在性を來すものなりとなし、之等 Abartungszeichen の内胸廓の Hemmungsbildung は肺結核の局所的素因に重大なる關係を有すと。

又 Borchardt は本胸廓の結核罹患の素質たるは肺の通氣及び血液循環の不充分なることによるとなしたり。

後天的には嘗て Ostereich, de la Camp の認めし如く肺結核の結果として發現するものとして、肺組織が結核性浸潤の爲め萎縮するに至れば胸壁も之に従って先づ上部に於て扁平に且つ陷没す、從つて上部に於ては胸廓の前後徑短縮し、肋骨は急傾向を取り、後面に於ては肩胛骨の前下方移動となり、胸筋及び肩胛筋の麻痺によりて二次的萎縮を來し遂に麻痺胸を見るに至ると。

斯の如く種々の體質を分類するも各個々の體質の發生因子及び其の意義に關しては不明の點多く、Martin の如きは Handbuch der Tuberkulose に於て Disposition u. Individuelle Prophylaxie に於て論じ、結核には絶対に遺傳的又は後天的に一律に定義せらるべき一定の形態學的組織學的並に生化學的性質を具有する身體の特性なるものなしと述べたり。

更に進んで體質又は素質と疾病經過の種々相につき研究せる Sörgo (1927) は疾病經過の模様を基礎とし、比較的良經過をとれるものと重篤なる經過をとれるものとに分類し、これ等の各例に於ける其の素質の差異を検し、疾病の經過は素質の因子と重大なる關係を有するものなることを認めたり。又 Stefkow は結核患者の體質に就きて論じて曰く、現時の病理解剖學的所見は結核の初期感染に對しては何等の役目ななきことを吾人に教ふるものなり、即ち凡ての人に於て初感染は平均 90-100% に見らるゝも再感染は 50% に見らるゝに過ぎず、然も之等再感染によりて稍々重症經過をとるものは 15-20% に過ぎざるは以て之が説明たり得べし、併し乍ら勿論初感染の經過及び其の後に於ける進展 (過敏期 Stadium d. Anaphylaxie, 或は第 II 期アレルギーの時期に於ける散布) は多分に個体の體質的特異性によるものなる可きなりと、かくて氏は肺結核患者 481 個の屍体につき Martin の體質外形に従ひて分類し檢したるに、無力型體質が最も結核による大なる死亡率を示し且つ該體質型に於ては病理解剖的に見るに増殖型及び増殖滲出型兩者を見るも、Hypoplastiker に於ては滲出型を見るを得ざりしと。

又 P. Kallos は Aschoff u. Schirp の 18 歳の青年に於ては 97% の結核感染を確認し得ると云ふ報告に基き、吾人は結核感染に對する體質に就ては最早論ずるを要せず、寧ろ已に感染せる者の運命即ち結核の經過の差異は體質によりて左右せらるゝものにして、特に内分泌臓器の反應の差異を指適し得可しと爲し、結核感染後に於ける該病經過は是等臓器の機能上の態度と重大なる關係を有す可き實例を示せり。

尙ほ斯の如き檢索は已に古く Brugsch により、又近時に於ては Irma, Neuer, Paul Feldweg (1928), Stefkow (1928), Wilfrid Schüler (1934) 等によりてなされたることにして、之等諸家の得たる結果は或は素質と結核の經過との間に一定の關係を認め得ずとなすものあり (Wilfrid Schüler 但し氏

は測定によらずして觀察によりて分類せり)。又一定の關係を認むとなすものあり、Neuer, Feldweg は測定によりて Astheniker と Stheniker に分ち、更にこれ等兩型の混合型として Langstypus, Quertypus を分ち (Langstypus は Asthenisch Komponent を含むもの、Quertypus は Sthenisch に近きもの) 之等のものゝ臨床所見及びレントゲン所見を檢し、更に結核經過につき研究し Astheniker に於ける Phthise は惡性質にして Stheniker に於けるよりも豫後判定上不良と判定せらるべき症候を多數に有し、しかも Astheniker に於てはその豫後も不良にして死亡率は Astheniker に於ては 51.2%, Stheniker に於ては 17.7% を示せり。Langstypus に於ては稍々 Stheniker に於けるが如き傾向を示し、Quertypus に於ては Stheniker に似たれども Astheniker に於ける如き症候を散發性に認めたりと。

以上述べしが如く、結核に關する體質の意義は猶ほ混沌として其の適歸するところを知らざる如し、されども結核感染其の自己に關するものとしてよりは、寧ろ結核感染後に於ける特に再感染後に於ける結核の經過の如何に關するものとすべきならんか、何となれば、現今結核初感染は殆ど凡ての人体に於て證明せらるゝ所なればなり。

第 2 節 姿 質 の 研 究

文 献 (1) 研 究 材 料

抑々姿質研究の目的とするところは、或る一つの住民より個体としての醫學的判斷を下し得るに足る特徴を把握するにあり。この目的を達するには或る一群の住民を檢索し、其の得たる結果よりして其の全住民の特徴を歸納するにあり。

文 献 (2) 年 齡 と 發 育

かゝる姿質研究にありては變移 (Umwandlung) を考慮せざるべからず、人体發育の状態は生活の經過に伴ひて變移を示すものにして、小兒に於ける身体各部の比例的關係は思春期以後に於けるものと著しき差異を示すものにして、例之小兒に於ては上体長 (Oberlänge) は下体長を甚だしく凌駕する如し、即ち出生より成熟期に至るまでは種々なる變移をなしつつ發育の過程をとり、其の後に於ては老齡に至るまで更に死に至るまで又種々の變移をなしつつ退化の過程をとるものなり。

然して從來歐米並に本邦に於てなされたる業績を見るに、Anutschin は已に 1889 年に身長に於ける種族の影響を絶滅せしめ得ざるを證明し、又 Pearson は兩親と其の後裔との間に於ける相關係數を檢し、身長は $+0.50$ を示し虹彩の色調及び指極と共に遺傳をなすものなる事を證したり。又田原氏は本邦人身長に關する文献に徴し身長より見たる邦人の總括的遺傳狀態を通覽し、日本人が現今有するが如き身長は太古より今日迄等しき範圍の動搖を繼續し來れるものにあらすして、種々の發育狀態を異にせる數型の種族の混合に由りて二次的に産出せられたるものなるが如しとなす、尙ほ之に關しては長谷部氏の研究あり、氏は憶測して曰く、日本壯丁の身長は特殊なる地方的差異あり、此の差異は日本人種の二元又は多元なる痕跡にして未だ全く融合し盡さざるものと認む。即ち發育は人種的に各特徴を有するを説けり。

本邦人發育の固有性に就ては、吉田氏の研究によれば 1-2 歳の身長成長量は歐洲人と同様にして 1-20 歳間の最大成長量を示す、男女共に 4-5 歳に至れば初生兒の身長 2 倍に達す、是歐洲人と同じ。男兒に於ては 9-11 歳に於て稍々著しき發情期前發育遲滯の時期を見、又 6 歳以後 3 年間に於ける身長發育も男女共に少しく遲滯せり (歐米の統計と同様)。發情期的身長發育促進は歐洲人に比し男子は 1 ヶ年、女子は 2 ヶ年早期に現れ、男子は 11-15 歳、女子は 9-12 歳なり。而して男子は 17 歳以後急に身長 1 倍の成長著しく減じ、此の間に於ける成長量は歐洲人のその $\frac{1}{3} - \frac{1}{5}$ に過ぎず。又女子は 17 歳以後は身長殆ど發育せざるも之は歐洲人に於ても同様なり。

次に成人に於ける發育の状況を見るに、永井氏によれば、身長は20歳に於て完全に發育を遂げ、其れ以後に於ては殆ど成長せず、而して体重に於ては最大体重に達するは印東氏によれば40歳、大山氏は40-45歳、歐洲人に於ても40歳に於て最大体重に達す(Quetelet)。女子に於てはこの關係は不明なれども、大山氏によれば46-50歳に於て大体最大体重を示すと。即ち發育退化の機轉は年齢的に或る一定の變移を示すものにして發育の時期は、之を4期に分ち得。

	發 育 時 期	男	女
1	發 育 迅 速 期	自 5 歳至 6 歳	自 5 歳至 6 歳
2	發 育 緩 漫 期	自 10 歳至 12 歳	自 10 歳至 10 歳
3	發 育 促 進 期	自 16 歳至 18 歳	自 14 歳至 15 歳
4	發 育 遲 滯 期	自 25 歳	自 18 歳至 20 歳

即ち發育速度に於ては兩性間に著明なる差異を見るものにして、女兒に於ては第2發育期は約2年早期に現れ、第3發育期は2-3年早期に、且つ第4期の終結は5年以上早期に起るものなり。然してこの第4期に於て發育は完成し、この後に於ては發育は停止し壯年期即ち50-60歳に至りて退化期に入るものなり。

尙身体各部發育の状況に就き田原氏は、氏の所謂第5發育期は發育停止期にして、この時期は身長、下肢長に於ては男子は第19年以後、女子は之に先立つこと2ヶ年にして第17年以後之に入る、而して胸圍、体重に於ては男子は第20年、女子は之に先立つこと1ヶ年第19年を以て此の期に入るものなりと。

又本邦人の指極に關しては其の業績尙ほ甚だ少數にして、小兒期に於ける指極に關しては三島氏始め其他諸家の研究あれども、成人に關しては Beal, 豊田、吉田、竹内其他數氏の研究あるのみ、而して從來成人に於ては指極は身長より大なるものとなすことは先人諸家の齊しく唱ふる所にして、其の發育の狀態に關し三島氏は本邦小兒に就き述べて曰く、小兒期に於ては各年齢級に於て指極は常に身長を超えざるものと云ひ、豊田氏は男子に關して16年以後に於て身長を超ゆるとなし、竹内氏は女子に關して一般には指極の身長を超ゆるは25年以後の如く報告せり。又吉田氏は壯丁に就き之を検し本邦壯丁の平均比指極は102.0なりとせり。

尙ほ Beal 氏は指極の職業的差異あるを報告せり。

附 職業の發育に及ぼす影響

身体發育に關しては後天的要約も考慮せざる可からざるものにして、特に職業に由る身体發育の差異に關して從來屢々論究せられしところにして、Chalmen, Erismann, Fischberg, Bedtoe, Hange, Matiegka, Soren, Hausen 等に據れば、靴工、裁物師、染色職工、鞍工、製本工等所謂手工、其他日雇人、工場労働者は一民族中に於ける最も小なる身長者の群に屬し、大工、鐵工、左官、セメント塗工の如き身体的活動自由性の一層大なる職業者は身長其れより少しく大にして、身長之に亞ぎ大なるものゝ中最も多數なるは自由技術及び科學に従事するものにして、之を身長小なるものより列舉すれば教師、建築家、獸醫、法律家、宗教家及び醫師の順序なりとせり。

吾が國の男子に就きては内務省調査による全國85ヶ村の農民の身長は20歳に於て157.9cm、21歳に於て157.3cm、22歳に於て157.6cmにして、吉田氏の舊東京市外壯丁(農民)の平均身長は158.0 ± 0.3cmにして、共に文部省の統計による全國學生20歳者の平均身長163.0cmより頗る小なり、之歐洲に於ける學生と労働者に於ける關係と同様なり。

又本邦女子の身長の職業的差異に關しては竹内氏によれば、平均身長の最大なるは文筆家にして152.4 ± 0.77cm、之に次ぐは女學生にして151.1 ± 0.17cm、女教員151.0 ± 0.17cmなり。

之等3職業者何れも其の平均身長は 151.1 ± 0.12 cm 以上にして、之に亞ぐば電話交換手、百貨店員、産婆、看護婦、事務員、派出所、美容師等にして其の平均身長は148.0 cm, 150.0 cmの間にあり、平均身長最小なるは製糸女工、農婦、陸軍女工、紡績職工、煙草女工並に娼婦にして之等は盡く148.0 cm 以下の平均身長を有す。

即ち第1群は精神的勞務に従事するもの、第2群は主として精神的肉体的勞務に従事するものにして、第3群は肉体的勞務に従ふものなり。

斯く本邦人に於ても其の職業によりて身長の上に大なる影響を認むべきものなりとなす。

次に指極の職業的差異に關しては Beal 氏によれば、本邦人に於ては學生の比指極平均は100.2、勞働者102.6、兵士102.0、女子は100.0-101.0の間にありとなす、即ち比指極も職業的に差異あるを示せり。

文 献 (3) 年 齡 と 姿 質

次に姿質 (Habitus) も年齢的に特異性を有するものなり。而して此の方面に關しては從來業績の見べきもの甚だ少かりしが、近年に至りて其の業績の相次で發表せらるゝを見る。Tandler は無力型姿質の完全に表るゝ年齢は10歳以後なりと云ひ、Wetzel 及び Schiff は Stiller の所謂體質的異常な乳兒及び初生兒に於て檢したるに不明なりきと云ひ、W. Nissen の研究によれば Sigaud の呼吸型の特徴たる胸廓及び鼻部の状態は思春期の前半に於ては未だ著明ならず、即ち女子15歳、男子16歳以前に著明に見られず。尙ほ女兒10-11歳、男兒12-13歳の頃の發育期に於ては2年間に約10 cmの長育を遂ぐる結果として狭長なる胸廓を示すも、本型の稍々著明に出現するは思春期後期に於てなりとす。

消化型の特徴は比較的早く小兒期に於ても已に見らるゝも15歳以後に至らざれば著明ならず。

筋肉型は學齡期に於て完成するも、思春期に至れば更に著明なる出現を見る、即ち女子に於ては15歳、男子に於ては17歳に至りて著明となる、膈型は乳兒は殆ど凡べて之に傾く、即ち Martin によれば初生兒の水平頭圍は身長64-68%を占むるも、其の後の長育に對して甚だしく後るゝものにして20歳に至れば頭圍は身長33%を占むるに至る、而して思春期に至る迄に身長は3.5倍の發育をなすに頭圍は僅かに1.6倍の發育を遂ぐるに過ぎず、故に小兒期に於ける膈型は其の發育に伴ひ甚だしく變化し、時に他の姿質に移行することあり、故に Sigaud の姿質分類は女子15歳、男子16歳以後に於て初めて應用し得るものなりと。

E. Schlesinger は姿質變移 (Habitus Wechsel) は小兒期に於ては特有なる現象にして、第2期發育期及び思春期に於て著明に出現するものなりと云ふ。

文 献 (4) 年 齡 と 結 核 に 就 て

年齢と疾病の關係も考慮せざるべからざるものにして、特に結核に關しては年齢との關係は重大なる意義を有するものなり。栗山氏によれば初生兒に於てはツベルクリン反應は全部陰性なれども、以後年と共に陽性率の増加を來すものにして、大都會に於ては生後1年迄は5%、1-2年には12%、2-3年には20%、5年には30%の陽性率を示し、學齡期以後に於ては大都會と小都會とを比較するに、大都會の兒童に於ては其の陽性率著しく大にして小學校入學當時には35%の陽性率を示せども、小學校卒業の頃に至れば55%の陽性率を示すに至る、而して小都會乃至村落に於ては小學校入學當時は20%陽性率なれども、小學校卒業の頃に至れば30%の陽性率となると云ふ。又 Schirp の報告は18歳の青年に於ては97%の結核感染を確證し得と、尙ほ結核の病像に於ても小兒期のそれと成人のそれとは全く異なるを知る。即ち小兒期に於ては成人に見る事稀なる病型が屢々著明に現るゝものなり。

結核感染は如何なる年齢に於ても成立し得るものなれども、Engel は重感染の意義は重大なるものなれども、年齢的素質が更に重大なる意義を有するものなりとなす、即ち臨床的にある一定の結核病型は特に一定の年齢に出現し來る、例之 Allgemeine Tuberkulose der gesamten Bronchialdrüsen は主とし

て乳兒及び小兒に於て現れ、學齡兒童に於ては最早殆ど出現せざるものなり。

小兒期初めに於ける結核に於ては初感染は肺組織内に擴大する傾向を有し、原發病竈肺癆 (primäre Phthise) に移行する事多く、滿2歳以上に於ては斯る事を殆ど見ずして初感染は Perifokale Entzündung により包圍せらるゝ傾向を示す、更に稍々長じたる小兒に於ては原發群は二次的播種 (sekundäre Ausbreitung) をなす。即ちこの時期に於ては血行性播種を來し屢々腦膜炎乃至は粟粒結核にて死するもの多し、又この時期に於ては氣管枝腺結核を見る。然るに年齢の長するに及んで斯る病型は漸次不著明且稀となり、10歳頃を界として殊に思春期に近づくに隨ひて成人型肺結核像を見るに至るものなり。

文 献 (5) 結核の發育に及びす影響

結核感染が身体の發育に及ぼすものなるべしとは從來諸家の憶測する所にして、Kallos は結核菌侵襲による内分泌機能の狀態に就き研究し、輕症性肺結核の初期に於ては時に甲状腺機能の亢進を來し、其の結果として胃泡の擴張を起し又腸下垂を誘發し且つ又無力型に於けるが如き右心の増大を來す、かゝる場合に於ては胸廓上口の狹隘及び肋骨角の鋭なるを見る以外長育の亢進を來し、甚だしく無力型に似たる狀態を呈すと。

而して氏は其の觀察せる肺核患者の75%に於て斯かる狀態を觀たりと。

尙又本邦兒童に關しては高橋氏及び砂川氏等の報告あり、之等諸氏は兒童及び中等學校生徒に於てツベルクリン反應陽性者と陰性者との身体發育の狀態を比較し、高橋氏はツベルクリン反應陽性兒童は陰性兒童に比し身長大にして女子に於ては小なりと云ひ、砂川氏は男子に於ては斯かる關係は不明にして、女子は高橋氏の如く身長小なりと報告せり。

又胸廓の發育に關しては Redeker は統計的研究により、結核感染は狹胸兒童も廣胸兒童も同様に受くるものにして、結核感染は大体に於て狹胸成立に影響なきものなれども、硬化せる Röntgenherd を有するもの及び二次的硬化 sekundäre Induration を有する1群に於ては11歳迄は狹胸者の數は正常値を示せども12歳以後に於ては甚だしく高率を示すに至る、即ち繰返し重感染を受けたるものは狹胸となると云ふ。

又同様の檢索を Mende 及び Ickert は3人の肺結核を有する教師の下にて、數年間重感染を受けたる小學兒童と其の近接せる斯かることなき他の小學校に於ける兒童とに就きツベルクリン反應陽性率を檢したるに重感染の危險ある小學校兒童に於ては80.0%の陽性率を示し、然らざる小學校に於ては35-40%に過ぎざりしと、然も陽性率大なりし學童に於ては43%の羸瘦せる長身兒童ありしに反し他の兒童に於ては7-25%を見るに過ぎざりきと、而して狹胸は遺傳に因るものに非ずして濃厚なる重感染の結果として出現するものなりと云へり。

第 2 章 余 の 研 究 方 法

1. 本 研 究 の 根 據

余は肺結核患者の體質特に姿質に關する研究を昭和6年より企圖し居たり。而して本研究の體質特に姿質に對する意義に就ては前述の如く諸家の説ありと雖も、一般に所謂遺傳原型 Genotypus 及び後天獲得 Paratypus を分つことを得べからずとするものゝ見地に立ち之等のものを全体として觀ずる、換言すれば現象型 Phänotypus としての立脚點に立ちこの研究をなせり。

尙ほ又姿質に關しては之を Phänotypus の表れとしての形態學的、解剖學的方面の要素として觀察し、又肺結核患者の之等體質特に姿質に關する研究なる意義に就きても之を仔細に考ふるに、結核の感染それ自身と之等姿質の關係或は結核感染後の經過の模様、即ち結核患者としての體質即ち姿質との關係等猶ほ種々に考へらるべきも、前述の如く結核の感染は現今に於ては殆ど凡ての成人に於て成立すべきものたる以上、後者即ち感染後の經過と姿質との關係に於て研究をなすこととなりとなす。

2. 材料及び其の分類

以上の諸點を考慮し一定の住民群を得んが爲めに千葉醫科大學附屬醫院に於て竹村、石川内科教室に於ける昭和6年より同8年に至る間の外來及び入院患者を材料となしたり、蓋し一地方に於ける住民は比較的同一條件の下にある1群の住民として材料となし得るなり、併して本教室を訪ぬる患者は大部分は本縣土着の者なるを以て材料を得るに便あり、且つ余は之等の中より原籍地をも檢し、本縣に原籍を有し比較的長時日縣内に在住せるものを撰び材料となせり。又其の年齢的關係に就ては該患者中、女子は18歳以上、男子は20歳以上を成人と見做し、思春期及び小兒期に於ける結核患者を除外せり、又老齡期に於ける退行性諸變化を避けんが爲め49歳以上を取らざることとせり。

材料の分類 本研究に取りたる材料總數患者267名にして、之等を非結核性疾患々者及び肺結核患者に分ち、更に肺結核患者は之を輕症及び重症の2群に分ちたり。

是等の分類方法としては、各患者につき一々既往病歴、家族史及び現症につき檢し更にX線像を基礎とし、何等結核性肺疾患を思はしめざるものを非結核性疾患々者とし、肺結核患者としては以上の諸項につき檢索し、肺の結核性疾患を診斷し得たるもののみを取り、更に之を重症及び輕症の2群に分てり。

しかして之等肺結核の病症の輕重の判定に當つては主としてX線像を基礎とし、臨床的症候を參考とし、W. Neumann 及び Bräuning-Redeker の分類に従ひて分類せり。即ち輕症肺結核としては、1. 血行性撒布 (Hämatogene Frühstreuung, Bräuning-Redeker) にして經過觀察中治癒機轉をとれるもの、2. 主として肺上野に於ける僅小なる撒布をなせる制限性尖部粟粒結核 (Miliaria discreta, Neuman) 乃至 Simon の尖部轉移、3. 血行性撒布の後の結締組織形成、癰痕による治癒病竈並に強度の硬化により起りし濃縮性纖維性結核 (Tuberculosis fibrosa densa, Neumann) 及び之等の變化が廣汎に残りし硬變性結核 (Phthisis fibrosa diffusa) 更に Assmann の Lymphangitis reticularis の像を含めるもの、限局性纖維乾酪性結核にして治癒によりて纖維性硬變を起したるものを以て之に屬せしめたり。

重症肺結核としては血行性結核にして浸潤性推進 (Infiltrative Nachschub) の像を呈せるもの、更に之が融解して空洞を形成せるもの、纖維性乾酪性結核にして Schub を重ねたるも

の即ち (Phthisis fibrocaseosa communis) 及び治癒機轉により吸収せらるゝも空洞を存するもの等を以て之に屬せしめたり。

3. 測 定 法

測定の方法は Martin の Anthropometric に準じて行ひたれども、實施上の簡易を目的とし、器具及び裝置等も簡易なるものを以て行ひたり。

然して体重、身長、軀幹長、坐高、胸圍、腕長、指極、腹圍、臍位、脚長、足長徑、手の長徑、肋骨弓角 の13項目に就て測定せり。

体重の測定には重量計を用ひ、身長測定には Martin の身長計を用ひ、其の他の長さの測定には巻尺を使用せり。

尙ほ腹圍、軀幹長、臍位、肋骨弓角の測定には被檢者を平坦水平なる牀上に仰臥せしめ、脚を股膝關節にて極めて自然的に曲げしめ安靜なる体位にして腹圍及び肋骨角を測定し、次に枕を除き脚を伸ばさしめ軀幹長及び臍位の測定を行ひたり。腹圍は安靜なる呼吸を行はしめつゝ巻尺を以て臍の位置に於て之を測定し、肋骨弓角は角度計を以て之を計測せり。

尙ほ軀幹の長さは Distantia Jungulo-pubica にして軀幹前壁の長さを直接に計測し、臍位は胸骨上線より臍の中心に至る軀幹前壁の長さを以てせり。

次に起立せしめて身長、胸圍、腕長、脚の長さを測定せり。身長測定に當りては身体は成可く直立せしめ、身長計の足臺の上に眼を身長計の柱に接せしめ足を45度位にひらかしめ、背部及び臀部は同じく柱に接する様にし、頭は自然なる位置に保たしめ、只外背と耳の中心を一水平面に見る如くなさしめて身長計にて顱頂の頂點の高さを測定せり。

胸圍は乳嚢の高さに於て極めて安靜なる呼吸をなさしめつゝ測定す、この際腕は自然に垂れしめたる状態にて之をなせり。腕の長さは体の兩側に垂直に垂れたる位置にて肩峰の頂點より示指の末端までの距離を成可く一直線上に計測せり、之には檢者の左の示指の腹を被檢者の肩峰の頂點にあて巻尺を同指の第2節の部位に拇指頭を以て支へ、右手を以て被檢者の示指尖端まで巻尺を伸ばし之を測定すれば稍々直線上に計測するを得、斯る方法にて左右を測定し得たる値の平均値を以て上肢の長さとし、脚の長さの測定に當りては觸診によりて大轉子の上縁を定め、この點より牀上に至る距離を腕に於けると同様に測定し、左右の値を平均して脚長とし。

足の長徑の測定には一定の臺上に起立せしめ眼を後壁に密着せしめ、下脚を後壁に倚らしめ、足の長軸を臺上に後壁に對し直角にひける線と一致せしむる様にし、足の最前端を臺上に記しこの點と後壁の距離を計り左右を平均して足の長徑とし。

手の長徑の測定には手掌を平に伸展せしめ手掌底を基準とし、之より中指の尖端までの長さを計り、同じく左右の測定値を平均して手の長徑とし。

坐高の測定は平均なる椅子高さ 45 cm のものに坐せしめ、顛頂より臺上までの距離を測定し坐高とせり。

肋骨弓角の測定には角度計を用ひ、肋骨弓下縁の走行に沿ひ角度計の兩脚の内側をあて、角度計の關節を劍狀突起の上におき測定せり。

指極の測定には患者を起立せしめ兩腕を左右水平に伸展せしめ、木製の測定器（マルチン氏の測定器に準じたるもの）を以て兩示指間の最大距離を測定せり。

而して之等の測定種目は肋骨弓角、体重を除き各其の身長との比例値を算出し觀察せり。

測定人員 以上の如き方法によりて計測したる人員は患者 267 人、うち男子 150 人、女子 117 人にして之を病別にすれば次の如し。

病 性 別	重症結核患者	輕症肺結核	非 結 核
男	62	58	32
女	30	62	25

4. 對 照

尙ほこの外對照として、千葉中學校生徒及び本院職員並に本院看護婦及び事務員、傭員等男子 13-49 歳のもの 975 名、女子 16-49 歳のもの 185 名の体格検査をなし得たるを以て、之等のものにつき体重、身長、胸圍、指極を検し、本縣人の平均を定めんと試みたり。

第 3 章 研 究 成 績

余の患者 267 名 及び健康人 1160 名に就き測定したる結果を各群別に表示すれば次の如し。

但し表中、比胸圍、比指極、比坐高、比軀長、比腕長、比脚長、比手掌及び比足蹠とは夫々身長に對する百分比にして、所謂 Brugsch 氏等の relative od. proportionale Längeにして $\frac{T}{L} \cdot 100$ により算出したるものなり。

(T は各部實測値 cm, L は身長 cm なり)。

第 1 表 (A) 男子重症肺結核群測定成績

番 號	年 齡	職 業	身 長	體 重	胸 圍	比 胸 圍	指 極	比 指 極	軀 長	比 軀 長	腕 長	比 腕 長	坐 高	比 坐 高	腹 圍	比 腹 圍	臍 位	比 臍 位	脚 長	比 脚 長	手 掌	比 手 掌	足 趾	比 足 趾	肋 骨 角
1	26	農	166.7	55.0	84.0	50.5	166.3	99.8	50.5	30.3	71.5	42.8	89.5	54.3	64.4	38.6	36.5	21.9	86.8	52.0	18.5	11.1	23.0	13.8	
2	20	學	162.0		81.0	50.0	166.0	102.0	51.0	31.4	70.8	43.6			63.0	38.9	38.0	23.4	83.8	51.6	18.5	11.4	25.5	15.7	
3	21	學	164.5	48.2	78.0	47.5	164.0	99.9	53.5	32.5	70.0	42.5	92.0	56.0	60.0	36.4	38.0	23.1	82.8	50.3	17.5	10.6	22.0	13.4	
4	26	農	169.0	48.0	81.0	48.0	163.5	99.7	47.0	27.8	71.0	42.0	83.2	49.2	66.0	39.0	34.0	20.1	82.8	49.0	17.5	10.6	23.5	14.1	
5	25	教	174.6	58.3	83.0	47.5	180.7	103.0	54.0	31.0	75.5	43.2	93.0	53.3	57.0	32.9	40.0	22.9	83.8	50.9	19.3	11.0	24.5	14.0	
6	24	農	167.0	59.0	85.0	51.0	173.5	103.9	53.5	32.0	75.2	46.0	89.5	53.5	74.0	44.3	40.5	24.2	89.3	53.3	18.8	11.3	25.0	15.0	
7	28	農	165.5	53.0	83.5	50.5	167.5	101.0	57.2	34.0	70.8	42.8	81.0	49.0	69.0	41.6	40.5	24.4	83.5	50.5	18.2	11.0	24.5	14.8	
8	20	農	151.0	54.0	81.5	51.5	160.5	101.6	51.0	32.2	70.3	44.5	82.0	52.0	62.0	39.2	37.0	22.4	78.8	49.8	17.5	11.1	24.5	15.1	
9	22	印工	158.8	51.0	82.5	52.0	156.0	98.5	53.0	33.4	68.8	43.3	85.3	53.6	71.0	44.7	40.0	25.2	79.0	49.5	17.3	10.9	25.0	15.7	
10	21	農	157.2	49.0	80.0	51.0	161.2	102.6	53.0	33.7	69.5	44.2	83.0	52.9	67.5	43.0	30.5	19.4	80.0	51.1	18.2	11.6	25.0	16.1	
11	29	商	169.0	51.0	84.0	49.6	173.0	102.0	53.5	31.6	74.8	44.2	90.5	53.5	65.0	44.2	41.0	24.2	87.5	51.7	20.0	11.8	25.0	14.8	
12	49	農	147.5		74.0	50.1	145.5	98.5	47.5	32.2	64.8	43.9	80.0	54.2	62.0	42.0	34.0	23.0	74.5	50.5	16.0	10.8	22.0	14.9	
13	26	軍	166.4	54.2	89.7	54.0	170.2	102.1	51.0	30.6	72.8	43.7	88.5	53.2	70.5	42.4	40.0	24.0	84.5	50.7	18.0	10.8	24.0	14.4	
14	21	學	168.5	57.4	87.0	51.5	169.5	100.0	54.0	32.0	73.8	43.1	91.0	54.0	78.5	46.5	38.5	22.8	86.0	51.0	18.7	11.1	25.0	14.8	
15	46	農	164.0	51.0	85.0	55.6	170.0	103.0	51.0	33.4	72.0	47.1	87.4	57.2	73.5	48.1	36.0	23.6	84.5	55.3	18.0	11.8	24.0	15.7	
16	20	學	168.0	53.0	81.0	48.2	160.8	95.5	53.5	31.8	71.8	42.7	95.5	56.7	63.5	37.8	41.0	24.4	82.8	49.2	17.5	10.4	23.5	13.9	
17	22	商	158.0	57.2	85.0	53.8	155.8	98.5	51.0	32.3	67.5	42.7	85.7	54.2	74.0	46.8	38.0	25.0	81.3	51.5	16.4	10.4	23.0	14.6	
18	33	農	159.6	50.5	88.2	55.2	165.5	104.0	47.0	29.4	71.8	45.0	85.5	53.5	70.0	43.9	37.0	23.2	81.5	51.0	18.5	11.6	24.0	15.0	
19	25	學	169.1	48.9	79.0	46.6	169.5	100.1	52.5	31.0	74.8	44.1	88.0	52.0	60.5	35.7	39.5	23.4	90.3	53.3	18.5	10.6	24.5	14.5	
20	23	農	152.0	43.0	77.5	51.0	151.0	99.3	51.5	33.9	64.8	42.5	82.8	54.5	65.5	46.5	36.5	24.0	77.0	50.6	17.8	11.7	23.5	15.4	
21	24	農	176.1	54.6	84.6	48.0	179.5	102.0	52.0	29.5	78.5	44.5	95.5	54.1	67.0	38.0	41.0	23.2	95.0	54.0	19.5	11.1	25.5	14.5	
22	20	理髮手	160.0	49.5	80.0	50.0	156.0	97.5							66.0	38.1			84.0	52.5					
23	20	農	162.2	51.0	82.0	50.5	163.2	100.5	51.0	31.2	71.8	44.2			67.0	41.3	34.5	21.2	83.9	51.6	17.3	10.7	23.4	14.4	82.5
24	21	農	162.1	52.4	81.5	50.3	165.5	102.0	54.0	33.3	70.8	43.7			70.0	43.2	38.0	23.4	84.0	51.8	17.0	10.5	23.5	14.5	80.0
25	22	農	164.9	54.0	82.7	50.2	169.5	102.8	54.0	32.7	73.3	44.4			69.0	41.8	37.0	22.4	80.5	48.8	18.3	11.1	25.0	15.2	80.0
26	22	學	170.9		84.0	49.2	175.5	102.5	54.0	31.5	76.5	44.7			64.5	37.8	38.0	22.2	89.5	46.5	18.7	10.9	25.0	14.6	65.0
27	23	農	167.0	52.2	82.5	49.4	167.5	100.2	52.5	31.4	71.8	42.6			66.0	39.6	37.0	22.2	81.0	48.4	18.8	11.5	25.0	15.0	50.0
28	23	學	165.5		78.0	47.0	168.0	101.3							59.0	35.6			81.0	49.0					

29	學	161.3	44.6	79.5	49.2	160.0	99.2	52.0	32.2	68.0	42.1
30	僧	168.2	52.0	79.0	46.8	173.0	102.7				
31	農	162.2	45.0	77.7	52.4	164.0	100.2	50.0	31.6	69.9	41.8
32	學	170.0	55.3	85.0	50.0	173.2	101.9	57.5	33.8	74.0	43.5
33	農	165.3	48.5	80.5	48.6	162.5	98.5	51.5	31.2	68.0	41.0
34	商	153.0	38.0	70.0	45.7	158.5	103.1	46.0	30.1	67.2	43.9
35	農	161.0	66.2	102.0	63.5	170.5	106.0	52.0	32.2	75.0	46.5
36	商	152.0	43.0	81.0	53.3	159.0	104.5	46.0	30.1	68.5	45.0
37	農	169.0	48.0	89.0	52.6	178.0	105.0				
38	商	164.0	60.0	95.0	57.8	170.0	103.5	50.5	30.8	73.3	44.6
39	鐵官	149.5	48.0	85.0	56.9	150.2	100.2	50.5	33.8	63.8	42.5
40	官	171.8	46.1	73.0	44.2	169.3	98.5	55.5	32.3	73.3	42.7
41	官	164.2	56.0	84.5	51.5	160.5	97.7	51.5	31.4		
42	農	156.0	44.0	78.0	47.3	160.0	96.9	50.0	30.3		
43	官	160.0	44.0	86.0	53.7	158.0	98.8				
44	鐵	160.8	45.5	82.0	51.0	158.0	98.5	58.5	36.0	67.1	41.8
45	會	161.6	57.5	89.8	55.5	165.5	102.3	50.5	31.5	71.0	44.0
46	商	161.2	49.2	83.0	51.5	162.5	102.2				
47	農	162.2	49.2	82.5	50.8	161.0	99.9	54.0	33.1	68.5	42.3
48	農	160.1	54.0	85.0	53.0	167.7	104.0	51.0	31.8	70.0	43.6
49	農	163.0	50.0	81.5	50.0	169.0	103.0	53.0	32.5	72.0	44.0
50	商	155.5	46.2	80.0	51.5	158.0	101.6	51.5	33.1	69.3	44.5
51	農	163.7	47.2	79.8	48.8	170.4	104.6	44.6	27.2	74.8	44.4
52	會	162.0	51.8	82.5	51.0	162.5	100.2	53.5	33.0	69.0	42.5
53	銀	155.9	48.2	84.2	54.1	163.0	104.6	53.0	34.0	71.6	45.9
54	職	152.3		85.0	55.7	153.0	100.4	53.0	34.8	65.5	43.6
55	學	151.8	50.3	80.5	53.0	151.8	100.0	51.0	33.9	66.3	43.6
56	商	166.0	56.0	87.5	52.6	171.0	103.0	53.5	32.2	73.3	44.0
57	農	159.2	44.8	80.5	50.5	158.0	99.2	52.0	32.6	69.0	43.0
58	農	164.2	51.0	80.0	49.7	168.0	102.0	53.0	32.3	71.3	49.4
59	會	164.2		81.0	49.2	159.5	97.0	52.0	31.6	69.8	41.8
60	船員	166.5	56.0	88.5	53.0	167.0	100.1	55.0	33.0	71.0	42.6
		68.0	40.5	39.0	24.2	32.5	51.1	17.5	10.8	22.5	13.9
		62.0	51.5	36.0	22.1	80.5	50.0	17.4	10.8	23.1	14.3
		75.0	44.1	42.5	25.0	85.6	50.3	20.2	12.0	27.0	15.0
		70.0	42.3	35.5	21.2	86.0	52.0	17.0	10.3	24.0	14.1
		64.5	42.2	32.0	20.9	79.8	52.1	17.0	11.1	23.5	15.4
		84.5	52.5	38.5	23.5	88.0	54.6	20.0	12.4	24.0	14.9
		59.0	38.8	33.5	22.0	77.0	50.6	17.5	11.5	23.5	15.4
		71.0	42.0			81.0	47.9				98.0
		70.2	42.8	38.0	23.2	86.3	52.5	18.8	11.4	25.3	14.8
		73.5	49.1	35.0	23.4	76.3	51.0	15.4	10.3	21.3	14.2
		65.5	38.1	40.0	23.1	87.6	51.5	18.1	10.5	25.3	14.7
		71.0	43.2			82.0	49.9				90.0
		67.0	40.6			80.0	48.5				75.0
		65.5	41.0			85.0	53.0				
		67.0	41.6	37.0	23.0	81.3	50.5	17.1	11.1	22.2	13.7
			37.0	22.9	83.5	51.6	17.7	10.9	23.5	14.5	95.0
		65.2	40.5								
		67.0	41.2	39.0	24.0	80.5	49.6	17.3	10.6	21.7	13.4
		70.0	43.6	37.0	23.0	84.0	52.5	18.4	11.4	23.5	14.7
		78.0	47.8	36.0	22.0	88.5	54.3	17.5	10.7	25.0	15.3
		70.0	45.0	33.5	21.5	79.0	50.8	16.5	10.6	22.5	14.5
		67.5	41.3	37.5	22.9	85.0	51.9	18.1	11.5	23.6	14.4
		66.5	41.0	39.0	24.0	83.0	51.2	17.0	10.5	22.0	13.6
		73.0	46.8	39.0	25.0	80.0	51.2	18.7	12.0	25.2	15.6
		71.0	43.6	39.0	25.6	80.0	52.5	16.5	10.7	23.0	15.1
		67.5	43.6	37.5	24.7	80.3	51.5	17.2	11.3	24.0	15.8
		71.0	44.0	40.0	24.1	87.0	52.5	18.5	11.1	24.5	14.7
		62.0	43.0	39.0	24.4	81.0	51.0	18.0	11.3	23.0	14.4
		65.0	49.4	36.0	21.9	83.0	53.8	18.3	11.1	25.0	15.2
		62.0	41.8	39.0	23.7	85.3	51.8	18.0	10.9	24.0	14.6
		68.0	42.6	40.0	24.0	82.8	49.8	18.5	11.1	24.0	14.7

第 1 表 (B) 女 子 重 症 肺 結 核 群 測 定 成 績

年 齡	職 業	身 長	體 重	胸 圍	比 胸 圍	指 極	比 指 極	軀 長	比 軀 長	肺 長	比 肺 長	坐 高	比 坐 高	腹 圍	比 腹 圍	臍 位	比 臍 位	腳 長	比 腳 長	手 掌	比 手 掌	足 趾	比 足 趾	助 骨 角
1 19		157.1	47.4	76.5	48.6	156.6	99.6	52.0	33.3	69.0	43.9			75.0	47.6	38.5	24.5	79.3	50.4	19.0	12.1	23.0	14.6	67.5
2 18	看	157.0		81.0	51.5	150.5	96.0	53.0	33.8	64.3	41.0			66.0	42.0	89.0	24.0	78.8	50.0	16.8	10.7	22.0	14.0	80.0
3 19		152.0	43.2	76.5	50.3	142.0	93.5			71.2	46.8							79.5	52.0				75.0	
4 20	農	147.0	46.0	75.5	51.4	153.8	104.5	48.5	33.0	64.3	34.9			68.0	46.3	33.5	22.8	75.5	51.4	17.0	11.6	21.0	14.6	62.5
5 20		148.7	34.2	71.0	47.7	138.0	93.0	50.0	33.6	60.5	40.7			65.5	44.0	35.0	23.0	73.3	49.3	15.6	10.5	20.5	13.8	57.5
6 23		148.0	30.2			146.7	99.0	43.5	29.4	69.0	46.6			52.0	35.2			72.0	48.5				40.0	
7 24		143.0	37.5	76.5	53.5	143.5	100.0	47.0	32.9	61.8	43.2			64.5	45.8	34.0	23.8	72.6	50.1	15.5	10.8	20.6	14.4	77.5
8 26		146.0	35.0	76.0	52.0	153.4	105.0	44.0	30.8	59.9	41.1			61.0	41.8	33.0	22.6	76.3	52.2	17.4	11.9	22.0	15.1	75.0
9 27	商	152.4	43.0	78.5	51.5	152.0	99.8	51.0	33.5	65.5	43.0			61.0	40.0	35.5	23.3	80.5	52.8	16.8	11.0	22.0	14.4	70.0
10 28	教	147.2	28.2	66.0	44.8	142.0	96.5			49.0	33.3			65.5	44.5			80.0	54.3					85.0
11 28	商	146.0	35.5	71.0	48.6	150.0	102.8							65.0	45.0	33.0	22.8	75.8	52.5	16.0	11.1	22.0	15.3	62.5
12 28	農	144.3	40.0	73.0	50.2	152.0	105.3	44.0	30.3	63.4	43.8			63.0	42.8	34.0	23.1	72.5	49.3	16.8	11.4	22.5	15.3	85.0
13 29		147.0	40.0	74.0	50.3	145.0	98.8	51.0	34.7	63.5	43.1			67.5	44.8	35.0	23.2	79.8	53.0	16.8	11.5	22.5	14.9	85.0
14 32	農	150.4	42.0	81.0	53.8	156.0	103.0	46.0	30.4	66.3	44.0			66.0	42.5	38.0	24.4	81.5	52.5	17.9	11.5	22.5	14.5	80.0
15 32		155.5	48.4	81.0	52.0	152.8	98.3	54.0	34.8	66.6	42.8			62.0	39.6	35.0	22.4	82.0	52.4	17.5	11.2	23.2	14.8	72.5
16 34	商	156.5	46.3	78.2	49.9	161.0	102.8	53.2	32.2	68.1	43.5			62.0	40.8	35.5	23.4	80.5	52.9	18.0	11.8	22.0	14.5	65.0
17 36		152.0	40.0	71.0	46.7	152.0	100.0	50.0	32.6	62.0	40.8							80.0	52.5					
18 38		152.0	38.0	75.0	49.2	143.0	94.0			67.0	43.9			59.8	39.6	36.0	23.8	77.5	51.3	17.8	11.6	22.0	14.6	95.0
19 46	農	151.0	43.4	75.7	50.0	155.0	102.0	51.0	33.8	67.6	44.8			56.0	36.6	30.5	19.9	83.8	54.6	16.5	10.8	21.8	14.2	80.0
20 24		153.0	48.9	82.5	54.0	151.0	98.8	47.5	31.0	65.9	43.0			68.2	44.5	35.0	26.2	79.0	51.5	17.0	11.1	22.0	14.3	
21 22	學	153.5		77.0	50.0	149.5	97.5	53.0	34.5	63.8	41.5	83.5	50.0				24.4	85.3	53.1	18.0	11.2	23.5	14.7	
22 28	農	160.2	52.0	83.0	51.8	165.0	103.0	55.0	34.3	71.9	44.8			73.0	45.5	39.0	24.4	74.0	51.6	16.8	11.7	20.5	14.0	
23 33		143.0		81.5	57.0	142.0	99.5	49.5	34.6	60.8	42.5			67.0	47.0	35.0	24.4	73.5	50.0	15.2	10.3	21.5	14.6	
24 29	學	147.0	40.0	80.0	54.4	146.5	99.6	47.0	32.0	64.0	43.1	82.3	56.0	64.0	43.1	34.5	23.2	73.5	50.0	15.2	10.3	21.5	14.6	
25 33	農	146.0	40.0	77.0	52.6	149.0	102.0	49.0	33.6	65.5	45.0	76.2	52.1	63.0	43.1	33.5	23.0	76.5	52.5	16.0	10.9	21.5	14.7	
26 33	農	152.5	48.3	81.0	53.0	152.0	99.8	50.0	32.8	67.0	44.0	79.0	51.8	72.0	47.2	37.5	24.6	76.8	50.3	17.0	11.1	24.0	15.7	
27 35	農	141.1	39.5	75.0	53.0	145.0	102.6	46.0	32.5	61.5	43.5	78.0	55.2	64.0	45.6	35.0	24.8	75.0	53.0	16.0	11.3	21.5	15.2	
28 33	農	155.5	42.3	84.0	54.0	155.5	100.0	50.5	32.5	69.0	44.4	78.8	50.6	84.5	54.0	36.0	23.5	78.9	50.6	18.0	11.6	23.0	14.8	
29 22	農	144.7	40.0	79.0	54.6	139.5	96.5	48.0	33.2	61.8	42.7	81.0	56.0	65.0	46.5	35.0	24.2	72.5	50.5	16.0	11.5	21.0	14.5	
30 31		152.0	44.0	83.0	54.5	146.0	96.1	53.0	34.2	63.5	41.6	84.5	55.5	64.5	42.4	41.0	27.0	75.5	49.6	16.5	10.8	22.5	14.8	

第1節 各種測定値

(1) 重症肺結核群測定成績

第1表 重症肺結核群測定側値の分布及び其の平均値

体 重														
性	検査員	級 頻度	27~31	31~35	35~39	39~43	43~47	47~51	51~55	55~59	59~63	63~67	67~71	71~75
男	54	%			1.9	3.7	14.9	37.1	22.2	16.7	3.8			
女	27	%	7.4	7.4	11.1	36.6	18.5	14.7	3.7					

(男 体重平均値 50.9 kg 男 体重中央値 50.5 kg)

(女 体重平均値 44.9 kg 女 体重中央値 40.4 kg)

性	検査員	頻度	級 cm	身 長										
				137~141	141~145	145~149	149~153	153~157	157~161	161~165	165~169	169~173	173~177	177~181
男	60	%				1.7	13.3	5.0	16.7	28.4	25.0	6.7	3.4	
女	30	%			16.7	30.0	30.1	16.6	6.6					

(男 身長平均値 162.2 cm 男 身長中央値 162.1 cm)

(女 身長平均値 151.0 cm 女 身長中央値 150.1 cm)

胸 圍														
性	檢 査	人 員	級 頻 度	級 cm										
				60~64	64~68	68~72	72~76	76~80	80~84	84~88	88~92	92~96	96~ 100	100~ 104
男	60	%				1.7	3.3	21.7	40.0	23.4	6.7	1.7		
女	29	%		3.5	10.3	24.0	27.6	34.6					1.7	

(男 胸圍平均値 81.9 cm 男 胸圍中央値 82.7 cm)

(女 胸圍平均値 77.5 cm 女 胸圍中央値 77.6 cm)

比 胸 圍														
性	檢 查 人 員	級 頻 度	40~42	42~44	44~46	46~48	48~50	50~52	52~54	54~56	56~58	58~60	60~62	62~64
男	60	%			3.3	13.3	21.7	31.7	16.7	8.3	3.3			
女	29	%			3.5	6.9	20.6	31.0	24.0	10.3	3.5			1.6

(男 比胸圍平均値 50.7 男 比胸圍中央値 50.5)

(女 比胸圍平均値 51.1 女 比胸圍中央値 51.1)

指 極

性	檢 查 人 員	級 頻 度	135~ 140	140~ 145	145~ 150	150~ 155	155~ 160	160~ 165	165~ 170	170~ 175	175~ 180	180~ 185	185~ 190	190~ 195
男	60	%			1.7	6.7	20.0	21.7	30.0	13.3	5.0	1.7		
女	30	%	6.7	20.0	24.0	33.3	10.0	6.3						

(男 指極平均值 164.5 cm 男 指極中央值 164.0 cm)

(女 指極平均值 149.5 cm 女 指極中央值 150.0 cm)

比 指 極

性	檢 查 人 員	級 頻 度	92~94	94~96	96~98	98~100	100~ 102	102~ 104	104~ 106	106~ 108	108~ 110	110~ 112
男	60	%		1.7	6.7	26.7	30.0	26.7	8.3			
女	30	%	10.0	3.3	13.3	39.9	23.3	10.0				

(男 比指極平均值 101.6 男 比指極中央值 101.3)

(女 比指極平均值 99.6 女 比指極中央值 99.6)

坐 高

性	檢 查 人 員	級 頻 度	71~75	75~79	79~83	83~87	87~91	91~95	95~99	99~103
男	20	%			30.0	20.0	35.0	5.0	10.0	
女	8	%		50.0	25.0	25.0				

(男 坐高平均值 87.5 cm 男 坐高中央值 88.0 cm)

(女 坐高平均值 81.3 cm 女 坐高中央值 81.0 cm)

比 坐 高

性	檢 查 人 員	級 頻 度	40~42	42~44	44~46	46~48	48~50	50~52	52~54	54~56	56~58	58~60	60~62
男	20	%					10.0	10.0	40.0	30.0	10.0		
女	8	%					12.5	25.0	12.5	5.0			

(男 比坐高平均值 54.2 男 比坐高中央值 53.8)

(女 比坐高平均值 54.4 女 比坐高中央值 54.8)

軀 幹 長

性	檢 查 人 員	級 頻 度	39~42	42~45	45~48	48~51	51~54	54~57	57~60	60~63
男	54	%		1.8	9.3	26.0	54.0	3.7	5.5	
女	26	%	3.8	7.7	23.0	38.5	23.0	3.8		

(男 軀幹前壁長平均值 51.9 cm 男 軀幹前壁長中央值 52.0 cm)

(女 軀幹前壁長平均值 49.4 cm 女 軀幹前壁長中央值 50.0 cm)

比 軀 幹 長

性	檢 査 人 員	級 頻 度	21~23	23~25	25~27	27~29	29~31	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41
男	54	%				3.7	18.5	52.0	24.1	1.9		
女	26	%					19.3	34.7	46.0			

(男 比軀幹前壁長平均値 32.0

男 比軀幹前壁長中央値 32.0)

(女 比軀幹前壁長平均値 32.9

女 比軀幹前壁長中央値 33.0)

腕 長

性	檢 査 人 員	級 頻 度	45~49	49~53	53~57	57~61	61~65	65~69	69~73	73~77	77~81
男	52	%	1.9				5.7	23.3	31.9	15.3	1.9
女	29	%	3.5			10.3	41.4	37.9	6.9		

(男 腕長平均値 70.3 cm

男 腕長中央値 70.3 cm)

(女 腕長平均値 64.6 cm

女 腕長中央値 64.3 cm)

比 腕 長

性	檢 査 人 員	級 頻 度	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47	47~49	49~51
男	52	%					1.9	34.5	53.9	5.7		
女	29	%		6.8			10.3	27.5	48.3	6.9	1.9	1.9

(男 比腕長平均値 43.8

男 比腕長中央値 43.7)

(女 比腕長平均値 42.8

女 比腕長中央値 43.0)

腹 圍

性	檢 査 人 員	級 頻 度	41~45	45~49	49~53	53~57	57~61	61~65	65~69	69~73	73~77	77~81	81~85	85~89
男	58	%	1.7			1.7	7.0	20.6	32.8	22.4	8.6	3.5	1.7	
女	27	%			3.7	3.7	11.1	37.0	29.6	7.4	3.7		3.7	

(男 腹圍平均値 67.2 cm

男 腹圍中央値 67.0 cm)

(女 腹圍平均値 65.4 cm

女 腹圍中央値 65.5 cm)

比 腹 圍

性	檢 査 人 員	級 頻 度	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47	47~49	49~51	51~53	53~55	55~57
男	58	%			5.2	18.7	15.5	14.1	17.2	8.6	3.5	3.5	3.5		
女	27	%			7.4		14.8	18.5	25.9	22.2	7.4				

(男 比腹圍平均値 42.0

男 比腹圍中央値 42.0)

(女 比腹圍平均値 43.6

女 比腹圍中央値 44.5)

臍 位

性	検査人員	級 頻度	29~31	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47
男	52	%		3.8	11.5	27.0	32.7	23.1	1.9		
女	25	%	4.0	8.0	48.0	16.0	20.0	4.0			

(男 臍位平均値 37.5 cm 男 臍位中央値 37.0 cm)

(女 臍位平均値 35.5 cm 女 臍位中央値 35.5 cm)

比 臍 位

性	検査人員	級 頻度	19~21	21~23	23~25	25~27	27~29
男	52	%	5.7	36.6	53.9	3.8	
女	25	%	4.0	24.0	64.0	8.0	

(男 比臍位平均値 23.2 男 比臍位中央値 23.2)

(女 比臍位平均値 23.7 女 比臍位中央値 23.5)

脚 長

性	検査人員	級 頻度	55~59	59~63	63~67	67~71	71~75	75~79	79~83	83~87	87~91	91~95	95~99
男	59	%					1.7	10.2	42.4	32.2	11.9	1.7	
女	30	%					26.6	36.6	30.0	6.6			

(男 脚長平均値 83.1 cm 男 脚長中央値 83.9 cm)

(女 脚長平均値 77.5 cm 女 脚長中央値 77.5 cm)

比 脚 長

性	検査人員	級 頻度	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47	47~49	49~51	51~53	53~55	55~57
男	59	%								1.7	9.2	40.8	35.7	10.2	1.7
女	30	%								3.3	33.4	53.4	10.0		

(男 比脚長平均値 51.1 男 比脚長中央値 51.0)

(女 比脚長平均値 51.6 女 比脚長中央値 51.6)

手掌の長さ

性	検査人員	級 頻度	15~16	16~17	17~18	18~19	19~20	20~21	21~22
男	52	%	3.9	13.5	38.4	34.6	7.7	1.9	
女	25	%	28.0	40.0	28.0	4.0			

(男 手掌の長さ平均値 17.9 cm 男 手掌の長さ中央値 18.0 cm)

(女 手掌の長さ平均値 16.9 cm 女 手掌の長さ中央値 17.0 cm)

比 手 掌

性	檢 査 人 員	級 頻 度	10~11	11~12	12~13	13~14
男	52	%	47.0	51.0	1.9	
女	51	%	32.0	64.0	4.0	

(男 比手掌平均値 11.1 男 比手掌中央値 11.1)

(女 比手掌平均値 11.3 女 比手掌中央値 11.3)

足 趾 の 長 さ

性	檢 査 人 員	級 頻 度	19~20	20~21	21~22	22~23	23~24	24~25	25~26	26~27	27~28
男	52	%			5.8	13.5	40.4	30.8	5.8	3.8	
女	25	%		20.0	44.0	24.0	12.0				

(男 足趾の長さ平均値 23.5 cm 男 足趾の長さ中央値 24.2 cm)

(女 足趾の長さ平均値 22.0 cm 女 足趾の長さ中央値 22.0 cm)

比 足 趾

性	檢 査 人 員	級 頻 度	10~11	11~12	12~13	13~14	14~15	15~16	16~17
男	52	%				15.7	57.0	25.5	1.9
女	25	%				12.0	68.0	20.0	

(男 比足趾平均値 14.7 男 比足趾中央値 14.7)

(女 比足趾平均値 14.7 女 比足趾中央値 14.7)

肋 骨 角

性	檢 査 人 員	級 頻 度	40~46	46~52	52~58	58~64	64~70	70~76	76~82	82~88	88~94	94~100
男	41	%	2.4	2.4		4.8	9.7	34.2	14.6	9.7	12.2	9.7
女	19	%	5.3	10.6	5.3	10.3	15.9	15.9	21.1	10.5		5.3

(男 肋骨弓角平均値 78°.0' 男 肋骨弓角中央値 75°.0')

(女 肋骨弓角平均値 69°.9' 女 肋骨弓角中央値 70°.0')

第 3 表 (A) 男 子 輕 症 肺 結 核 群 測 定 成 績

年 香 號	職 業	身 長	體 重	胸 圍	比 胸 圍	指 極	比 指 極	軀 長	比 軀 長	腕 長	比 腕 長	坐 高	比 坐 高	腹 圍	比 腹 圍	臍 位	比 臍 位	脚 長	比 脚 長	手 掌	比 手 掌	足 趾	比 足 趾	助 骨 角
1	20 學	169.8	57.6	82.0	48.3	174.0	102.5	57.2	33.1	74.8	44.0			75.0	32.9	39.7	23.4	87.4	51.4	18.2	10.7	25.0	15.0	92.5
2	20 職	162.2	47.0	79.0	48.6	160.0	98.6	54.2	33.4	70.8	43.6			64.5	39.7	37.5	23.0	82.1	50.8	18.3	11.3	24.7	15.2	60.0
3	20 船	176.5	68.6	90.0	51.0	178.5	101.1	58.0	32.9	77.6	43.9			72.5	41.0	42.0	23.8	90.2	51.1	20.5	11.6	27.0	15.3	80.0
4	20 農	165.2	43.0	75.0	45.4	167.0	101.0	52.5	31.4	72.0	43.5			57.0	34.4	40.0	24.2	86.5	52.4	18.0	10.9	24.0	14.5	70.0
5	20 農	159.6	52.3	82.0	51.5	163.5	102.0	53.0	33.2	69.3	43.4			65.5	41.0	38.0	23.8	84.0	52.6	17.3	10.8	24.3	15.2	75.0
6	20 農	158.5	49.6	79.5	50.1	162.5	102.5	48.0	30.1	63.8	40.2			64.7	40.5	35.0	22.0	81.0	51.0	18.0	11.4	23.5	14.8	80.0
7	20 農	159.1	52.3	78.0	49.9	156.0	98.0	53.5	33.5	66.5	41.8			60.5	47.9	38.5	24.2	76.0	47.7	17.5	11.0	21.5	13.5	85.0
8	21 農	154.5	50.0	81.5	52.7	155.5	100.5	50.0	32.2					74.0	48.0			75.0	48.5					70.5
9	21 商	161.5	48.4	79.5	49.2	159.2	98.7	55.0	34.0	67.0	41.5			60.5	37.5	36.0	23.5	82.0	50.9	17.5	10.9	23.0	14.2	80.0
10	22 商	159.2	51.2	80.0	52.1	161.3	101.3	55.0	34.5	68.8	43.2			65.5	41.1	39.5	24.8	82.5	51.8	17.8	11.2	23.5	14.2	92.0
11	22 教	166.8	48.6	81.5	48.9	166.5	99.9	55.0	33.0	71.3	42.7			65.0	40.2	39.0	25.1	87.5	52.5	18.0	10.8	24.2	14.1	70.0
12	23 農	163.5		82.0	50.2	164.6	100.5	51.0	31.2	70.7	43.3			67.2	41.1	36.5	22.3	82.8	50.7	19.0	11.6	24.9	15.2	80.0
13	25 會	159.5	50.0	77.5	48.5	161.0	101.0	55.5	34.8	68.0	42.6			68.5	42.9	38.0	23.8	78.8	49.4	17.8	11.1	23.5	14.8	80.0
14	25 學	166.2	61.0	88.0	53.0	174.0	104.5	54.5	32.8	72.6	43.6			67.5	40.5	38.5	23.2	86.7	52.1	17.7	11.6	24.0	14.4	85.0
15	28 小使	159.2	45.9	82.0	51.5	156.0	98.0	52.5	32.9	73.0	45.8			68.5	43.1	35.5	22.2	82.0	51.5	19.5	12.4	25.0	15.7	70.0
16	28 農	161.7	53.8	86.0	53.3	164.5	101.8	52.0	32.2	71.3	44.1			75.3	46.6	37.0	22.9	76.9	47.0	18.0	11.2	23.0	14.2	65.0
17	29 農	155.6	55.0	91.0	58.6	160.5	103.3	51.0	32.8	57.5	37.0			72.5	46.7	36.0	23.0			17.5	11.3	22.5	14.1	85.0
18	30 商	161.0	44.8	81.7	50.8	168.4	104.6	54.0	33.6	70.8	43.9			60.5	47.5	39.5	24.5	82.5	51.3	18.2	11.3	23.3	14.7	65.0
19	32 商	177.7	57.2	85.3	47.8	171.9	96.0	58.0	32.6	73.3	41.0			71.5	40.0	40.0	22.5	82.2	46.5	18.9	10.6	24.3	13.6	85.0
20	32 農	158.8	51.3	79.3	49.9	161.0	101.4	50.7	31.9	69.0	43.5			68.0	42.8	37.0	23.3	83.5	52.6	17.5	11.0	23.5	14.8	90.0
21	33 商	151.7	54.4	86.0	56.7	155.5	102.5	51.5	34.0	65.1	42.9			77.4	51.0	35.5	23.2	76.3	50.1	16.4	10.7	23.0	15.2	75.0
22	36 農	156.5	49.6	83.0	53.0	161.5	103.0	51.0	32.6	68.0	43.5			68.5	43.8	38.5	24.6	85.5	54.6	18.2	11.6	23.4	14.9	75.0
23	39 農	159.9	45.2	87.2	54.5	170.5	106.7	49.0	30.7	72.2	44.8			70.5	46.3	38.0	21.8	85.1	54.5	18.5	10.6	23.9	13.5	86.0
24	20 學	159.8	55.3	79.0	46.5	163.0	102.0	53.0	33.2	68.5	43.0			63.5	39.8	39.0	24.4	82.3	32.7	17.5	11.0	23.5	14.7	75.0
25	21 學	169.9	51.3	80.7	47.5	170.2	100.0	49.5	29.2	72.8	43.0			67.0	39.5	38.5	22.7	68.7	40.5	18.5	10.9	23.3	13.8	75.0
26	21 商	162.2	54.2	80.0	49.6	160.6	99.0	55.0	34.9	68.5	42.2			62.0	38.2	40.5	25.0	82.3	50.7	17.5	10.8	23.3	14.4	70.0
27	21 學	151.8	48.0	80.5	53.0	151.8	100.0	51.5	33.9	66.3	43.6			67.5	44.5	37.5	24.7	78.3	51.5	17.2	11.3	24.0	15.8	

[illegible]

30	36	農	147.3	47.0	48.0	57.0	144.0	98.0	51.0	34.6	63.5	43.0	73.0	49.5	36.0	24.4	76.5	52.0	16.7	11.2	22.2	15.0
31	28	商	153.5		86.5	56.4	156.0	101.5	49.0	32.0	64.8	42.0	79.0	51.5	35.0	22.8	82.5	53.7	16.5	10.7	21.5	14.0
32	40	農	139.2		78.0	56.0	141.0	101.0	47.0	33.8	62.0	44.5	67.0	48.0	34.0	22.8	69.5	50.0	15.5	11.2	21.5	15.4
33	22	農	149.0		84.0	56.4	149.0	100.0	54.7	36.7	64.2	43.0	66.0	44.2	37.0	24.8	73.0	49.0	17.5	11.8	22.0	14.8
34	18	看	151.5	56.2	85.0	56.0	156.5	103.0	51.0	33.6	66.5	43.3	70.5	46.5	37.5	24.7	82.3	53.3	17.5	11.5	22.5	14.7
35	23	農	142.5	41.2	80.0	56.0	146.0	102.5	39.0	27.4	62.4	43.8	60.0	42.0	30.0	21.0	77.5	54.3	16.5	11.6	22.0	15.4
36	26	農	158.5	52.0	86.0	54.2	165.2	100.4	50.0	31.6	71.0	44.8	68.5	43.1	36.0	22.7	83.0	52.4	18.5	11.6	23.5	14.8
37	24	農	158.6	51.0	78.5	49.2	157.5	99.5	54.0	34.0	65.0	41.6		45.5	38.0	24.0	82.5	52.3	16.9	10.6		75.0
38	37	農	158.0	50.0	80.0	50.5	161.6	102.0	53.7	34.0	69.5	44.0	66.0	41.8	40.0	25.3	83.0	51.4	17.8	11.2	22.0	13.9
39	42	農	147.5	44.3	79.5	54.0	144.0	97.8	52.0	35.2	61.5	41.7	65.0	44.0	36.5	24.7	74.5	50.5	16.5	11.2	21.0	14.2
40	45	商	150.0	52.4	86.5	57.5	157.7	104.3	50.0	33.3	66.5	44.2	74.0	49.0	37.0	24.6	75.8	50.5	16.9	11.3	22.3	14.8
41	34	農	151.0	43.0	75.0	49.6	149.0	98.8	51.5	34.1	63.3	42.0	63.0	42.4	37.0	24.5	78.5	52.0	16.4	10.8	22.5	14.9
42	27	商	153.9	47.6	81.0	52.6	151.5	102.0	50.0	32.5	66.3	42.5	65.0	42.2	37.0	24.1	81.8	53.1	17.3	11.2	21.5	14.0
43	40	農	152.0	46.0	84.0	51.2	154.0	101.1	49.0	32.2	67.5	44.4	60.5	39.9	31.5	20.7	83.8	55.0	17.0	11.2	21.0	13.8
44	24	農	150.5	47.0	87.0	57.8	151.8	101.0	51.5	34.2	65.5	43.5	69.0	45.9	39.0	25.9	74.3	49.4	17.0	11.3	21.5	14.3
45	37	教	143.5	43.0	79.0	55.0	141.5	98.5	51.5	35.8	60.0	41.8	63.5	44.2	32.5	22.6	70.5	49.0	15.5	10.8	20.5	14.3
46	26	農	148.2	49.0	86.0	53.7	147.0	99.0	51.0	44.4	62.7	42.2	70.0	47.2	38.0	25.6	72.3	48.6	16.0	10.8	22.5	14.8
47	20	看	148.8	47.0	80.0	54.0	149.8	100.6	48.0	32.1	66.5	44.6	67.0	45.0	34.5	23.2	76.8	51.6	17.0	11.4	22.0	14.8
48	23	農	148.0	52.0	83.0	56.0	148.1	100.1	49.5	33.4	64.8	43.7	69.0	46.5	35.0	23.6	73.5	49.6	17.0	11.5	23.0	15.5
49	21	農	145.0	41.1	79.0	54.5	148.5	102.0	46.7	32.2	59.6	41.0	66.5	45.9	34.0	23.4	74.5	51.5	16.7	11.5	22.0	15.3
50	18	農	148.8	50.0	81.5	54.9	148.5	99.9	49.5	33.0	64.5	43.4	74.5	50.1	35.0	23.5	78.0	52.5	15.5	10.4	20.5	13.8
51	18	學	147.2	45.0	80.0	54.3	148.5	100.9	49.0	33.2	62.8	42.6	65.8	44.6	34.5	23.4	79.3	49.0	16.5	11.2	21.0	14.2
52	24	農	151.0	43.0	75.0	49.6	150.0	99.5	49.0	32.4	65.0	43.0	61.0	40.4	38.0	25.2	75.5	50.0	16.5	10.9	22.5	14.9
53	31	農	144.0	37.5	71.5	49.6	140.5	97.5	49.5	34.4	60.8	42.1	64.0	44.5	34.5	23.9	68.8	47.6	15.0	10.4	22.5	15.6
54	19	農	155.2	51.2	82.5	53.0	161.0	103.7	53.0	34.1	69.0	44.5	75.0	48.3	33.0	21.2	80.3	51.8	17.5	11.3	22.5	14.5
55	26	農	151.2	46.0	75.0	49.6	146.8	97.3	53.0	35.0	63.0	41.6	68.0	45.0	39.0	25.8	78.0	51.5	17.8	11.8	22.7	15.5
56	21	農	153.0	52.0	83.5	54.5	151.0	98.8	52.0	34.0	66.9	43.7	68.0	44.5	39.0	25.4	74.5	48.6	16.7	10.9	22.5	14.7
57	30	農	153.0	44.0	83.0	54.1	150.0	98.0	53.0	34.6	65.2	42.6	70.5	46.0	38.5	25.2	78.5	51.4	17.5	11.8	21.0	13.7
58	31	農	148.1	62.5	92.0	62.0	154.0	104.0	50.5	34.2	67.5	45.5	86.0	55.0	36.0	24.2	80.3	54.1	17.5	11.8	22.3	15.0
59	20	農	154.0	50.6	85.5	55.5	156.6	101.6	49.0	31.8	66.3	43.0	71.0	46.0	37.0	24.0	80.5	52.3	18.0	11.7	24.5	15.9
60	22	學	156.0	49.2	78.0	50.0	155.0	99.5	51.5	33.0	67.8	43.4	64.0	41.0	38.0	24.4	79.5	51.0	17.0	10.9	22.5	14.4
61	19	學	141.4	39.0	75.5	53.4	142.0	100.2	46.0	32.6	61.8	43.6	62.0	43.8	34.5	24.4	73.8	52.0	16.5	11.7	21.0	14.8
62	28	農	149.2	40.4	74.0	49.5	148.3	99.5	53.0	35.4	64.0	42.8	59.5	39.8	37.0	24.9	76.5	51.3	17.1	11.4	22.0	14.7

(2) 輕症肺結核群測定成績

第4表 輕症肺結核群測定値の分布及び其の平均値

体 重

性	検査人員	頻度	級 kg	27~31	31~35	35~39	39~43	43~47	47~51	51~55	55~59	59~63	63~67	67~71	71~75
男	52	%					3.8	15.4	25.0	30.8	17.3	5.8		1.9	
女	58	%		1.7		3.5	20.6	34.5	20.7	15.5	1.7	1.7			

(男 体重平均値 51.9 kg 男 体重中央値 52.3 kg)
(女 体重平均値 46.3 kg 女 体重中央値 46.3 kg)

身 長

性	検査人員	頻度	級 cm	137~141	141~145	145~149	149~153	153~157	157~161	161~165	165~169	169~173	173~177	177~181
男	58	%			1.7	6.9	15.5	36.2	13.8	12.0	6.9	3.5	3.5	
女	62	%		4.8	16.1	21.0	32.3	16.1	9.7					

(男 身長平均値 159.8 cm 男 身長中央値 161.3 cm)
(女 身長平均値 149.2 cm 女 身長中央値 149.8 cm)

胸 囲

性	検査人員	頻度	級 cm	60~64	64~68	68~72	72~76	76~80	80~84	84~88	88~92	92~96	96~100	100~104	104~108
男	57	%					1.6	19.3	35.5	30.7	11.3		1.6		
女	62	%			1.5	5.8	20.3	32.3	21.7	15.9	1.5				

(男 胸圍平均値 82.1 cm 男 胸圍中央値 84.0 cm)
(女 胸圍平均値 77.4 cm 女 胸圍中央値 80.5 cm)

比 胸 圍

性	検査人員	頻度	級	40~42	42~44	44~46	46~48	48~50	50~52	52~54	54~56	56~58	58~60	60~62	62~64
男	57	%				3.5	8.8	24.6	17.5	22.8	12.3	7.0	3.5		
女	62	%			1.6	4.8	19.4	11.3	16.2	29.0	11.3	3.2	1.6	1.6	

(男 比胸圍平均値 51.7 男 比胸圍中央値 51.5)
(女 比胸圍平均値 53.0 女 比胸圍中央値 53.5)

指 極

性	検査人員	頻度	級 cm	135~140	140~145	145~150	150~155	155~160	160~165	165~170	170~175	175~180	180~185	185~190	190~195
男	58	%				1.7	5.2	19.0	38.0	15.5	15.5	5.2			
女	61	%		4.9	14.7	37.3	18.0	18.0	3.3	3.3	3.3				

(男 指極平均値 163.9 cm 男 指極中央値 163.5 cm)
(女 指極平均値 150.3 cm 女 指極中央値 149.8 cm)

比 指 極

性	検査人員	級 頻度	92~94	94~96	96~98	98~100	100~ 102	102~ 104	104~ 106	106~ 108	108~ 110	110~ 112
男	58	%		3.0	4.6	21.5	38.5	23.0	4.6	3.0	1.5	
女	61	%	1.6	3.3	11.5	34.4	34.4	9.8	3.2	1.6		

(男 比指極平均値 101.5

男 比指極中央値 100.1)

(女 比指極平均値 100.2

女 比指極中央値 100.2)

坐 高

性	検査人員	級 頻度	71~75	75~79	79~83	83~87	87~91	91~95	95~99	99~103
男	24	%		4.2	8.4	45.4	25.1	4.2	8.4	4.1
女	32	%		15.7	37.4	37.9	6.1	3.1		

(男 坐高平均値 87.1 cm

男 坐高中央値 87.0 cm)

(女 坐高平均値 82.6 cm

女 坐高中央値 82.2 cm)

比 坐 高

性	検査人員	級 頻度	40~42	42~44	44~46	46~48	48~50	50~52	52~54	54~56	56~58	58~60	60~62
男	24	%					4.2	20.8	16.6	37.5	16.6	4.2	
女	32	%						9.4	18.8	50.0	18.8	3.1	

(男 比坐高平均値 54.1

男 比坐高中央値 54.4)

(女 比坐高平均値 54.9

女 比坐高中央値 55.1)

軀 幹 長

性	検査人員	級 頻度	39~42	42~45	45~48	48~51	51~54	54~57	57~60	60~63
男	58	%	1.6		13.1	51.0	32.8	1.6		
女	61	%		1.7	1.7	36.2	36.2	19.0	5.2	

(男 軀幹前壁長平均値 52.3 cm

男 軀幹前壁長中央値 52.5 cm)

(女 軀幹前壁長平均値 50.3 cm

女 軀幹前壁長中央値 50.5 cm)

比 軀 幹 長

性	検査人員	級 頻度	21~23	23~25	25~27	27~29	29~31	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41
男	58	%					15.6	48.3	31.1	5.2		
女	61	%				1.6	3.3	31.2	49.2	11.5	1.6	1.6

(男 比軀幹前壁長平均値 32.0

男 比軀幹前壁長中央値 32.3)

(女 比軀幹前壁長平均値 33.7

女 比軀幹前壁長中央値 33.4)

腕 長

性	檢 査 人 員	頻 度	級 cm	45~49	49~53	53~57	57~61	61~65	65~69	69~73	73~77	77~81
男	57	%					1.8	3.5	33.3	47.3	12.3	1.8
女	62	%					9.7	45.0	38.8	6.5		

(男 腕長平均值 70.1 cm 男 腕長中央値 70.5 cm)

(女 腕長平均值 64.7 cm 女 腕長中央値 64.3 cm)

比 腕 長

性	檢 査 人 員	頻 度	級 cm	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47	47~49	49~51
男	57	%					1.7	7.0	24.5	58.1	7.0	1.7	
女	62	%					1.6	3.2	47.5	45.1	1.6		

(男 比腕長平均值 43.4 男 比腕長中央値 43.4)

(女 比腕長平均值 43.0 女 比腕長中央値 43.1)

腹 圍

性	檢 査 人 員	頻 度	級 cm	41~45	45~49	49~53	53~57	57~61	61~65	65~69	69~73	73~77	77~81	81~85	85~89
男	57	%						12.3	15.3	29.8	24.5	10.6	5.3	1.8	
女	61	%					1.6	16.3	24.6	22.9	22.9	6.5	3.3	1.6	

(男 腹圍平均值 68.4 cm 男 腹圍中央値 68.4 cm)

(女 腹圍平均值 67.0 cm 女 腹圍中央値 68.0 cm)

比 腹 圍

性	檢 査 人 員	頻 度	級	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47	47~49	49~51	51~53	53~55	55~57
男	57	%		1.8	1.8	3.5	8.8	21.0	24.6	8.8	12.8	12.3	3.5	1.8		
女	61	%					6.6	13.2	13.2	27.8	14.7	9.9	9.9	3.2	1.6	

(男 比腹圍平均值 42.8 男 比腹圍中央値 40.2)

(女 比腹圍平均值 44.7 女 比腹圍中央値 44.9)

臍 位

性	檢 査 人 員	頻 度	級 cm	29~31	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47
男	57	%		1.8		5.2	29.8	36.8	24.6	1.8		
女	61	%		3.3	8.2	39.4	29.5	14.8	4.9			

(男 臍位平均值 37.9 cm 男 臍位中央値 38.0 cm)

(女 臍位平均值 35.6 cm 女 臍位中央値 36.0 cm)

比 脚 位

性	検査人員	級 頻度	19~21	21~23	23~25	25~27	27~29
男	57	%		35.1	57.8	7.0	
女	61	%	6.6	24.6	57.4	11.5	

(男 比脚位平均値 23.5 男 比脚位中央値 23.6)

(女 比脚位平均値 23.7 女 比脚位中央値 23.8)

脚 長

性	検査人員	級 頻度	55~59	59~63	63~67	67~71	71~75	75~79	79~83	83~87	87~91	91~95	95~99
男	57	%	1.8			1.8	3.5	17.4	36.9	26.3	10.5	1.8	
女	62	%			1.6	8.1	27.4	32.5	27.4	3.2			

(男 脚長平均値 82.0 cm 男 脚長中央値 82.5 cm)

(女 脚長平均値 76.5 cm 女 脚長中央値 76.0 cm)

比 脚 長

性	検査人員	級 頻度	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47	47~49	49~51	51~53	53~55	55~57
男	57	%	1.8		1.8		1.8			3.5	3.5	33.3	42.2	12.1	
女	61	%							1.6	1.6	13.0	29.0	41.9	11.4	1.6

(男 比脚長平均値 50.5 男 比脚長中央値 51.3)

(女 比脚長平均値 51.1 女 比脚長中央値 51.4)

手 掌

性	検査人員	級 頻度	15~16	16~17	17~18	18~19	19~20	20~21	21~22
男	57	%		14.0	51.0	28.1	3.5	3.4	
女	61	%	13.1	55.7	27.9	3.3			

(男 手掌の長さ平均値 17.9 cm 男 手掌の長さ中央値 17.7 cm)

(女 手掌の長さ平均値 16.8 cm 女 手掌の長さ中央値 16.9 cm)

比 手 掌

性	検査人員	級 頻度	10~11	11~12	12~13	13~14
男	57	%	49.1	49.1	1.8	
女	61	%	39.4	60.4		

(男 比手掌平均値 11.1 男 比手掌中央値 11.2)

(女 比手掌平均値 11.2 女 比手掌中央値 11.3)

足 趾

性	検査人員	級 頻度	19~20	20~21	21~22	22~23	23~24	24~25	25~26	26~27	27~28
男	57	%			10.5	15.8	38.6	26.4	5.4	3.5	
女	61	%	4.9	49.2	19.7	19.7	1.6	1.6	3.3		

(男 足趾の長さ平均値 22.0 cm 男 足趾の長さ中央値 24.0 cm)
(女 足趾の長さ平均値 22.2 cm 女 足趾の長さ中央値 22.1 cm)

比 足 趾

性	検査人員	級 頻度	10~11	11~12	12~13	13~14	14~15	15~16	16~17
男	57	%				12.3	58.0	29.8	
女	61	%			1.6	21.3	57.4	19.7	

(男 比足趾平均値 14.7 男 比足趾中央値 14.7)
(女 比足趾平均値 14.3 女 比足趾中央値 14.5)

肋 骨 角

性	検査人員	級 頻度	40~46	46~52	52~58	58~64	64~70	70~76	76~82	82~88	88~94	94~100
男	46	%	2.2			2.2	19.6	28.4	19.6	13.0	6.6	8.6
女	37	%			2.7	16.2	24.3	24.3	16.2	10.8	5.4	

(男 肋骨弓角平均値 77.8° 男 肋骨弓角中央値 75.0°)
(女 肋骨弓角平均値 73.0° 女 肋骨弓角中央値 72.5°)

第 5 表 (A) 男子健康者群測定成績

番 號	年 齡	職 業	身 長	体 重	胸 圍	比 胸 圍	指 極	比 指 極	番 號	年 齡	職 業	身 長	体 重	胸 圍	比 胸 圍	指 極	比 指 極
1	20	學	173.7	54.0	80.0	46.0	176.3	101.5	17	35	賄夫	160.6	57.0	82.0	51.0	165.0	102.8
2	30	看守	161.0	56.0	82.9	51.5	154.2	96.5	18	32	”	160.9	61.0	85.0	52.9	169.4	105.1
3	47	”	161.1	52.8	82.5	51.5	162.1	100.5	19	26	教	151.5	47.0	83.5	55.0	151.5	100.0
4	42	賄夫	163.4	60.0	88.0	54.1	165.0	101.0	20	20	學	156.3	55.5	85.7	54.7	159.1	102.0
5	34	看護	164.5	73.5	94.0	57.0	172.1	104.5	21	20	”	158.0	45.0	81.1	51.3	161.0	102.0
6	29	賄夫	171.7	65.0	89.3	52.0	191.0	111.0	22	20	”	159.0	48.9	78.2	49.1	165.7	104.0
7	20	”	173.3	50.0	82.0	47.3	172.9	99.6	23	20	”	160.0	58.0	87.0	54.4	163.1	102.0
8	44	”	152.1	55.0	84.0	55.0	163.6	107.1	24	20	”	161.7	52.0	82.6	51.0	164.0	101.2
9	40	”	153.2	51.5	78.0	50.8	154.0	100.2	25	20	”	164.0	53.5	86.0	52.5	164.0	100.0
10	49	看護	154.1	65.0	92.0	59.5	164.6	107.0	26	20	”	163.7	52.5	81.2	49.5	168.4	103.0
11	43	”	157.0	52.4	81.5	51.9	161.8	103.0	27	20	”	164.1	67.0	92.4	56.3	167.2	102.0
12	32	賄夫	157.0	62.0	87.0	55.4	167.5	106.6	28	20	”	167.7	63.0	88.0	52.5	172.1	102.5
13	23	”	157.5	62.0	84.0	52.4	164.2	104.1	29	20	”	168.1	53.5	79.0	47.0	168.4	100.5
14	42	”	157.7	56.3	84.0	53.3	166.0	105.6	30	20	”	170.7	55.5	82.5	48.5	167.2	98.0
15	20	學	160.4	55.0	87.6	54.5	163.0	101.5	31	20	”	170.0	61.0	82.4	48.5	174.5	102.5
16	35	賄夫	160.5	55.2	83.0	51.6	165.4	103.0	32	20	”	169.3	59.5	89.6	53.0	169.2	100.0

第 5 表 (B) 女子健康者群測定成績

番 號	年 齡	職 業	身 長	体 重	胸 圍	比 胸 圍	指 極	比 指 極	番 號	年 齡	職 業	身 長	体 重	胸 圍	比 胸 圍	指 極	比 指 極
1	18	看	154.0	46.6	71.0	46.0	150.7	97.8	40	18	"	153.1	47.6	78.0	51.0	155.2	101.2
2	18	"	147.1	52.0	77.0	52.3	146.0	99.0	41	18	"	154.3	54.0	80.0	51.8	151.6	98.2
3	18	"	147.0	47.0	72.0	49.0	148.3	101.0	42	18	"	156.4	59.3	89.0	57.0	159.4	102.0
4	18	"	146.4	49.4	80.0	54.6	150.2	102.6	43	18	"	157.5	59.0	80.0	50.8	156.8	99.5
5	18	"	146.4	53.4	82.0	56.0	150.0	102.4	44	18	"	158.0	60.0	80.3	50.8	159.8	101.0
6	18	"	146.2	50.0	82.3	56.2	153.2	104.8	45	18	"	143.7	49.8	77.0	53.5	148.8	103.6
7	18	"	145.9	52.4	80.0	55.0	146.2	100.2	46	20	"	144.4	42.6	73.0	50.5	147.2	102.0
8	18	"	145.7	46.0	72.0	50.2	143.5	98.5	47	20	"	144.9	43.6	70.0	48.4	147.0	101.6
9	18	"	145.1	50.0	82.0	56.5	143.7	98.8	48	20	"	146.6	47.5	81.5	55.5	150.4	102.7
10	18	"	144.6	54.8	84.9	58.6	150.8	104.0	49	20	"	148.0	53.0	85.0	57.5	146.8	99.1
11	18	"	145.7	46.2	77.0	54.0	155.0	106.4	50	20	"	150.0	57.0	90.0	60.0	150.9	100.3
12	19	"	158.4	62.0	80.0	50.2	157.9	99.5	51	20	"	150.2	51.8	75.0	49.9	153.3	102.0
13	19	"	157.7	57.6	83.2	52.7	155.2	98.6	52	20	"	150.8	55.2	80.0	53.0	153.0	101.4
14	19	"	154.8	50.0	79.0	51.0	151.8	98.1	53	20	"	151.1	60.0	92.0	60.9	155.1	102.6
15	19	"	154.0	55.0	83.0	54.0	156.3	101.6	54	20	賄	151.5	55.7	77.5	51.1	150.0	99.0
16	19	"	154.0	51.0	82.0	53.2	156.3	101.3	55	20	"	151.7	51.0	78.2	51.5	153.2	101.0
17	19	"	154.0	58.0	82.0	53.2	156.0	101.1	56	20	"	152.7	49.7	80.0	52.5	158.4	103.9
18	19	"	154.1	57.0	84.6	55.8	154.1	101.7	57	20	"	153.1	57.6	88.0	57.5	157.9	103.0
19	19	"	153.7	54.0	79.0	51.5	158.8	103.2	58	20	"	153.2	55.8	77.4	50.5	154.9	101.0
20	19	"	152.9	53.4	80.0	52.4	155.8	102.0	59	20	"	153.2	52.2	77.0	50.2	154.8	101.0
21	19	"	145.0	50.2	79.0	53.4	153.8	106.0	60	20	"	153.5	59.0	81.4	53.0	153.7	100.1
22	19	"	147.7	50.2	78.0	52.8	147.0	99.5	61	20	看	153.6	59.0	78.5	51.0	156.8	102.0
23	19	"	148.7	49.0	79.0	53.1	146.1	98.5	62	21	"	157.5	52.5	79.0	50.1	159.9	101.2
24	19	"	149.5	50.2	75.0	50.1	145.6	97.5	63	21	"	157.0	56.0	83.7	53.3	161.0	102.5
25	19	"	149.8	55.0	85.0	56.7	154.0	102.8	64	21	"	154.7	49.2	80.1	51.8	159.4	103.0
26	19	"	150.0	51.0	78.0	52.0	147.5	98.5	65	21	賄	154.5	62.0	86.0	55.6	149.4	96.8
27	19	"	150.1	48.2	78.0	51.9	153.7	102.0	66	21	看	152.1	50.0	76.0	50.0	148.1	97.5
28	19	"	150.7	55.0	83.0	55.0	151.0	100.1	67	21	"	151.8	55.0	80.0	52.7	150.2	99.2
29	19	"	151.1	54.0	75.0	49.6	155.0	102.2	68	21	"	151.0	55.0	84.7	56.0	155.7	103.0
30	18	"	148.5	48.8	74.0	49.8	146.3	98.5	69	21	"	150.5	45.8	79.0	52.5	147.5	98.2
31	18	"	148.6	47.5	79.5	53.5	152.7	102.7	70	21	"	149.2	49.0	76.4	51.1	150.4	100.8
32	18	"	149.1	51.8	74.0	49.5	152.6	102.0	71	21	"	146.8	51.0	77.0	52.5	151.2	103.0
33	18	"	149.7	47.0	75.1	50.2	152.0	101.5	72	21	"	146.7	46.2	73.0	49.7	142.2	97.0
34	18	"	149.8	54.5	83.1	55.5	152.0	101.3	73	21	"	146.0	47.4	75.0	51.4	140.1	104.1
35	18	"	151.0	49.0	77.5	51.4	150.7	99.7	74	21	"	142.8	51.8	79.0	55.0	145.8	101.2
36	18	"	151.0	50.6	73.0	48.4	152.4	101.0	75	21	"	142.4	55.0	88.0	61.8	147.4	103.3
37	18	"	151.9	52.0	81.0	53.3	143.8	94.6	76	22	"	166.5	53.9	77.0	46.2	179.0	107.5
38	18	"	152.0	52.0	84.3	55.5	147.3	97.0	77	22	"	158.4	54.0	77.0	48.5	160.0	101.0
39	18	"	152.2	55.8	80.5	52.9	154.0	101.1	78	22	"	156.7	56.8	81.0	51.7	157.2	100.5

79	23	”	154.0	50.5	81.7	53.0	152.7	99.1	90	24	”	154.7	58.3	85.6	55.4	149.0	96.5
80	23	”	151.5	48.4	80.7	53.2	148.4	98.1	91	24	”	151.3	49.0	82.0	54.1	143.3	94.8
81	22	”	150.5	45.0	73.5	48.8	146.6	97.4	92	24	”	145.6	49.0	83.0	57.0	148.5	102.0
82	22	”	150.0	48.0	73.0	48.6	150.4	100.1	93	24	”	145.2	48.0	78.0	53.7	142.4	98.2
83	23	貼	149.9	48.0	77.0	51.4	154.2	103.0	94	25	”	157.2	55.0	80.5	51.2	161.0	102.1
84	23	”	148.8	46.0	72.0	48.4	151.7	102.0	95	25	”	149.5	47.0	74.0	49.5	150.1	100.5
85	23	看	147.3	48.6	78.0	53.0	139.2	93.1	96	26	”	147.0	50.2	80.0	54.5	157.3	107.0
86	22	”	144.7	50.0	76.0	52.5	142.4	98.5	97	33	”	142.5	43.0	77.1	54.1	144.5	101.1
87	49	雜	144.6	49.0	86.0	59.5	140.0	97.0	98	35	”	152.0	49.0	78.0	51.3	154.3	101.4
88	22	看	144.4	50.0	82.0	56.8	144.8	100.1	99	38	”	156.2	55.5	85.0	57.0	156.2	104.6
89	23	”	144.0	50.0	78.9	54.7	145.4	101.0									

(3) 健康者群測定成績

第 6 表 健康者群測定値の分布及び其の平均値

体 重

性	検査人員	級 頻度	27~31	31~35	35~39	39~43	43~47	47~51	51~55	55~59	59~63	63~67	67~71	71~75
男	32	%					6.25	6.25	31.2	21.8	21.8	9.4		3.1
女	99	%				2.0	11.1	38.2	28.2	15.1	5.0			

(男 体重平均値 56.7 kg 男 体重中央値 55.2 kg)

(女 体重平均値 51.7 kg 女 体重中央値 51.9 kg)

身 長

性	検査人員	級 頻度	137~ 141	141~ 145	145~ 149	149~ 153	153~ 157	157~ 161	161~ 165	165~ 169	169~ 173	173~ 177	177~ 183
男	32	%				6.3	15.6	28.0	25.0	6.3	12.5	6.3	
女	99	%		13.1	23.2	36.4	19.2	7.1		1.0			

(男 身長平均値 161.99 cm 男 身長中央値 160.9 cm)

(女 身長平均値 150.4 cm 女 身長中央値 150.7 cm)

胸 圍

性	検査人員	級 頻度	60~64	64~68	68~72	72~76	76~80	80~84	84~88	88~92	92~96	96~ 100	100~ 104	104~ 108
男	32	%					12.5	47.0	25.0	9.1	6.4			
女	99	%			4.0	15.2	41.5	24.2	12.1	3.0				

(男 胸圍平均値 84.55 cm 男 胸圍中央値 84.0 cm)

(女 胸圍平均値 79.46 cm 女 胸圍中央値 79.75 cm)

比 胸 圍

性	檢 査 員	頻 度	級 cm	40~42	42~44	44~46	46~48	48~50	50~52	52~54	54~56	56~58	58~60	60~62	62~64
男	32	%				3.1	6.4	12.5	28.0	18.7	18.7	6.4	3.1		
女	99	%					1.0	14.2	27.3	26.3	16.2	10.1	3.3	2.1	

(男 比胸圍平均值 52.2)

男 比胸圍中央値 52.2)

(女 比胸圍平均值 52.85)

女 比胸圍中央値 52.7)

指 極

性	檢 査 員	頻 度	級 cm	135~ 140	140~ 145	145~ 150	150~ 155	155~ 160	160~ 165	165~ 170	170~ 175	175~ 180	180~ 185	190~ 195
男	32	%					9.4	3.1	37.6	31.2	12.5	3.1		3.1
女	99	%		5.0	22.2	37.4	25.2	7.1	2.0	1.0				

(男 指極平均值 166.0 cm)

男 指極中央値 165.4 cm)

(女 指極平均值 151.5 cm)

女 指極中央値 151.6 cm)

比 指 極

性	檢 査 員	頻 度	級 cm	92~94	94~96	96~98	98~100	100~ 102	102~ 104	104~ 106	106~ 108	108~ 110	110~ 112
男	32	%			3.1	3.1	12.5	34.4	21.8	18.7	3.1		
女	99	%		1.0	2.1	8.1	21.1	41.5	19.2	4.0	3.2		3.1

(男 比指極平均值 102.2)

男 比指極中央値 102.0)

(女 比指極平均值 100.65)

女 比指極中央値 101.0)

第 7 表 (A) 男子中等學校生徒其の他の年齢別比指極平均値

年 齡	13	14	15	16	17	18	19	20	20~49	計
人 員	69	167	175	176	159	149	48	16	32	975
平 均 値	99.4	99.5	99.2	96.1	100.6	100.2	101.0	101.9	102.7	

第 7 表 (B) 看護婦養成所生徒及び看護婦其の他の年齢別比指極平均値

年 齡	13	14	15	16	17	18	19	20	18~49	計
人 員				9	25	30	30	20	151	185
平 均 値				99.9	100.5	100.2	100.6	101.5	101.0	

A, B 表共年齢は凡て數へ年にして検査人員は凡て健康なるものなり

(4) 非結核性疾患々者測定値

本項に採りたる材料の疾病別及び年齢別は次表の如し。

第 8 表 疾 病 別 表

病名	扁桃腺炎	胃加答兒	肺炎後	腎臓炎	神經痛	胃潰瘍(後)	氣管支炎	喘 息	高血壓	神經衰弱	脚 氣	肺氣腫	關節ロイマス	甲状腺腫	心辨膜障	潜在梅毒	貧 血	計
男		7	2			3	3	1	2	7	2	1	1			2	1	32
女	3	4		2	1		6	1		2	2			1	2	1		25

第 9 表 年 齡 別 表

年 齡	18~19	20~21	22~23	24~25	26~27	28~29	30~31	32~33	34~35	36~37	38~39	40~41	42~43	44~45	46~47	48~49	計
男		3	1	1		4	2	6	3	2	2	1	1		3	3	32
女	3	1	4	3	1		2	1		1	1	1	1	2	1	3	25

第10表 (A) 男子非結核性疾患群測定成績

年 番	職 業	身 長	體 重	胸 圍	比 胸 圍	指 極	比 指 極	軀 長	比 軀 長	腕 長	比 腕 長	坐 高	比 坐 高	腹 圍	比 腹 圍	臍 位	比 臍 圍	腳 長	比 腳 長	手 掌	比 手 掌	足 趾	比 足 趾	助 骨 角
1	20	農	162.5	50.0	85.0	52.3	166.5	102.3	50.0	30.8	71.7	44.0		64.5	38.7	34.0	24.5	85.8	52.7	18.2	11.2	24.7	15.2	67.5
2	20	"	164.0	52.4	85.0	51.8	174.3	106.0	52.0	31.7	73.8	45.0		67.5	41.1	37.0	25.3	75.7	46.0	18.9	11.5	24.0	14.1	90.0
3	22	"	163.0	53.5	86.5	53.0	166.5	102.0	52.5	32.2	71.0	43.6		69.0	42.6	38.0	23.3	83.0	51.8	17.5	10.7	21.5	13.2	65.0
4	24	商	163.0	51.6	81.5	49.5	166.9	102.0	54.5	33.3	73.3	44.8		69.1	42.3	37.5	22.9	84.2	51.5	19.3	11.8	25.0	15.3	80.0
5	28	學	166.5	47.0	80.5	48.4	165.5	99.5						65.0	39.0			81.0	48.6					70.0
6	29	農	158.0	50.0	81.5	51.5	161.0	102.0	53.4	33.8	67.8	42.8		67.5	42.6	38.5	24.4	81.0	41.3	16.8	10.6	23.0	14.6	85.0
7	29	"	161.8	57.2	83.0	51.3	169.5	104.0	52.5	82.5	74.2	45.8		73.5	45.5	35.5	21.6	84.5	52.3	19.5	12.1	24.0	14.9	90.0
8	30	"	161.9	47.0	80.5	49.8	165.5	102.0	51.5	31.8	70.0	43.2		61.0	37.7	39.0	24.1	85.5	53.0	17.0	10.5	23.3	14.4	60.0
9	31	"	157.8	51.6	84.0	53.2	151.8	96.5	52.0	33.0	64.5	40.9		69.0	43.7	37.0	23.4	80.8	55.5	16.5	10.5	22.8	14.4	80.0
10	32	"	162.5		82.0	50.5	170.5	104.7	52.0	32.1	72.9	44.8		69.5	42.8	39.0	24.0	84.5	51.6	17.8	10.9	24.0	14.5	90.0
11	32	運動	169.5	62.0	94.0	55.4	174.5	102.8	55.0	32.2	75.0	44.2		70.0	41.3	40.2	23.7	90.2	53.2	19.5	11.5	25.5	15.0	87.5
12	33	職工	165.0	51.4	84.0	50.8	169.7	102.8	54.0	32.7	73.0	44.2		68.7	41.6	38.0	23.0	84.3	51.5	19.8	12.0	24.5	14.2	72.5
13	33	商	162.7	52.5	79.3	48.8	166.0	102.1	54.5	33.5	71.0	43.7		78.5	48.3	38.0	23.3	82.0	50.4	18.5	10.9	23.6	14.1	90.0
14	34	農	157.5	52.0	83.0	52.7	165.7	105.0	51.0	32.4	70.0	44.5		70.5	44.8	37.0	23.4	82.0	52.0	18.3	11.9	22.1	14.2	87.5
15	34	印工	156.5	52.5	83.5	53.4	161.0	103.0	53.5	33.9	69.0	44.0		69.0	44.0	39.5	25.1	79.2	50.5	18.0	11.5	23.0	14.7	100.0
16	35	商	157.0	50.0	82.0	52.3	165.0	105.0	50.0	31.8	69.0	44.0		69.0	44.0	35.5	22.6	81.0	51.5	18.0	11.5	22.3	14.2	87.5
17	36	"	162.0	52.4	86.0	53.0	173.4	106.0	54.0	33.3	77.8	45.1		70.2	43.3	40.4	24.9	84.5	51.8	19.0	11.7	22.0	13.6	80.0
18	37	"	159.7	47.9	83.0	51.9	164.4	102.7	49.0	30.4	69.9	43.5		65.0	40.7	35.0	21.9	81.6	51.3	18.5	11.6	23.5	14.7	77.5
19	39	教	165.5	59.0	82.0	49.5	170.5	103.0	52.5	31.6	72.2	43.8		70.5	42.6	38.0	22.9	85.1	51.4	18.5	11.2	23.9	14.4	86.0
20	40	商	162.6	55.7	89.0	54.7	175.5	108.0	51.0	31.4	77.8	47.8		72.0	44.3	37.0	22.8	87.0	53.5	20.5	12.3	24.5	15.2	82.5
21	46	農	164.0	54.6	88.0	53.5	171.0	104.0	49.0	29.8	78.0	47.5						85.0	51.8					75.0
22	46	"	158.5	49.2	88.0	55.5	169.5	107.0	49.0	30.9	73.0	46.0		67.3	42.5	36.5	23.0	83.3	52.5	17.0	10.7	23.5	14.8	60.0
23	48	"	157.5		82.0	52.0	168.0	107.0	48.0	29.6				64.0	40.6	35.0	22.2							
24	49	理髮	146.7	49.4	83.5	57.3	150.5	103.3	50.0	34.1	63.5	43.6		72.0	49.4	36.0	24.5	72.0	49.4	17.0	11.6	21.3	14.5	90.0
25	49	農	169.5	65.0	90.0	53.0	173.3	102.2	54.0	31.8	80.0	44.2		80.0	47.2			86.0	50.8					92.0
26	49	"	161.3	47.1	82.4	51.0	162.5	100.7	55.0	34.0	71.8	44.5		64.0	39.6	35.0	21.6	84.3	52.1	18.8	11.6	24.8	15.3	92.0
27	32	商	155.1	44.8	81.5	52.5	160.0	103.0	48.5	31.2	68.0	43.8		62.0	39.0	37.5	25.4	78.3	50.0	17.1	11.0	22.5	14.5	90.0
28	33	"	161.4	40.5	80.0	49.5	156.5	97.0	51.0	31.6	69.0	42.7		61.0	37.8	39.0	24.2	79.5	49.2	17.8	11.0	23.0	14.5	85.0
29	38	農	168.7	55.0	87.5	52.0	180.0	107.0	54.5	32.3	76.6	45.5		69.0	40.9	39.5	23.4	89.0	52.8	19.4	11.5	24.8	14.4	75.0
30	38	"	164.7	53.4	83.0	50.5	161.0	98.0	51.0	31.0	70.0	42.5		65.0	39.4	41.0	24.9	81.0	49.0	18.3	11.1	24.8	15.0	75.0
31	42	會	162.6	52.4	82.0	50.5	162.5	99.9	50.5	31.1	70.6	43.5		65.0	40.0	38.0	23.4	86.5	53.2	18.1	11.2	23.0	14.2	72.5
32	20	商	146.4	38.0	73.6	50.3	150.7	102.8	46.0	31.4	69.5	47.5		60.4	41.3	33.5	21.0	75.9	51.8	16.7	10.9	22.3	15.2	80.0

第 10 表 (B) 女子非結核性疾患々々者群測定成績

年 番	職 業	身 長	體 重	胸 圍	比 胸 圍	指 極	比 指 極	軀 長	比 軀 長	腕 長	比 腕 長	坐 高	比 坐 高	腹 圍	比 腹 圍	臍 位	比 臍 位	脚 長	比 脚 長	手 掌	比 手 掌	足 趾	比 足 趾	助 骨 角
1	18	154.6	43.2	76.0	49.1	151.0	98.8	51.0	33.0	64.5	41.7			58.0	37.3	40.0	25.4	78.0	50.5	17.3	11.2	23.0	14.9	76.5
2	18	145.0	46.6	80.5	55.5	151.0	104.4	47.0	32.2	61.8	42.6			74.5	50.7	31.5	21.7	75.0	51.0	17.5	12.2	21.1	14.5	92.5
3	18	138.7	32.2	71.0	51.4	137.3	100.2	47.0	34.1	59.8	43.4			65.0	48.4	35.0	25.0	72.0	51.9	16.0	11.5	20.3	14.8	70.0
4	22	156.0	37.2	70.0	44.8	162.0	104.0	50.8	32.6	70.3	45.0			58.0	34.9	35.5	22.4	83.6	54.9	18.5	11.9	23.5	15.1	52.5
5	22	148.8	52.5	90.0	60.5	149.0	100.0	48.5	32.6	64.5	43.4			75.2	50.5	34.5	24.0	77.5	52.1	17.6	11.9	23.0	15.5	90.0
6	23	151.6	56.0	89.0	58.7	156.8	103.4	49.5	32.8	66.0	43.5			68.4	45.0	36.0	23.7	82.8	54.6	17.5	11.5	22.8	13.5	80.0
7	23	145.5	40.0	76.5	51.8	152.0	103.0	48.0	32.5	65.8	44.5			42.0	42.0	34.0	23.4	77.0	52.2	17.5	11.8	20.5	13.2	55.0
8	25	151.4	41.1	77.0	50.9	155.2	102.5	51.0	33.7	66.0	43.5			62.5	41.3	36.5	42.1	80.5	53.0	16.7	10.9	22.0	14.5	75.0
9	27	151.2	49.3	79.5	52.5	153.7	101.5	51.0	33.7	64.3	42.5			59.0	39.0	35.5	23.4	79.5	52.5	17.4	11.3	21.8	14.8	75.0
10	30	156.6	54.2	86.0	55.0	157.0	102.2	54.0	34.5	68.5	43.7			73.0	46.5	39.0	24.9	82.8	52.8	18.8	12.0	23.0	14.7	65.0
11	30	148.2	48.3	84.5	57.0	151.8	102.1	48.5	32.7	65.3	44.1			73.5	44.1	34.5	23.0	75.8	51.0	17.3	11.6	22.0	14.8	87.5
12	33	147.1	43.2	79.0	46.9	151.0	102.7	51.0	34.7	60.0	40.8			68.0	46.2	32.5	22.0	74.5	40.6	17.2	11.7	21.6	14.7	95.0
13	37	155.0	50.0	86.0	55.5	160.0	106.0	50.5	32.6	67.9	43.6			68.0	43.9	35.0	22.6	81.5	52.5	17.2	11.1	22.6	14.6	75.0
14	38	149.3	44.0	81.0	54.2	152.0	101.8	51.0	34.1	65.5	43.8			65.0	43.5	33.0	22.0	76.8	51.5	16.3	10.9	22.0	14.7	77.0
15	41	145.5	50.0	85.0	58.5	155.7	106.0	53.0	36.4	67.0	46.0			74.0	50.8	37.0	25.4	79.3	54.5	17.3	11.9	22.8	15.6	85.0
16	45	152.0	50.0	83.0	44.6	155.7	102.2							65.5	43.1			85.4	56.1					67.0
17	49	146.1	39.0	76.0	52.0	147.2	100.8	49.5	33.9	62.5	42.7			54.0	36.9	34.0	23.2	78.0	53.4	16.3	11.1	21.0	14.4	80.0
18	49	157.7	45.0	81.0	45.5	156.5	99.4	52.0	33.0	67.5	42.8			63.0	40.0	38.5	24.0	81.8	52.0	17.5	10.9	21.0	13.3	60.0
19	49	147.5	48.0	84.0	57.0	149.4	101.0	47.5	32.2	65.2	44.2			66.0	44.8	33.0	22.4	75.3	51.0	16.2	11.0	21.3	14.6	80.0
20	21 美容	165.2		85.0	51.5	157.5	95.3	52.0	31.4	68.5	41.5			76.5	46.3	36.0	21.8	83.0	50.2	18.0	10.9	23.5	14.2	80.0
21	24	147.3	49.2	87.6	59.0	147.5	100.0	50.0	34.0	63.5	43.0			69.0	47.0	36.5	24.8	75.8	51.5	16.0	10.7	21.8	14.8	85.0
22	25	140.3	30.2	65.0	46.2	135.5	96.5	43.0	30.3	57.9	41.0			55.0	39.2	31.0	22.1	73.0	52.0	15.3	10.9	19.2	13.7	68.0
23	42	158.5		88.5	55.8	157.5	99.5	54.0	34.1	68.8	43.4			72.5	45.8	39.0	24.6	84.0	53.0	17.5	11.5	23.0	14.5	
24	45	150.0		77.0	51.3	154.0	102.5	49.5	33.0	68.0	45.4			81.2	54.0	36.5	24.3	80.0	53.4	17.5	11.7	23.0	15.3	75.0
25	46	151.4		85.6	56.5	150.5	99.5	51.0	33.6	62.9	41.5			67.0	44.2	36.0	23.8	75.0	44.5	15.9	10.5	21.8	14.6	

(4) 非結核性疾患々者群測定成績

第 11 表 非結核性疾患々者群測定値の分布及其の平均値

非結核性疾患々者体重

性	検査員	頻度	級 kg	27~31	31~35	35~39	39~43	43~47	47~51	51~55	55~59	59~63	63~67	67~71	71~75
男	30	%				3.3	3.3	10.0	23.4	30.0	13.4	3.3	3.3		
女	21	%		4.8	4.8	9.5	9.5	23.8	33.3	9.6	4.8				

(男 体重平均値 51.5 kg 男 体重中央値 51.8 kg)

(女 体重平均値 45.2 kg 女 体重中央値 46.6 kg)

非結核性疾患々者身長

性	検査員	頻度	級 cm	137~141	141~145	145~149	149~153	153~157	157~161	161~165	165~169	169~173	173~177	177~181
男	32	%				6.2	0	9.4	18.7	46.9	12.5	6.2		
女	25	%		8.0	0	36.0	28.0	16.0	8.0	0	4.0			

(男 身長平均値 161.1 cm 男 身長中央値 162.3 cm)

(女 身長平均値 150.4 cm 女 身長中央値 150.0 cm)

非結核性疾患々者胸圍

性	検査員	頻度	級 cm	60~64	64~68	68~72	72~76	76~80	80~84	84~88	88~92	92~96	96~100	100~104	104~108
男	32	%					3.1	6.3	59.4	21.9	6.2	3.1			
女	25	%			4.0	4.0	20.0	20.0	32.0	16.0					

(男 胸圍平均値 83.7 cm 男 胸圍中央値 83.0 cm)

(女 胸圍平均値 80.9 cm 女 胸圍中央値 81.0 cm)

非結核性疾患々者比胸圍

性	検査員	頻度	級	40~42	42~44	44~46	46~48	48~50	50~52	52~54	54~56	56~58	58~60	60~62	62~64
男	32	%		3.1	0	0	18.8	34.3	31.2	9.4	3.1				
女	25	%				12.0	8.0	28.0	4.0	20.0	12.0	12.0			

(男 比胸圍平均値 51.6 cm 男 比胸圍中央値 51.8 cm)

(女 比胸圍平均値 52.9 cm 女 比胸圍中央値 52.3 cm)

非結核性疾患々者指極

性	検査人員	頻度	級 cm	135~ 140	140~ 145	145~ 150	150~ 155	155~ 160	160~ 165	165~ 170	170~ 175	175~ 180	180~ 185	185~ 190	190~ 195
男	32	%				3.1	6.2	6.2	21.9	34.4	21.9	6.2			
女	25	%		8.0	0	16.0	40.0	32.0	4.0						

(男 指極平均値 165.9 cm 男 指極中央値 166.0 cm)

(女 指極平均値 152.2 cm 女 指極中央値 152.0 cm)

非結核性疾患々者比指極

性	検査人員	頻度	級 cm	92~94	94~96	96~98	98~100	100~ 102	102~ 104	104~ 106	106~ 108	108~ 110	110~ 112
男	32	%			3.1	6.3	6.3	15.6	37.6	18.7	12.5		
女	25	%			4.0	8.0	20.0	24.0	36.0	8.0			

(男 比指極平均値 102.2 男 比指極中央値 102.8)

(女 比指極平均値 101.3 女 比指極中央値 101.5)

非結核性疾患々者坐高 (第8表以外の非結核性疾患々者につき検したり)

性	検査人員	頻度	級 cm	71~75	75~79	79~83	83~87	87~91	91~95	95~99	99~103
男	21	%			4.8	4.8	28.6	28.6	28.6		
女	13	%			15.4	23.8	60.8				

(男 坐高平均値 87.97 cm 男 坐高中央値 88.8 cm)

(女 坐高平均値 83.2 cm 女 坐高中央値 83.2 cm)

非結核性疾患々者比坐高 (第8表以外の非結核性疾患々者につき検したり)

性	検査人員	頻度	級 cm	40~42	42~44	44~46	46~48	48~50	50~52	52~54	54~56	56~58	58~60	60~62
男	21	%							14.3	38.0	19.1	14.3	9.6	
女	13	%								33.0	46.6	20.0		

(男 比坐高平均値 53.8 男 比坐高中央値 54.2)

(女 比坐高平均値 55.2 女 比坐高中央値 55.2)

非結核性疾患々者軀幹長

性	検査人員	頻度	級 cm	39~42	42~45	45~48	48~51	51~54	54~57	57~60	60~63
男	31	%			3.2	6.5	38.6	35.6	16.2		
女	24	%			4.3	16.6	25.0	45.9	8.3		

(男 軀幹前壁長平均値 51.6 cm 男 軀幹前壁長中央値 52.0 cm)

(女 軀幹前壁長平均値 50.0 cm 女 軀幹前壁長中央値 50.6 cm)

非結核性疾患々者比軀幹長

性	檢 査 人 員	頻 度	級 cm	21~23	23~25	25~27	27~29	29~31	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41
男	31	%						19.3	57.8	22.5			
女	24	%						4.2	50.2	41.6	4.2		

(男 比軀幹前壁長平均值 32.0

男 比軀幹前壁長中央値 31.8)

(女 比軀幹前壁長平均值 33.3

女 比軀幹前壁長中央値 33.0)

非結核性疾患々者上肢長 (腕長)

性	檢 査 人 員	頻 度	級 cm	45~49	49~53	53~57	57~61	61~65	65~69	69~73	73~77	77~81
男	30	%						6.9	20.7	44.9	17.2	10.3
女	24	%				4.2	8.3	29.2	54.2	4.2		

(男 腕長平均值 71.5 cm

男 腕長中央値 71.0 cm)

(女 腕長平均值 65.4 cm

女 腕長中央値 65.4 cm)

非結核性疾患々者比腕長

性	檢 査 人 員	頻 度	級 cm	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47	47~49	49~51
男	30	%						3.3	10.0	60.0	13.3	13.3	
女	24	%						8.4	33.3	50.0	8.4		

(男 比腕長平均值 44.5

男 比腕長中央値 44.1)

(女 比腕長平均值 43.2

女 比腕長中央値 43.4)

非結核性疾患々者腹圍

性	檢 査 人 員	頻 度	級 cm	41~45	45~49	49~53	53~57	57~61	61~65	65~69	69~73	73~77	77~81	81~85	85~89
男	31	%						9.7	25.8	29.0	29.3	3.2	3.2		
女	25	%					8.0	12.0	16.0	28.0	12.0	18.0	4.0		

(男 腹圍平均值 67.9 cm

男 腹圍中央値 69.0 cm)

(女 腹圍平均值 66.2 cm

女 腹圍中央値 66.5 cm)

非結核性疾患々者比腹圍

性	檢 査 人 員	頻 度	級													
			31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47	47~49	49~51	51~53	53~55	55~57	
男	31	%				16.2	19.4	32.2	19.4	3.2	6.2	3.2				
女	25	%		4.0	4.0	8.0	8.0	8.0	28.0	20.0	4.0	12.0	4.0			

(男 比腹圍平均值 42.2

男 比腹圍中央値 41.9)

(女 比腹圍平均值 44.2

女 比腹圍中央値 44.2)

非結核性疾患々者臍位

性	検査人員	級 cm	頻度	29~31	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47
男	29	%				17.2	27.6	38.6	17.2			
女	24	%			20.8	25.0	37.5	12.5	4.2			

(男 臍位平均値 37.4 cm 男 臍位中央値 37.5 cm)

(女 臍位平均値 34.6 cm 女 臍位中央値 35.5 cm)

非結核性疾患々者比臍位

性	検査人員	級 頻度	19~21	21~23	23~25	25~27	27~29
男	29	%	3.4	34.5	51.8	10.3	
女	24	%		37.5	54.2	8.4	

(男 比臍位平均値 23.4 男 比臍位中央値 23.4)

(女 比臍位平均値 23.5 女 比臍位中央値 23.6)

非結核性疾患々者脚長

性	検査人員	級 cm	頻度	55~59	59~63	63~67	67~71	71~75	75~79	79~83	83~87	87~91	91~95	95~99
男	31	%						3.2	6.4	35.5	48.4	6.2		
女	25	%						20.0	32.0	36.0	12.0			

(男 脚長平均値 81.2 cm 男 脚長中央値 83.2 cm)

(女 脚長平均値 78.7 cm 女 脚長中央値 87.0 cm)

非結核性疾患々者比脚長

性	検査人員	級 頻度	31~33	33~35	35~37	37~39	39~41	41~43	43~45	45~47	47~49	49~51	51~53	53~55	55~57
男	31	%		3.2	3.2						3.2	22.6	58.2	9.7	
女	25	%					4.0		4.0			20.0	48.0	20.0	4.0

(男 比脚長平均値 50.8 男 比脚長中央値 51.6)

(女 比脚長平均値 51.7 女 比脚長中央値 52.1)

非結核性疾患々者手掌の長

性	検査人員	級 cm	頻度	15~16	16~17	17~18	18~19	19~20	20~21	21~22
男	28	%			21.4	21.4	35.8	17.7	3.6	
女	24	%		16.7	16.7	58.4	8.3			

(男 手掌の長さ平均値 18.2 cm 男 手掌の長さ中央値 18.3 cm)

(女 手掌の長さ平均値 18.0 cm 女 手掌の長さ中央値 17.3 cm)

非結核性疾患々者比手掌

性	検査人員	級 頻度	10~11	11~12	12~13	13~14
男	28	%	35.7	57.1	7.2	
女	24	%	33.4	62.5	4.2	

(男 比手掌平均値 11.3

男 比手掌中央値 11.4)

(女 比手掌平均値 11.3

女 比手掌中央値 11.4)

非結核性疾患々者足趾の長さ

性	検査人員	級 頻度	19~20	20~21	21~22	22~23	23~24	24~25	25~26	26~27	27~28
男	28	%			10.7	32.0	32.0	21.4	3.8		
女	24	%	4.2	16.6	37.5	33.3	8.3				

(男 足趾の長さ平均値 23.5 cm

男 足趾の長さ中央値 23.5 cm)

(女 足趾の長さ平均値 21.6 cm

女 足趾の長さ中央値 22.0 cm)

非結核性疾患々者比足趾の長さ

性	検査人員	級 頻度	10~11	11~12	12~13	13~14	14~15	15~16	16~17
男	28	%				7.2	78.5	14.3	
女	24	%				16.7	62.5	20.4	

(男 足趾の長さ比例平均値 14.5

男 足趾の長さ比例中央値 14.5)

(女 足趾の長さ比例平均値 14.6

女 足趾の長さ比例中央値 14.7)

非結核性疾患々者肋骨弓角

性	検査人員	級 頻度	40~46	46~52	52~58	58~64	64~70	70~76	76~82	82~88	88~94	94~100
男	31	%				6.5	9.6	19.4	16.1	22.6	22.6	3.2
女	23	%			8.8	4.4	17.5	17.5	26.1	13.1	8.8	4.4

(男 肋骨弓角平均値 85°.0'

男 肋骨弓角中央値 80°.0')

(女 肋骨弓角平均値 75°.0'

女 肋骨弓角中央値 76°.5')

第2節 各種測定値の比較

(1) 体重

本項に於ては373名に就き検したり。しかして内男子に於ては患者136名、健康者32名、女子に於ては患者106名、健康者99名にして、男子患者の平均体重は51.3 kgにして健康者の

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	健 康 人	患者平均体重
男	50.9 kg	51.9 kg	51.5 kg	56.7 kg	51.3 kg
女	44.9 kg	46.3 kg	45.2 kg	51.7 kg	45.1 kg

平均体重は 56.7 kg となり、又女子に於ては患者の平均体重は 45.1 kg にして健康者の平均体重は 51.7 kg なり。即ち男女共に著しく患者の体重は健康者のそれよりも小なるを知る。之を疾病別に患者につきて觀るに、男子に於ては重症結核患者の平均体重は輕症結核患者の平均体重よりも小にして、輕症結核及び非結核は重症結核患者の平均体重より稍々大にして略々同一の値を示す。女子に於ても同様に重症肺結核患者の体重は輕症肺結核患者の平均体重以下にあり、非結核及び輕症肺結核患者の平均体重は男子と殆ど同一なる關係なり。

次に各疾病毎に各患者の夫々總患者の平均体重を超ゆるものゝ頻度につき觀るに次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	42.5%	52.0%	51.7%
女	26.0%	58.0%	57.0%

体重患者平均値を超ゆるものゝ頻度に於ては男女共に非結核及び輕症結核に於ては殆ど同等にして、重症結核患者に於ては男女共に最も小なり。

(2) 身 長

本項に關しては總數 398 名につき檢したり、うち男 182 名、女 216 名にして、組分人員は前節表の如し。

其の患者別平均値は次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	健 康 者
男	162.2 cm	159.8 cm	161.1 cm	161.9 cm
女	151.0 cm	149.2 cm	150.4 cm	150.4 cm

しかして男子に於て見るに、各組平均身長 of 最大値を有するは重症肺結核にして最低値は輕症肺結核なり、しかして非結核及び健康者、重症肺結核の順に逐次大となる。

女子に於ても同じく重症肺結核最大にして輕症肺結核最小、非結核及び健康者は殆ど同一値を有す。

次に健康人平均値 (男 161.0 cm 女 151.0 cm とす) より大なるものゝ頻度を疾病別に見るに、次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	健康人
男	61.6%	41.0%	62.5%	47.0%
女	51.5%	44.5%	48.0%	45.5%

即ち輕症肺結核に於ては男女共に身長大なるもの最も少き傾向にあり。

(3) 胸 圍

本項につき檢したる人員は總數 396 名にして、うち男 181 名、女 215 名なり、しかして其の組分人員前節表の如し。

疾病別平均値は次表の如し。

胸圍絕對値平均値

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	健康人
男	81.9 cm	82.1 cm	83.7 cm	84.6 cm
女	77.5 cm	77.4 cm	80.9 cm	79.5 cm

比胸圍平均値

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	健康人
男	50.7	51.7	51.6	52.2
女	51.1	53.0	52.9	52.9

以上より見るに絕對値に於ては結核、非結核、健康者の間に於ける一定の關係を見出しがたく且つ其の平均値は近似せり、之れ比較的榮養可良なるものゝみを材料として採りたる爲めならんか、由來胸圍には骨格の外に榮養に關する因子大なるものあればなるべし。

尙ほ胸圍絕對値の健康人平均値を超ゆるものゝ頻度につき觀るに次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核
男	30.9%	43.5%	31.3%
女	36.4%	56.5%	68.0%

概して重症結核は男女共に胸圍小なるもの多きも、男子に於ては非結核に於ては狹胸者重症結核と同様なる率を見たり。

次に比胸圍に關して觀るに、獨り重症肺結核のみ男女共に著しく小にして、他の三者は略々同一値を示せり。

尙ほ比胸圍の健康人比胸圍平均値を超ゆるものゝ頻度につき各疾病別に觀れば次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核
男	28.4%	40.3%	31.3%
女	33.2%	58.0%	52.0%

男女共に重症肺結核に於て廣胸なるもの少し。

輕症肺結核患者には男女共に廣胸なるもの多し。

(4) 指 極

本項に就き檢したる人員は 397 人にして、うち男 182 人、女 215 人なり。

しかして其の組分及び人員は前節の表の如し。

指極絶對値平均値

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	健康人
男	164.5 cm	163.9 cm	165.9 cm	166.0 cm
女	149.5 cm	150.3 cm	152.2 cm	151.5 cm

比指極平均値

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	健康人
男	101.6 cm	101.5 cm	102.9 cm	102.2 cm
女	99.6 cm	100.2 cm	101.3 cm	100.7 cm

絶對値平均値を見るに、男女共に非結核と健康人との平均値は共に相接近し、結核性疾患に於ては同じく男女共に其の値は相近似し、非結核及び健康人の指極平均値より小なり。

次に比指極に就き觀るに絶對値と同様の關係を示し、結核性疾患に於ては其の他のものより著明に小なるを知る。

尙ほ比指極の健康人の平均値を超ゆるものゝ頻度を見るに次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	健康人
男	42.0%	43.1%	81.4%	62.5%
女	33.4%	37.8%	56.0%	49.0%

即ち男女共に結核性疾患に於ては指極の健康人平均値よりも小なるもの甚だしく多きを知る。

以上の事實よりして、結核性疾患を有するものゝ指極は其の絶對値比例値共に健康人又は非結核患者のそれより小なりとの斷定を下し得べし、しかして從來指極の大きさと身長とは相等しきか又は之より大なるを成人の正常体格と認められたり、しかるに Borchardt の正常平均値表其の他につき之を檢するに、成人の指極と身長との比の百倍値は 18 歳以上に於ては 103 以上を示せり。

余は本邦人に就き之を檢せんとし、偶々千葉中學校生徒及び本院看護婦等に就き之を檢するを得たり、其の表は前節に掲げし如く男女共に 17 歳(數へ年)以上に於ては指極の大きさは身長を超ゆるものなるべしと考へらる。

しかして結核性疾患々者に於ける本事實は如何なるやを考察するに、小兒の体型に於ては指極が身長以下にある事實よりして、肺結核患者の大多數が發育不全型体質なりやとの疑を起さしむる一面を思惟せらるゝ傍ら、猶ほ Stoerk u. Horak 等は胸腺淋巴体質者の特徴として指極が身長を遙かに超ゆるを擧げたるが、之を眞なりとせば胸腺淋巴体質の所有者は肺結核患者に少きが如しと思惟せらるゝ、尙又この事實は病機による結果なりやとも考へらるゝ所なり。

(5) 坐 高

本項の検査人員は 127 名にして、うち男 66 名、女 53 名なり。

しかして疾病別坐高絶対値平均値及び比坐高平均値は次の如し。

坐高絶対値平均値

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	87.5 cm	87.1 cm	89.97 cm
女	81.3 cm	82.6 cm	83.2 cm

比 坐 高 平 均 値

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	全 体 の 平 均
男	54.2	54.1	53.8	54.0
女	54.4	54.9	55.2	54.3

絶対値に於ては男女共に結核に於て稍々小なる傾向を示し、女子に於ては重症肺結核に於て稍々著明なるを知る。

尙ほ比坐高に於ては女子に於ては同様なれども男子は非結核に於て稍々小なり。

又患者の平均男 54.0、女 54.3 を超ゆるものゝ頻度は、男子重症肺結核に於て著明に小數にして、女子に於ては稍々小數なる傾向を示すに過ぎず。

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	34.8%	84.3%	52.5%
女	64.3%	68.8%	66.6%

(6) 軀 幹 長 (軀幹前壁の長さ Distantia jugulo-pubica)

本項に於ては男女併せて 254 人につき検したり。うち男 143 人、女 111 人なり。其の疾病別表は前節に掲ぐる如し。

軀幹長絶対値平均

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	51.9 cm	52.3 cm	51.6 cm
女	49.9 cm	50.3 cm	50.0 cm

比 軀 幹 長 平 均 値

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	患者の平均
男	32.0	32.0	32.0	32.0
女	32.9	33.7	33.3	33.3

絶對値の平均に於ては著變を見ず。

比例値に於ては女子重症肺結核に稍々小なるを見る。

次に各疾病別につき男女共に患者全体の平均値を超えるものゝ頻度を見るに、絶對値平均男 52.0 cm, 女 94.6 cm を超ゆるものは、

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	44.5%	50.0%	50.0%
女	54.0%	64.5%	66.0%

となり著しき差異を見ざるも、男女共に重症肺結核患者に於て稍々少數なり。

次に比軀幹長につきても上表の如く著變を見ず。

又患者の比軀幹長平均値を超えるものゝ頻度を觀るに、

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	55.5%	67.2%	51.6%
女	46.1%	60.6%	39.3%

即ち男女共に輕症肺結核に於て高率を示すを知る。

(7) 腕 の 長 さ

本項に關する材料は總數 254 名にして、うち男 139 名, 女 115 名なり、其の疾病別絶對値平均は次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	70.3 cm	70.1 cm	71.5 cm
女	64.6 cm	64.7 cm	65.4 cm

比 腕 長

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	43.8	43.4	44.5
女	42.8	43.0	43.2

男 139 名の絶對値平均は 70.2 cm, 女 115 名の絶對値平均は 64.8 cm なり。

之を疾病別平均値につき見るに、非結核性疾患々者に於ては平均値は男女共に遙かに全体の平均値を超えたり、他の二者に於ては甚だしく之に接近せり。

尙ほ全体の平均値を超ゆるものゝ頻度を疾病別に觀察すれば、次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核
男	61.5%	50.9%	69.0%
女	44.8%	59.6%	62.5%

即ち結核性疾患々者に於ては、腕の長さもの非結核性疾患々者よりも少々少數なることを知る。

次の比腕長につき見るに男子 139 名の平均値は 43.4 にして、女子 115 名の平均値は 42.9 なり。

上表により見るに非結核性疾患に於ては全体の平均値より大なるを知る。

今其の全体の平均値を超ゆるものゝ頻度につき疾病別に觀るに次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核
男	57.7%	59.6%	86.6%
女	58.6%	54.9%	62.5%

即ち非結核性疾患に於ては結核性疾患々者に於けるよりも比腕長の大的もの多きを知る。

(8) 腹 圍

總數 259 名につき之を檢したり、うち男 146 名、女 113 名にして、疾病別平均値は次表の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	全体の平均値
男	67.2 cm	68.4 cm	67.9 cm	68.0 cm
女	65.4 cm	67.0 cm	66.2 cm	66.4 cm

即ち男女共に非結核性疾患々者に於ては全体の平均値に頗る近似し、重症肺結核は遙かに小なるに反し、輕症結核に於ては全体の平均値より少々著明に大なり。

次に全体の平均値を超ゆるものゝ頻度につき觀るに、

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核
男	43.0%	51.0%	54.9%
女	29.6%	44.3%	52.0%

即ち重症肺結核に於て腹圍大なるもの著しく少數なるを知る。

尙ほ比腹圍を觀るに、

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	全体の平均
男	42.0	42.8	42.2	42.6
女	43.6	44.7	44.2	44.3

即ち女子の比腹圍は男子のそれより大なり。

しかして性別疾病別には著明なる差を認めず。

全体の平均を超ゆるものゝ頻度に於ても差異を認められず。

(9) 臍 位

本項に於ては患者 148 名につき検したり、うち男 138 名、女 110 名なり。

疾病別分布度は前掲の表に記せり。

各病別平均値 (臍位絶対値)

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	患者の平均
男	37.5 cm	37.9 cm	37.4 cm	37.6 cm
女	35.5 cm	35.6 cm	34.6 cm	35.5 cm

各例皆頗る近似せる値を示せり。

比臍位に於て同様の觀察をなすに、

比 臍 位 平 均 値

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	患者の平均
男	23.2 cm	23.5 cm	23.4 cm	23.4 cm
女	23.7 cm	23.7 cm	23.5 cm	23.6 cm

男女共に其の平均値は近似して著明なる差異を認めず。

患者の平均値を超ゆるものゝ頻度

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	48.0%	54.9%	55.1%
女	48.0%	54.1%	50.0%

平均値を超ゆるものゝ頻度に於ては重症肺結核に於て男女共に少數なるを知る。

(10) 下 肢 (脚)

本項の測定人員は 264 名、うち男 147 名、女 117 名なり。

絶 對 値 平 均

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	患者の平均
男	83.1 cm	82.0 cm	81.2 cm	82.4 cm
女	77.5 cm	76.5 cm	78.2 cm	77.3 cm

男子に於ては重症肺結核最も脚は大なり。

輕症肺結核は之に次ぎ、非結核に於て最も小なり。

然るに女子に於ては非結核に於て最も大、重症肺結核は之に次ぎ、輕症最も小なり。

しかして患者全体の平均値を超ゆるものゝ頻度につき檢するに、これに於ても同様の關係を示せり。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核
男	57.6%	45.6%	54.9%
女	50.0%	45.1%	60.0%

次に比脚長につき觀るに、

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	患者の平均
男	51.1	50.5	50.8	50.5
女	51.6	51.1	51.7	51.4

男女共に輕症肺結核に於て小なり。

比脚長は女子に於て男子よりも大なり、之れ骨盤の高さの關係によるものならんか。

尙ほ患者全体の比脚長平均を超ゆるものゝ頻度につき檢するに、

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核
男	71.1%	73.7%	74.1%
女	53.4%	50.0%	72.0%

輕症肺結核に於ては平均値は小にして、頻度に於ては高率を示す、即ち下肢の甚だしく小なるものあるによるべし。前節の分布に於て見るにしかり。

(11) 手掌の長さ

本項の検査人員 247 名、うち男 137 名、女 110 名なり。

疾病別平均値(絶對値)

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核	患者全体平均
男	17.9 cm	17.9 cm	18.2 cm	18.0 cm
女	16.9 cm	16.8 cm	18.0 cm	16.9 cm

疾病別に絶對値の平均を見るに、結核性疾患々者に於ては手の小なるを見る、全体の平均値を超ゆるものゝ頻度を見るに、之に於ても同様の關係を示す。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核
男	53.9%	52.6%	64.4%
女	44.0%	50.9%	66.0%

次に比手掌につき觀るに、

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	患者の平均
男	11.1	11.1	11.3	11.1
女	11.3	11.2	11.3	11.3

差別を見出し得ず。

全体の平均値を超ゆるもの、

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	53.0%	51.0%	61.0%
女	48.0%	47.5%	54.0%

共に結核に於て少し。

(12) 足 蹠 の 長 さ

本項にても 247 名、うち男 137 名、女 110 名につき測定したり。

平 均 値 (絶 對 値)

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	患者の平均
男	23.5 cm	22.0 cm	23.5 cm	22.9 cm
女	22.0 cm	22.2 cm	21.6 cm	21.9 cm

男子に於ては輕症肺結核のみ小にして、女子に於ては非結核に於てのみ小なり、其の他は盡く全体の平均値より大なり。

又全体の平均値を超ゆるものを觀るに、

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核
男	90.1%	77.2%	71.5%
女	32.8%	59.6%	37.5%

男子の重症肺結核に於て甚だ多數に足蹠の大なるものあるを見る、女子に於ては輕症肺結核に稍々著明に多きを見る。

次に比足長につき觀るに、

	重症肺結核	輕症肺結核	非 結 核	患者の平均
男	14.7	14.7	14.5	14.7
女	14.7	14.3	14.6	14.5

絶對値と同様の關係を示せり。

次に全体の平均を超ゆるものゝ頻度は次の如し。

	重症肺結核	輕症肺結核	非結核
男	55.0%	58.0%	39.0%
女	72.0%	60.0%	75.0%

男子に於ては非結核に著しく足の大なるもの少し、他は其の差異著明ならず。

(13) 肋 骨 角

余の材料に於て見るに殆ど大部分は 90 度以下にして、平均値は盡く 90 度以下となれり。
尚ほ材料少數なる爲め之に言及するを避く。

第 12 表 肺結核群及び健康者群年齢分布

群 別	男						女					
	重症肺結核群		輕症肺結核群		健康者群		重症肺結核群		輕症肺結核群		健康者群	
年 齡 級	實數	%	實數	%	實數	%	實數	%	實數	%	實數	%
18~19							5	16.7	9	14.5	43	43.5
20~21	12	20.0	17	29.3	16	50.0	2	6.7	10	16.1	31	31.4
22~23	8	13.3	8	13.8	1	3.1	3	10.0	9	14.5	14	14.1
24~25	8	13.3	5	8.6	1	3.1	2	6.7	8	12.9	6	6.0
26~27	5	8.3	5	8.6	1	3.1	2	6.7	5	8.1	1	1.0
28~29	7	11.6	5	8.6	1	3.1	5	16.7	6	9.7		
30~31	5	8.3	5	8.6	2	6.3	1	3.3	2	4.8		
32~33	7	11.6	4	7.0	2	6.3	4	13.3	1	1.6	1	1.0
34~35	4	6.7	4	7.0	2	6.3	3	10.0	3	4.8	1	1.0
36~37	2	3.3	1	1.7			1	3.3	4	6.5		
38~39			1	1.7	1	3.1	1	3.3			1	1.0
40~41			1	1.7	1	3.1			2	3.2		
42~43			1	1.7	2	6.3			1	1.6		
44~45					1	3.1			1	1.6		
46~47	1	1.7			1	3.1	1	3.3			1	1.0
48~49	1	1.7	1	1.7	1	3.1						
計	60	99.8	58	100.0	32	99.8	30	100.0	62	99.9	99	100.0

第 4 章 總 括 及 び 考 案

余の研究によりて得たる結果を茲に總括考察するに當り、先づ其の材料に就き考察せんに、余の材料は男子は 20 歳より 49 歳者を、女子は 18 歳より 49 歳者を成人と見做したるは前述諸家の唱ふるところに照し支障なきものと思考す。

しかして之等の凡ての年齢階級を採り一括し、之に就き各測定値の平均値並に各測定階級の分布状態につき観察したり。

併して其の年齢的分布状態は(第10表及び第12表)各群共に密なる分布を示すは最小年齢より35歳者級迄にして、夫れより年齢を増すに従ひ極めて稀薄なる分布を示せり。

然るに唯獨り非結核性疾患々者群に於ては高年級に至る迄稍々平等なる分布を呈せるを見たり、故に其の測定結果を比較研究するに當りては非結核性疾患々者群より得たるものを其他の3群のものと同一視得ざるべし、何となれば成人期に於ても体重の如きは高年級に向ふに従ひ漸次尙ほ増加を來すべきを以てなり、尙ほ非結核性疾患々者群に含まるゝ所の疾病種類は多種多様なを以て、此の1群より得たる結果は1群としての特殊性を具有するものにあらざるは言を待たず。故に余はこの1群を除外したり。

今重症肺結核群、輕症肺結核群及び健康者群に就き其の結果を比較研究するに、前章に於て記述せる如くなるも、其等各項を通覽するに特に著明なる差異を示せるものは身長、胸圍、指極にして、他の各項は各群別に觀るに其の差異著明なりとは言ひ難し、しかも之等3項目たるや姿質判定上最も重要且つ適當なるものなるを以て之等に就き茲に總括考察せんとす。

1. 姿質各項に於ける各群の差異の比較

之等3項に就き統計學的に整理し之を比較し、且つ之等各項の相互關係を明かにせんとし、前者の目的に對し累積度數曲線の比較をなし、後者に對しては相關係數を求めたり。

(i) 累積度數曲線の比較

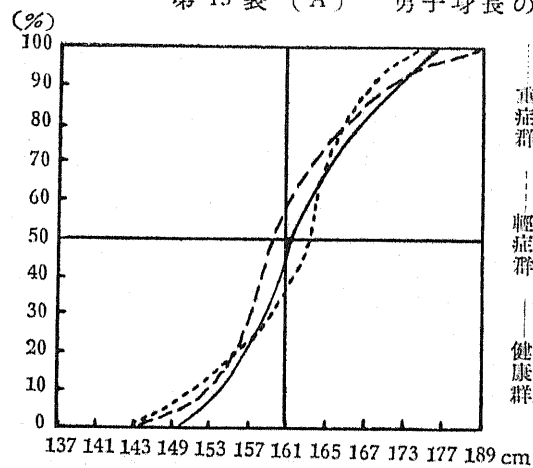
身長、指極、胸圍に就き得たる測定値は比較觀察を便ならしむる目的を以て各身長に對する百分比を算出し、之等を累積度數(%)分布曲線を以て表したるに各項目に於て之等各群は各互に相異りたる關係を示せども、男女に於て各群は各他群に對する略々同一關係にあるが如き甚だ興味ある事實を呈せり。

(a) 身長

絕對値に就き累積度數(%)を以て曲線を作圖し比較するに男子に於ては第13表Aの如し。

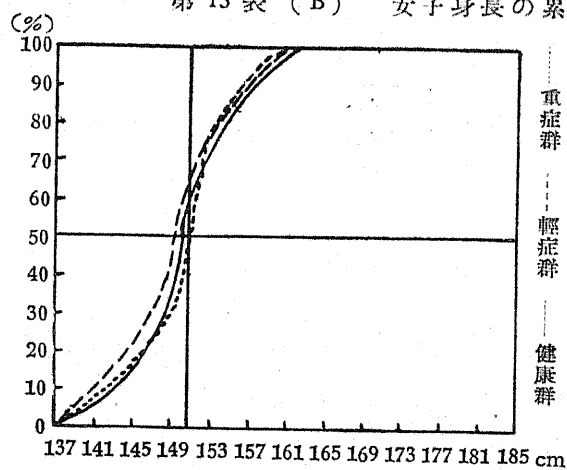
平均値は重症肺結核群最大して162.2 cm、之に次ぐは健康者群にして161.1 cmを示し、輕症肺結核群は最も小にして158.8 cmを示せり。更に吉田氏の日本壯丁身長の平均値と文部省の全國學生身長の平均値中間値161.0 cm以上を本邦成人男子の中等上位又は身長大なるものと看做し、夫れより高きものと低きものとに就き其の分布の百分率を見るに、161.0 cm以下の身長者は重症肺結核群に於ては38.4%、健康者群に於ては51.0%、輕症肺結核群に於ては59.0%を示し、重症肺結核群にては161.0 cm以上のものが過半数(61.6%)を占め、健康者群に於ては殆ど兩者相半す。而して輕症肺結核群に於ては低きものは過半数を占むるを見たり。

第 13 表 (A) 男子身長 of 累積度数曲線の比較



群 別	重症群	軽症群	健康群
人 員	60	58	32
級 (cm)	累 積 度 数 (%)		
137~145		1.7	
145~153	15.0	8.6	6.3
153~161	36.7	60.3	50.0
161~169	90.1	86.1	81.4
169~177	100.2	96.5	100.2
177~185		100.1	

第 13 表 (B) 女子身長 of 累積度数曲線の比較



群 別	重症群	軽症群	健康群
人 員	30	62	99
級 (cm)	累 積 度 数 (%)		
137~145	16.7	20.9	13.1
145~153	76.8	74.2	72.7
153~161	100.0	99.6	99.0
161~169			100.0
169~177			
177~185			

又女子に於て同様の観察をなすに(第 13 表 B) 其の平均値は男子と同様重症肺結核群は最大にして 151.0 cm, 之に次ぐは健康者群にして 150.8 cm, 軽症肺結核群は 149.2 cm にして最少なり。

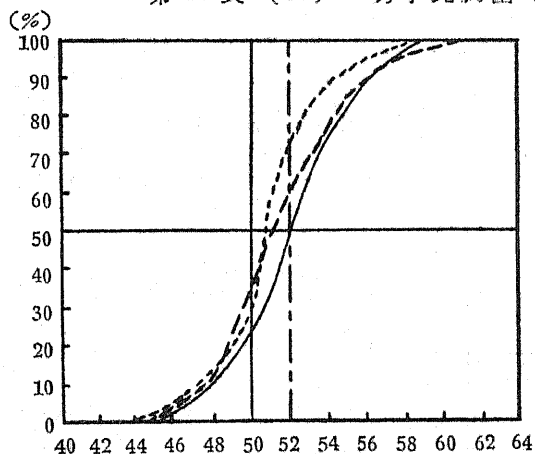
又竹内氏の本邦成人女子長身者職業群の平均身長 of 最下位に相當する 151.0 cm を標準として夫れより大なるものを本邦成人女子の長身者と見做し、之に相當するもの、分布の百分率を各群別に見るに重症肺結核群に於ては 51.8%, 健康者群にては 45.6%, 軽症肺結核群は 44.5% にして略々男子に於けると同様な關係にあるを觀たり。即ち重症肺結核群に於ては男女共に身長大なるもの他の 2 群に比し著しく多數なるを知る。

(b) 胸 圖

胸圍に就ては身長に對する百分比即ち比胸圍の累積度数(%)曲線を作り各群を比較せんに、男子(第14表A)の比胸圍の平均値は重症肺結核群は50.7、輕症肺結核群は51.7、健康者群は52.2して健康者群最大にして重症肺結核群は最小なり。更に同曲線に就き比胸圍50以下なる Brugsch の所謂狭胸型 (Engbrustig) に就き觀るに男子の重症肺結核群に於ては30.0%、輕症肺結核群に於ては35.0%、健康者群に於ては21.0%に狭胸型に屬するものを認めたり。

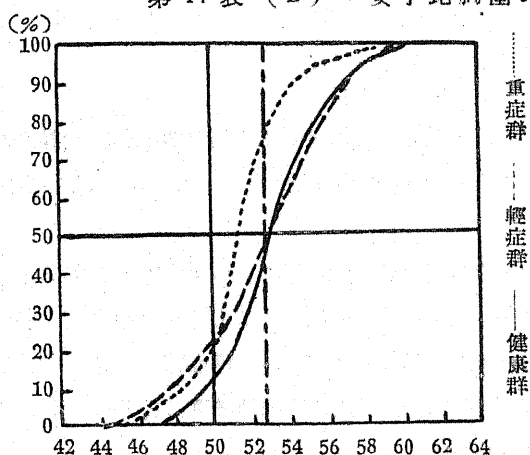
尙ほ通常胸型 (Normobrustig) の中位即ち比胸圍52.0を境とし、夫れより小なるものに就き觀るに健康者群に於ては其の半數は之に屬し、輕症肺結核群に於ては50.7%を示し健康群と大差なきも、重症肺結核群は71.6%は之に屬し、他群に比し甚だ多數にして全員の3分の2以

第14表 (A) 男子比胸圍の累積度数曲線の比較



群 別	重症群	輕症群	健康群
人 員	60	57	32
級	累積度数 (%)		
40~44			
44~48	16.6	12.3	9.5
48~52	70.0	54.4	50.0
52~56	95.0	89.5	90.5
56~60	98.3	100.0	100.0
60~64	99.9		

第14表 (B) 女子比胸圍の累積度数曲線の比較



群 別	重症群	輕症群	健康群
人 員	29	62	32
級	累積度数 (%)		
40~44		1.6	
44~48	10.3	6.4	1.0
48~52	62.0	37.1	32.5
52~56	96.3	82.3	85.0
56~60	99.8	96.8	98.4
60~64		100.0	100.0

上は比胸圍は通常胸圍の中等位以下にあり。

同様の觀察を女子に於てなすに(第14表B)比胸圍平均値は重症肺結核群は51.1, 輕症肺結核群は53.0, 健康群は53.3にして男子に於けると同様の關係にあり。又狹胸型の割合は重症肺結核群は20.6%, 輕症肺結核群は24.6%, 健康者群は13.3%なり。又女子に於ては通常胸型の中位を比胸圍53.0(余の健康者群の平均比胸圍)とし男子と同様の觀察をなすに, 健康者群は47.0%, 輕症群は50.0%, 重症群は73.0%に於て之以下なるものあり。即ち男女を通じて肺結核に於ては比胸圍小なるもの健康者群に於けるよりも多く, 特に比胸圍50以下なる狹胸型は著明に健康者群に於けるよりも多く, しかも斯かるものは輕症肺結核群に於て重症肺結核群に於けるよりも多きを認めたり。

今之を de Giovanni, Kretschmer 氏等の姿質に照合せば, 之等の肺結核群に於ては無力型乃至肺癆姿質に屬するもの多しとなし得べく, Brugsch 其他先人諸家の從來唱ふる所と一致する所なれども, 特に其の強度なるものに至っては重症肺結核群に於けるよりも寧ろ輕症肺結核群に於て稍々多數に見らると云ひ得べし。

(c) 指 極

指極に關しても同様比指極に就き其の累積度數(%)を曲線に作圖し之を比較するに, 男子(第15表A)に於ける平均値は健康者群102.2, 輕症肺結核群101.5, 重症肺結核群101.6にして, 健康者群, 輕症肺結核群, 重症肺結核群の順位にあり。

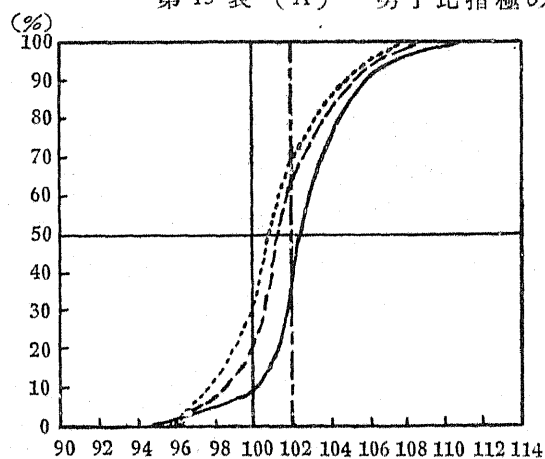
次に比指極100.0以下即ち指極が身長より小なるものに就き觀るに男子は重症肺結核群に於ては33.3%, 輕症肺結核群は19.7%, 健康者群に於ては9.4%に於て之を見る。

女子に於て同様の觀察をなすに(第15表B)平均値は重症肺結核群は99.6, 輕症肺結核群は100.2, 健康者群は100.7にして其の順位は男子に於けると同様なり。

尙ほ比指極100.0以下なるものゝ割合を觀るに, 重症肺結核群は55.5%, 輕症肺結核群は48.0%, 健康者群は30.4%を示し, 男子と同様の關係を示すも甚だしく高率なり。しかれども男子に於ても余の健康者群の平均比指極102(本邦壯丁の平均比指極)を境とするときは健康者群に於ては40.6%, 輕症肺結核群に於ては56.9%, 重症肺結核群に於ては58.3%に於て平均比指極以下なるものを見, 女子に於けると略々同様なり。

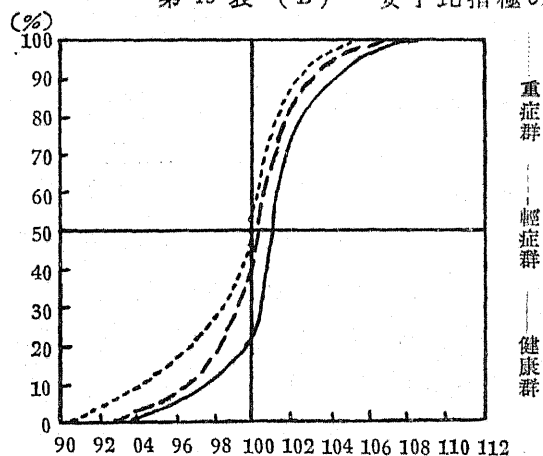
しかして余の中學生及び看護婦に於て得たる結果より觀るに, 本邦人に於ては男女共に17年以上に於ては比指極の平均値は100以上たるを認めたり, 尙ほ先人の本邦人に就き得たる成績も概ね同様にして, 三島博士は小兒期に於ては各年齡級に於て指極の平均値は決して身長を超えざるを報告せり。即ち肺結核群に於ては前項胸圍に就き觀たるが如く無力型乃至肺癆姿質に類する姿質を有するもの多く, 又比指極より觀る時は指極の短小なるもの多きを觀る, 今先人並に余の中學生及び看護婦に於て得たる成績に見るが如く, 斯かる体構は小兒に於て一般的

第 15 表 (A) 男子比指極の累積度数曲線の比較



群 別	重症群	軽症群	健康群
人 員	60	58	32
級	累 積 度 数 (%)		
90~94			6.2
94~98	8.4	7.6	53.1
98~102	61.5	67.6	93.6
102~106	100.1	90.6	96.7
106~110		98.2	99.8
110~114		99.7	

第 15 表 (B) 女子比指極の累積度数曲線の比較



群 別	重症群	軽症群	健康群
人 員	30	61	99
級	累 積 度 数 (%)		
90~94	10.0	1.6	1.0
94~98	26.6	16.4	11.1
98~102	89.8	85.2	73.6
102~106	99.8	98.2	96.9
106~110		99.9	99.9
110~114			

なるものとすれば、之を小兒型乃至發育不全型の一症候となし得べくんば肺結核群に於ては無
力型及び發育不全型を多數に見ると云ひ得べし。

(ii) 相 關 係 數

身長、比胸圍及び比指極の3項目につき之等各項の相互の關係を明かにせんとし、相關係
數 Korrelations Koeffizient を求めて次の結果を得たり。

(a) 身長と比胸圍との相關係數

男 子		女 子	
健 康 者 群	- 0.58	健 康 者 群	- 0.34
輕 症 肺 結 核 群	- 0.67	輕 症 肺 結 核 群	- 0.32
重 症 肺 結 核 群	- 0.34	重 症 肺 結 核 群	- 0.33

即ち各群とも身長と比胸圍とは逆相關を示す。

(b) 身長と比指極との相關係數

男 子		女 子	
健康者群	- 0.20	健康者群	+ 0.004
輕症肺結核群	- 0.36	輕症肺結核群	- 0.35
重症肺結核群	+ 0.07	重症肺結核群	- 0.17

輕症肺結核群に於てのみ相關あるが如し。

(c) 比胸圍と比指極との相關係數

男 子		女 子	
健康者群	+ 0.28	健康者群	+ 0.24
輕症肺結核群	+ 0.50	輕症肺結核群	+ 0.20
重症肺結核群	+ 0.37	重症肺結核群	+ 0.32

各群とも正の相關を認め得べし。

以上統計學的の所見を茲に綜合考察せんに、肺結核群に於て見る姿質は長身にして狭胸且つ比指極短小なりと云ひ得べし、而して斯かる所見は已に Stefkow も 1928 年、氏の Beitr. z. Frage nach der Konstitution der Tuberkulose auf Grund der anatomisch-anthropologischen Aufgaben なる論文に於て同様な結果を報告したり。

尙ほ前述の發育不全型乃至小兒型姿質と無力型姿質とに關しては從來屢々兩者を同一個体に同時に發見せらるゝものとせられ、或は發育不全型乃至小兒型を以て無力型の部分的兆候とし、或は兩者は同時に存することあれども本來別個のものにして、只其の混合型として見らるゝ場合尠からずとなすもの等あり。今余の成績を見るに、比指極 100 以下なるものと比胸圍 50 以下なるものとは肺結核群に於て健康者群に於けるよりも多數にして、比胸圍比指極の相關係數は各群とも正の相關あるを知れり、即ち比胸圍 50 以下なるものを無力型乃至肺癆姿質、比指極 100 以下なるものを小兒型乃至發育不全型と看做す時は、肺結核患者に於ては無力型にして同時に發育不全型乃至小兒型なるもの多數存するを知る。

然れども之等兩者の關係を尙ほ詳細に檢したるに次表の如き成績を得たり (第 16 表)。

即ち比の表に見るが如く、比指極の小と比胸圍の小とは必ずしも全くは一致するものに非ずして、特に男女を通じ重症肺結核群に於ては、比指極 100 以下にしてしかも比胸圍 50 以上なるもの可成りに多數存するを知る。

而して輕症肺結核群に於ては相關係數も示すが如く、他の 2 群に於けるよりも著明に兩者の一致を見たり。

尙ほ兩者の各群に於ける出現率を見るに、男女を通じ比指極 100 以下なるものゝ出現率は、比胸圍 50 以下なるものゝ出現率に比し肺結核群と健康者群との差異更に著明なること表

第 16 表 (A) 比 胸 圍 と 比 指 極 (男 子)

群 別 區 分	重 症 群	輕 症 群	非 結 核 群	健 康 群
比指極 100.0 以下	60 人中 20 人 33.3 %	56 人中 11 人 19.7 %	32 人中 5 人 15.6 %	32 人中 3 人 9.4 %
比胸圍 50.0 以下	60 人中 18 人 30.0 %	56 人中 20 人 35.7 %	32 人中 6 人 18.7 %	32 人中 7 人 21.8 %
比指極 100.0 以下 比胸圍 50.0 以下	60 人中 7 人 11.7 %	56 人中 9 人 16.1 %	32 人中 2 人 6.3 %	32 人中 2 人 6.3 %
比指極 100.0 以下 比胸圍 50.0 以上	60 人中 13 人 21.6 %	56 人中 2 人 3.5 %	32 人中 3 人 9.4 %	32 人中 1 人 3.1 %
比指極 100.0 以上 比胸圍 50.0 以下	60 人中 11 人 18.3 %	56 人中 11 人 19.7 %	32 人中 4 人 12.5 %	32 人中 5 人 15.6 %
比指極 100.0 以上 比胸圍 50.0 以上	60 人中 29 人 48.5 %	56 人中 34 人 61.0 %	32 人中 23 人 72.0 %	32 人中 24 人 75.0 %

第 16 表 (B) 比 胸 圍 と 比 指 極 (女 子)

群 別 區 分	重 症 群	輕 症 群	非 結 核 群	健 康 群
比指極 100.0 以下	29 人中 16 人 55.0 %	61 人中 29 人 48.0 %	25 人中 6 人 24.0 %	99 人中 30 人 30.4 %
比胸圍 50.0 以下	29 人中 6 人 20.6 %	61 人中 15 人 24.6 %	25 人中 7 人 28.0 %	29 人中 13 人 13.2 %
比指極 100.0 以下 比胸圍 50.0 以下	29 人中 4 人 3.8 %	61 人中 13 人 21.4 %	25 人中 3 人 12.0 %	99 人中 3 人 3.3 %
比指極 100.0 以下 比胸圍 50.0 以上	29 人中 12 人 41.0 %	61 人中 16 人 26.2 %	25 人中 3 人 12.0 %	99 人中 27 人 27.3 %
比指極 100.0 以上 比胸圍 50.0 以下	29 人中 2 人 6.9 %	61 人中 2 人 3.3 %	25 人中 3 人 12.0 %	99 人中 10 人 10.1 %
比指極 100.0 以上 比胸圍 50.0 以上	29 人中 11 人 38.0 %	61 人中 30 人 49.1 %	25 人中 16 人 64.0 %	99 人中 59 人 59.6 %

示の如し。

男子に於ては比指極 100 以下なるもの、肺結核群に於ては健康群 (9.4%) の 2 倍 (19.1%) 又は 3.5 倍 (33.3%) の多數に於て、又女子に於ては健康群 (30.4%) の 1 倍半 (48.0%) 又は 1.8 倍 (55.0%) に見るも、比胸圍 50 以下なるものは、男子に於ては健康者群 (21.8%) の 1.6 倍又

は1.4倍を見、女子に於ては健康群(13.2%)の1.9-1.6倍を見るのみ。

故に肺結核患者特に重症肺結核患者の姿質検討に際しては、胸圍は勿論重要な項目なれども、比指極は之と同様の重要性を有するものにして然も前者と異なる姿質的意義を有すべきものなるを以て、之又一の重要な測定項目なりと思考す。

第17表 各群職業分布
(男 子) (女 子)

群 別	重症群		輕症群		健康群		群 別	重症群		輕症群		健康群	
	實數	%	實數	%	實數	%		實數	%	實數	%	實數	%
軍 人	1	1.7					學 生	2	6.7	4	6.5		
學 生	10	16.7	10	17.3	15	47.0	教 師	1	3.3	1	1.6		
教 師	1	1.7	2	3.5	1	3.1	事 務 員						
事 務 員	6	10.0	2	3.5	2	6.3	商 業	3	10.0	6	9.7		
僧 侶	1	1.7	1	1.7			農 業	9	30.0	24	38.7		
鐵道從業員	3	5.0	1	1.7			看護婦	1	3.3	2	3.2	88	89.0
船 員	1	1.7	1	1.7			美容師					11	11.1
商 業	8	13.3	11	19.0			無 職	14	46.6	25	40.4		
農 業	23	38.4	25	43.0									
工場職工	2	3.3	3	5.2									
坐 業			1	1.7	3	9.4							
料理人					11	34.4							
無 職	4	6.7	1	1.7									
計	60	100.2	58	100.0	32	100.2	計	30	99.9	62	100.1	99	100.1

2. 姿質各項に於ける各群の差異成立に関する考察

從來身長發育に影響を及ぼし、又は之を支配する要約としては遺傳、職業、疾病等種々擧げられたところなるも、余の結核の2群に於ける職業的分布は第17表の如くにして、大体に於て諸家の所謂長身者職業群に屬するものと、低身者職業群に屬するものとは互に相半ばし、對照たる健康者群の大部分の長身者職業群たる學生及び事務員なるにも拘らず重症群に於ては著しく長身者多數なるを見る、之れ職業的形響によると解するより他に其の説明を求めざる可からず。一方結核による影響は從來諸家の等しく憶測する所にして、Kallos は結核感染と甲状腺機能との關係を検し其の機能の亢進ある或種良性結核の初期に於て長育の亢進あるを認め、又本邦兒童に關しては高橋氏等は男子はツベルクリン反應陽性兒童に於て長育旺盛なりとし、女子は然らずとなし、男女相反の關係を示すとなすも、砂川氏等は然らずとなす、しかれども發育期に於ける輕度の結核菌浸襲は長育の亢進を來すべしとは一般に考ふるもの多きが如し。

然るに一方重症肺結核の成立を考慮するに、之等の結核の大部分は青年期に於て成立するもの多しとの説に従へば、發育の時期的關係より見て結核が發育（長育）を害すること尠かるべし、何となれば結核成立前に已に完全なる發育を遂げたるものなればなり。故に之等重症肺結核群の長育は結核の影響と云ふよりも遺傳的因子が重きをなすなりと考へ得べく、今輕症肺結核群に就き余の成績を見るに、身長の平均値は最小にして且つ健康人平均身長より小なるものも3群中最も多數なり、之れ後述するが如き理由により比較的年少時より結核の影響を受けたるものとなせば説明し得可きか。

次に肺結核の狭胸成立に關して考察するに、Redeker, Mende, Ickert 氏等は年少時に於ける重感染の結果なりとし、又 Kallos は前述の如く或種良性初期結核に狭胸の成立を見るとなす。

今余の成績を觀るに、比胸圍は結核群に於て小なるもの多數にして且つ重症群に於けるよりも輕症群に於て著明に狭胸型なるを見たり、之を前述諸家に従へば年少時の重感染の結果狭胸を招來したるものなりと考ふ可きか、若し然りとすれば、生体免疫學的にも比較的抵抗を生じ従つて輕症なる経過をとるもの多しと考へ得べく、疾病の影響が大なる役目を演ずるものと思考せらる。

指極に關しては之に遺傳的に重大なる意義を附するあり、Pearson は遺傳に關する相關係數を求め + 0.46 なる係數を得て、之を虹彩の色調、身長と共に遺傳濃厚なるものとなせり、又一方 Berlz 博士は職業的差異を挙げ肉體的勞働をなす職業及び運動家等に於ては比指極大なるが如しとなし、Stefkow は肺結核患者の比指極の短小を職業的差異に因するものならんとなすも、余は次の理由に由り、肺結核患者に於ける指極の短小は主として病機の結果なることを考慮せざる可からざるものと思惟す。

即ち余の結果に見るに、肺結核群に於ては男女共に健康者群よりも比指極 100 以下なるもの多數にして、特に重症群に於ては輕症群に於けるよりも更に多數に斯の如きを見る。之れ果して如何なる要約により斯かる差異を來せしならんか、之を Kallos の如く職業的差異となすべきや否やを檢せんに、各群の職業的分布は肺結核群に於ては比較的指極大なるべき肉體的勞働を營む職業群農業に従事するもの健康者群に於けるよりも多數なるに、却つて比指極は之等に於て小なるを見る、又肺結核の2群に於ては、其の職業分布は殆ど同様なるに而も重症群に於て多數に斯かるものを見たり、故に之を職業的の差異なりとは解し得ず、進んで結核感染乃至罹病の結果によるものとすべきかの因子に就ては、即ち結核病機の結果指極の短縮を來す場合は多くの人々の考ふるが如く、第一に胸廓上部の萎縮に伴ふ二次的變化として來る場合、第二は上肢の短小によるものならん、然して余の成績は比指極、比胸圍の相關係數は肺結核の2群に於ては可成り濃厚なる相關の存すべきを示すに、健康群に於ける係數は兩者の相關は殆ど

無きが如きを示せり。又一方身長比指極の相關に於ても只濁り輕症肺結核群に於てのみ逆相關あるを見たり。

即ち結核の有無により甚だ著明なる差異を示せるを以て結核なる因子が重大なる役目を演ずるものなるべし。換言すれば、比指極比胸圍は病機によりて甚だ影響せらるゝこと大なるものなるべし、しかも比胸圍と比指極の相關は男子輕症群に於ては最も著明なる一致を示すは、病機に影響せらるゝこと大なるを暗示するものなるべし。

第二の上肢の長さは前節に示せるが如く肺結核は一般に短小なり。之を要するに元來比指極は遺傳によるものならんも、然も肺結核患者に於ては感染乃至罹病の結果により左右せらるゝこと大なるものならんか。

即ち以上考察せるところを約言すれば、肺結核患者の姿質形成には遺傳的因子は勿論除外し得ざれども、結核感染乃至罹病が大なる役目を演ずるものにして且つ其の感染及び経過の時期的差異並に感染方法が更に重輕両者間に於ける差異を生ずるものなるべし。

結 論

余は健康人並に重輕症肺結核患者に就て其の体質特に姿質を研究せんとし、マルチン氏の人類學的測定法に測り身体各部を測定し其の成績より次の結論を得たり。

1. 身長、胸圍、指極は全測定値中其の平均値及び分布狀態に於て肺結核患者群と健康者群との間に比較的著明なる差異を示す。
2. 身長は重症肺結核群に大なるもの多し。
3. 胸圍は肺結核患者群は健康者群に比し小なるもの多く、特に狹胸型は輕症肺結核群は重症肺結核群に於けるよりも幾分猶ほ多き傾向にあり。即ち肺結核患者には無力型なるもの多し。
4. 比指極は健康者群に於ては男子は大多數に於て、女子は約 $\frac{2}{3}$ に於て 100 以上なるが、肺結核群に於ては健康群に於けるよりも男子は 2 倍又は 3 倍の高率に於て、女子は 1 倍半乃至 2 倍の率に於て比指極 100 以下なるものを見る。即ち肺結核患者には所謂發育不全型なるもの多し。
5. 前記の無力型姿質及び發育不全型姿質は同時に存すること多きものなり、換言すれば両者は相一致すること多きものなり。
6. 肺結核患者に於ては比胸圍による差異の出現率よりは比指極による差異の出現率は更に著明なり、即ち比指極測定は肺結核患者の姿質判定上重要な 1 項目なり。
7. 以上の重症輕症種々なる肺結核患者の姿質の攻究よりして、猶其の姿質の成立に關しては遺傳的素因は勿論考慮せらるべき重要項目なるも、然も尙ほ結核感染の影響によることも

亦大なるものなるべしと推論す。

稿を終るに當り、親しく御指導を賜はりし恩師故竹村教授、並に現主任石川教授に深く感謝の意を表す。

文 献

- Abderharden:** Handb. d. Biologischen Arbeitsmethoden. Abt. 9. Teil 3. 1923. **Assmann:** Hämatogene Lungentuberkulose des Erwachsenen. Med. Klin. 1932. 2. 1325-1336. **Bauer:** Konstitutionelle Disposition z. inn. Krankheiten. 3. Aufl. v. Julius Springer. 1924. S. 5-4. **Bauer, I.:** Konstitutionspathologie 1. Habitus u. Morbidität 1. Deutsch. Archiv Klin. Med. Bd. 126, 196. 1918. **Berliner, Max:** Entwicklungsalter u. Pubertät: Die Biologie d. Person. Bd. 2, 221, 1931. **Borchardt:** Klinischen Konstitutionslehre. Verlag v. Urban Schwarzenberg. 291, 1924. **Brandt, W.:** Die Entwicklung des Typus der Konstitution des Menschen, ein biologische Problem. Erg. Anat. Bd. 28, 430, 1929. **Borchardt, L.:** Die Anthropometrie in Dienste der klinischen Konstitutionsforschung. Dtsch. med. Wochenschr. 1924, 1318. **Braunling, H. u. Nissen:** Die Prognose der Offenen Lungentuberkulose. Tbk. Bibl. Nr. 52, 1933. **Braunling-Redeker:** Haematogene Lungentuberkulose des Erwachsenen. Verlag v. Johann Ambrosius Barth. 1931. **Brugsch, Th.:** Biologie d. Person. Bd. 1. 1926. Verlag v. Urban u. Schwarzenberg. 2) Konstitutionslehre: Klempeler: Neue Deutsche Klinik. Bd. 5, 623. 3) Allg. Prognostik. 1922. Verlag v. Gottlieb Gistei. 4) Ziel u. Wege der Konstitutionsforschung. od. die Personal Lehre. Med. Klin. 1922, 1082. **Burckhardt:** Virchow Archiv. Bd. 160, Nr. 12, 492. **Diehl, K.:** Konstitution u. Tuberkulose im Erwachsenenalter. Z. f. Tbk. Bd. 71, Heft 6. 415, 1934. **Eisenstadt:** Gibt es äussere Kennzeichen einer phthisischen Konstitution. Z. f. Tbk. Bd. 55, 27, 1929. **Engel u. Segall:** Die Altersdisposition. Handb. d. Kindertuberkulose. Bd. 1. Verlag. v. Georg Thieme 282, 1930. **Erwin Thomas:** Klinik u. Pathologie des Status thymico-lymphaticus. 1927. Verlag v. Gustav Fischer. **Fleischner:** Die Röntgendiagnose der Lungentuberkulose. Neuman; Klin. d. L. Tbk. Erwachsener. 2. Aufl. 1930. **Gerhardt:** Individualpathologie u. Krankheitslehre. Die Biologie d. Person. Bd. 1. 489. 1926. **Hackel:** Pathologisch-Anatomische und Anthropometrische Studien über Konstitution. Z. f. Konstitutionslehre. Bd. 16, 63, 1932. **Hart:** Berlin. Klin. Wochenschr. Nr. 45. 2024, 1912. **Hayek:** Tuberkulose Problem. 1927. Verlag v. Julius Springer. Immunbiologie-Dispositionen u. Konstitutionsforschung. Tuberkulose. 1921. Verlag. v. Julius Springer. **Hoch:** Tuberkulose u. Umwelt. Tbk. Bibl. Nr. 47, 1932. **Hottinger:** Epidemiologie über die Tbk. in Kindesalter. Tbk. Bibl. Verlag v. Johann Ambrosius Barth. Nr. 44, 12, 1932. **Ikert Eranz:** Deutsch. med. Wochenschr. N4. 45, 1929. **Jaensch, Walter:** Konstitution-u. Erbbiologie in der Praxis d. Medizin. Verlag v. Johann Ambrosius 1934. **Johansen:** Elemente der Exaktem Erblchkeitslehre. 3 Aufl. 1927. **Kallos, P.:** Tuberkulose u. Konstitution. Z. f. Konstitutionslehre. Bd. 14. 1923. **Koch, R.:** Die Ätiologie der Tuberkulose. zit. in Klin. Wochen-

- schr. 1932. Nr. 12, 492. **Kraus, Fr.:** Über konstitutionelle Schwäche des Herzens. v. Lenthold. Festschrift. Bd. 1. Verlag. v. Hirschwald. 1934. **Kransky:** Konstitutions-typus d. Kinder. Verlag v. Karger. S. 13, 1930. **Kreischner:** Körperbau u. Charakter 9te u. 10te Aufl. Verlag v. Julius Springer. 1931. **Klare, K.:** Konstitution u. Tuberkulose in Kindesalter. Z. f. Tbk. Bd. 71, Heft 6, 413, 1934. **Kurl, Klare:** Konstitution u. Lungen Infiltrierung. Verlag v. Ferdinand. Enke. S. 5, 1930. **Lescheke:** Z. f. Tbk. Bd. 27, 1917. Schenk. Beitr. f. klin. d. Tbk. Bd. 76, 121-129. **Mayer, A. E.:** Z. f. Tbk. Bd. 29, Heft 5. **Lydin, K.:** Klinische Untersuchungen über hämatogene u. bronchogene Formen der Lungentuberkulose. Tbk. Bibl. Nr. 45. **Martin, R.:** Anthropometrie. Verlag v. Julius Springer. 1925. **Martin:** Disposition u. Konstitution. Individuelle Prophylaxie. Handb. d. Tuberk. Bd. 1. Verlag v. Johann Ambrosius. 425-435, 1923. **Mohr:** Klinische Beiträge zur Status thymico-lymphaticus. Berl. klin. Wochenschr. 1908. **Müller, F.:** Med. Wochenschr. 69, Nr. 11. **Münchbach:** Das Sicksal des lungentuberkulösen Erwachsenen. Tbk. Bibl. Nr. 49, 1933. **Naegeli, O.:** Allg. Konstitutionslehre. Verlag v. Springer S. 9. 1934. **Naegeli, O.:** Müuch. med. Wochenschr. Nr. 15, 621, 1929. **Nagai, S.:** Die Körperkonstitution d. Japanern. Biologie der Person. Bd. 2. 425-504, 1931. **Neuer, I. u. Feldweg, P.:** Körperbau u. Lungenphthiße. Z. f. Konstitutionslehre. Bd. 13, 110, 1928. **Neumann:** Klinik d. Lungentuberkulose Erwachsener. 2. Aufl. 1930. **Nissen, W.:** Der Kopf des Kindes in seiner Entwicklung. Z. f. Konstitutionslehre. Bd. 16, 548, 1932. **Pribram, H.:** Klinische Beobachtung z. Kenntnis Status Lymphaticus. Z. f. Klin. Med. 81, 120, 1915. **Rosenstern, I.:** Über die Körperliche Entwicklung in der Pubertät, Ergebnis. d. inn. Med. u. Kinderheilk. Bd. 41, 1931. **Rubinstein:** Spitzenprozesse. Tbk. Bibl. Nr. 56, 1934. **Sotke, O.:** Die Konstitutionelle Disposition zur Tuberkulose. Z. f. Konstitutionslehre. Bd. 15, S. 545, 1931. **Schenck, U.:** Über die Bedeutung v. Konstitution u. Kondition für die Entstehung. d. Lungentuberkulose. Beitr. z. Klin. d. Tbk. Bd. 71. Heft 121-129. **Schlesinger, E.:** Habituswechsel im Kindesalter. Z. f. Konstitutionslehre. Bd. 17. 559, 1933. **Schüler:** Über Körperbau u. Tuberkulose. Die Beziehungen von Körperformen u. Konstitutionsanomalien zur Lungentuberkulose. Z. f. Tuberkulose. Bd. 71. 292. 1934. **Siemens, H. W.:** Einführung in die allgemeine Konstitutions und Vererbungspathologie. Verlag v. Julius Springer, 1921. **Sorgo:** Wiener med. Wochenschr. Jg. 73, 1927. **Stefkow:** Beitr. z. Frage nach der Konstitution der Tuberkulose auf Grund der anatomisch-anthropologischen Aufgaben. Z. f. Konstitutionslehre. Bd. 13, 140, 1928. **Simon-Redeker:** Praktisches Lehrbuch d. Kindertuberkulose. 2te Aufl. Verlag v. Curt Kabitzsch. 1930. **Staerk u. Horak:** Zur Klinik d. Lymphatismus. Berlin u. Wien. 1913. **Strauss:** Über den Habitus Asthenicus und seine klinische Bedeutung. Berlin. klin. Wochenschr. Nr. 5, 207, 1910. **Turban:** Die Vererbung des Locus minoris resistentiae bei Lungentuberkulose. Z. f. Tbk. Bd. 1. 1900. **Viola u. Pende, N.:** Die italienische Konstitutionsforschung. Ergebnisse der gesamten Medizin. Bd. 10. **Wenckebach, Zit Haynek:** Immunbiologie-Dispositions-u. Konstitutionsforschung Tuberkulose. Verlag v. Julius Springer. 20. **有馬英二:** 結核と体質. 診断と治療臨時増刊. 昭和3年2月. 402-429. **秋田義雄:**

學齡兒童の身体各部發育及び比例に關する研究。東京醫學會雜誌。第44卷。第1號。昭和5年1月。
長谷川卯三郎：日本人の頸部形態學的研究。胸廓体型知見補遺。東京醫學會雜誌。第39卷。第8號。
大正15年。**長谷部言人**：壯丁の身長より見たる日本人の分布。東北醫學雜誌。第2卷。40。大正
7年。**深田實一**：胸膜炎患者の体格に關する研究。海軍々醫會雜誌。第21卷。第3號。昭和7年6月。
日置親部：體質に關する研究。第1報。日本內科學會雜誌。第20卷。277-282。**稻田龍吉**：疾病。
治療と體質。診斷と治療臨時増刊。昭和3年2月。1-33。**井出潔**、**渡部秋雄**：茨城縣地方學童
Mantoux 皮內反應檢査成績並に之と頸部淋巴腺腫脹及び榮養との關係に就て。結核。第14卷。第
1號。16。昭和11年1月。**今村荒男**：採用時に於ける結核に關する體質の診斷及び淘汰。勞働科學
研究。第7卷。第1號。69。**岩原拓**：各種体格指數を以て觀察せる本邦在學者の平均体格。第2回体
育研究會誌。48。昭和6年8月。**板澤政治**：肺結核に關する統計的觀察及び研究。保險醫學雜誌。
第110號。**古屋芳雄**：醫學統計法の理論と其の應用。昭和9年。**栗山重信**：ツベルクリン反應
成績の年齡的差異。診斷と治療。臨時増刊。昭和8年12月。674。**熊谷岱藏**：肺結核。日本內科學
會雜誌。第20卷。第1號。47。**三谷茂**：社會階級別に觀察したる初生兒及び母の体格。民族衛生。
第1卷。第6號。昭和7年。**大山稻三郎**：生産年齡に於ける日本人の標準体格に就て。愛知醫學會
雜誌。第33卷。大正15年。565。**佐々木等**：生体の手掌面積及び足趾面に關する研究。第2回体育
研究會々誌。昭和6年4月。第3回体育研究會々誌。昭和7年4月。**砂川正亮**：(1) 奈良縣に於ける
結核死亡者の統計的觀察。結核。第13卷。第1號。(2) 奈良縣中小學生に於けるツベルクリン皮內
反應の成績。結核。第13卷。第3號。187。昭和10年3月。**助川浩**：工場労働者の肺結核に關する
研究。其の1。性及び年齢と肺結核罹患性。其の2。体格及び体力と肺結核罹患性。勞働科學研究。
第9卷。第1號。**高橋潤二**：學童のツベルクリン皮內反應と身体檢査との關係。結核。第12卷。第
3號。昭和9年。**高島彪雄**：結核。第8卷。第1號。**竹内茂代**：(1) 日本人女子の坐高及び下脚
長。第3回体育研究會誌。昭和7年4月。115。(2) 日本女子の體質に關する研究。第1編。日本女子の
身長。下肢及び坐高に關する研究。東京醫學會雜誌。第46卷。2253。**角田眞一**：壯丁の體質型に
就て。軍醫團雜誌。第205號。**八木高次**：坐高の測定と其の意義。勞働科學研究。第5卷。第3號。
昭和3年9月。**吉田章信**：(1) 日本人の身体發育。優生學。第5年。昭和3年。(2) 身長。体重及び
頭圍測定成績の綜合的觀察に基づく日本人身体發育の民族的固有性に就て。醫事公論。第754號。
1799號。昭和2年。(3) 日本人の脚長。体性。第18卷。第6號。22。(4) 体育。衛生統計類纂。第5版。